緑と水の森林ファンド

緑と水の森林ファンド公募事業報告集

Vol. 16

特定非営利活動法人 SCR　自然にふれよう山のがっこう（宮城県）

公益社団法人　国土緑化推進機構

はじめに

昭和63年に3月に「緑と水の森林基金」が創設されてから、38年余の歳月が経過しました。平成23年7月には、機構の組織が社団法人から公益社団法人に変更となったことに伴い「緑と水の森林基金」は「緑の水の森林ファンド」に名称を変更し、ファンドの運用収入を活用して森林資源の整備や水源かん養等の課題を中心に、「国民参加の森林づくり運動」推進のため幅広い事業を展開してまいりました。

平成27年9月の国連サミットで採択された持続可能な開発目標（SDGs）の達成や、人生100年時代におけるライフステージに応じた健康・教育・観光等への森林空間利用の促進、さらに2030年ネイチャーポジティブ、2050年カーボンニュートラルの実現等を念頭に、森林の重要性に対する理解の推進を図るとともに、森のようちえんなど新たな森林の利用や森林環境教育の推進を具体的に図っていくことが重要となっています。さらに、東日本大震災、能登半島地震及び気障害では森林が多大な被害を受け、その復興への支援が引き続き求められています。

このような中で、当事業は、「国民参加の森林づくり」の一層の推進のための普及啓発、森林ボランティア活動への支援、森林環境教育を通じた次世代の育成などの課題を重点に、実施主体により中央事業、都道府県事業、公募事業の3つに区分し実施してまいりました。

本報告書は、このうち公募事業（令和6年度）の成果を報告集として取りまとめたもので、事業内容は多種多様な課題にわたっております。ご高覧いただき皆様の活動の一助としてご活用いただければ幸いです。

終わりに、本冊子のとりまとめに当たりまして、ご協力いただきました皆様方に心から御礼申しあげます。

令和8年3月
公益社団法人国土緑化推進機構

緑と水の森林基金・ファンド　刊行物一覧

「緑と水の森林基金」事業事例集　２１世紀へ引き継ぐ森林づくり　平成２年版　（１９９２.４）
「緑と水の森林基金」事業事例集　２１世紀へ引き継ぐ森林づくり　平成３・４年版（１９９４.８）
「緑と水の森林基金」事業事例集　２１世紀へ引き継ぐ森林づくり　平成５・６年版（１９９６.３）

緑と水の森林基金　公募事業　調査研究成果選集　ＶＯＬ１　緑と水のサイエンス　（１９９６.８）
緑と水の森林基金　公募事業　調査研究成果選集　ＶＯＬ２　緑と水のサイエンス　（２００１.７）
緑と水の森林基金　公募事業　調査研究成果選集　ＶＯＬ３　緑と水のサイエンス　（２００４.６）
緑と水の森林基金　公募事業　調査研究成果選集　ＶＯＬ４　緑と水のサイエンス　（２００７.８）
緑と水の森林基金　公募事業　調査研究成果選集　ＶＯＬ５　緑と水のサイエンス　（２００９.５）
緑と水の森林基金　公募事業　調査研究成果選集　ＶＯＬ６　緑と水のサイエンス　（２０１０.４）

緑と水の森林基金　緑と水の森林基金公募事業報告集　ＶＯＬ１　（２０１１.　３）
緑と水の森林基金　緑と水の森林基金公募事業報告集　ＶＯＬ２　（２０１２.　３）
緑と水の森林ファンド　緑と水の森林ファンド公募事業報告集　ＶＯＬ３　（２０１２.１２）
緑と水の森林ファンド　緑と水の森林ファンド公募事業報告集　ＶＯＬ４　（２０１３.１２）
緑と水の森林ファンド　緑と水の森林ファンド公募事業報告集　ＶＯＬ５　（２０１５.　３）
緑と水の森林ファンド　緑と水の森林ファンド公募事業報告集　ＶＯＬ６　（２０１６.　２）
緑と水の森林ファンド　緑と水の森林ファンド公募事業報告集　ＶＯＬ７　（２０１７.　２）
緑と水の森林ファンド　緑と水の森林ファンド公募事業報告集　ＶＯＬ８　（２０１８.　２）
緑と水の森林ファンド　緑と水の森林ファンド公募事業報告集　ＶＯＬ９　（２０１９.　２）
緑と水の森林ファンド　緑と水の森林ファンド公募事業報告集　ＶＯＬ１０（２０２０.　２）
緑と水の森林ファンド　緑と水の森林ファンド公募事業報告集　ＶＯＬ１１（２０２１.　２）
緑と水の森林ファンド　緑と水の森林ファンド公募事業報告集　ＶＯＬ１２（２０２２.　３）
緑と水の森林ファンド　緑と水の森林ファンド公募事業報告集　ＶＯＬ１３（２０２３.　６）
緑と水の森林ファンド　緑と水の森林ファンド公募事業報告集　ＶＯＬ１４（２０２４.　３）
緑と水の森林ファンド　緑と水の森林ファンド公募事業報告集　ＶＯＬ１５（２０２５.　３）
緑と水の森林ファンド　緑と水の森林ファンド公募事業報告集　ＶＯＬ１６（２０２６.　３）

緑と水の森林ファンド　緑と水の森林ファンド都道府県事業報告集　ＶＯＬ１　（２０１３.　３）
緑と水の森林ファンド　緑と水の森林ファンド都道府県事業報告集　ＶＯＬ２　（２０１３.１２）
緑と水の森林ファンド　緑と水の森林ファンド都道府県事業報告集　ＶＯＬ３　（２０１４.１２）
緑と水の森林ファンド　緑と水の森林ファンド都道府県事業報告集　ＶＯＬ４　（２０１６.　２）
緑と水の森林ファンド　緑と水の森林ファンド都道府県事業報告集　ＶＯＬ５　（２０１７.　２）
緑と水の森林ファンド　緑と水の森林ファンド都道府県事業報告集　ＶＯＬ６　（２０１８.　２）
緑と水の森林ファンド　緑と水の森林ファンド都道府県事業報告集　ＶＯＬ７　（２０１９.　２）
緑と水の森林ファンド　緑と水の森林ファンド都道府県事業報告集　ＶＯＬ８　（２０２０.　２）
緑と水の森林ファンド　緑と水の森林ファンド都道府県事業報告集　ＶＯＬ９　（２０２１.　２）
緑と水の森林ファンド　緑と水の森林ファンド都道府県事業報告集　ＶＯＬ１０（２０２２.　３）
緑と水の森林ファンド　緑と水の森林ファンド都道府県事業報告集　ＶＯＬ１１（２０２３.　６）
緑と水の森林ファンド　緑と水の森林ファンド都道府県事業報告集　ＶＯＬ１２（２０２４.　３）
緑と水の森林ファンド　緑と水の森林ファンド都道府県事業報告集　ＶＯＬ１３（２０２５.　３）
緑と水の森林ファンド　緑と水の森林ファンド都道府県事業報告集　ＶＯＬ１４（２０２６.　３）

目　次

普及啓発

釧路森林資源活用円卓会議 15 周年　くしろ木づなフェスティバル2024
／くしろ木づなフェスティバル実行委員会……8
未就学児が水環境と森林のはたらきについて学ぶ「どんぐり塾」の開講／ NPO 法人いきものいんく……10
青少年への緑を通じた環境教育推進事業／青森県緑の少幼年団連盟……11
眺望山自然休養林を活用した健康増進活動／沖館地域緑の募金推進協力会……13
2024_ 山へでかけよう! in 津軽／一般社団法人ガールスカウト青森県連盟……14
「自然保育と森林 ESD ー農林漁業とその恵みを生かすー」シンポジウム及び関連事業
／日本自然保育学会第 9 回大会実行委員会……16
里山整備に若い力を　～きのこプロジェクト～／岩手県立大野高等学校……17
森フェス 2024 in 遠野／特定非営利活動法人　遠野エコネット……18
「木のおもちゃとあそび」木育推進プロジェクトⅡ／あきたグッド・トイ委員会……19
自然にふれよう　山のがっこう／特定非営利活動法人 SCR……20
地域材の利用拡大と木育の推進事業／置賜「地材地住」ネットワーク……21
フォレストサポート・2024 ／ガールスカウト山形県連盟……22
手入れが必要なヒノキ林（那珂市有林）の保全整備と周辺の谷津田及び里山の環境保全事業
／なか自然の会……23
地域材による木工技術の普及と木材利用の普及促進事業／特定非営利活動法人 やみぞの森……24
高原山麓における森林の保全・再生活動と木材の利用に関する普及啓発／くまの木里山応援団……25
森はともだち　楽しくまなぼう　森友　楽校／ぐんま森林インストラクター会……27
植物観察と水生生物観察を通した環境教育事業／特定非営利活動法人思いをつなぐ会……28
学校における『木と森の SDGs』を推進する支援ツールの制作／ＮＰＯ法人木育・木づかいネット……29
シンポジウム「広葉樹 新時代!―変動する世界市場と国産材利用への道」
／「森林・林業・山村問題を考えるシンポジウム実行委員会」……31
持続可能な社会の実現のために、森と人・生き物との関わり方のこれからを考える連続講座・意見交換会
／「森づくり政策」市民研究会……32
森林資源の活用と伝承を活かした森林環境教育／特定非営利活動法人自然文化誌研究会……33
森林・水の活用と保全の推進等に関するシンポジウム／一般社団法人産業環境管理協会……34
大学生を対象とした森林環境教育プログラム／特定非営利活動法人 Peace Field Japan……35
設計者等に対する木材・木質建材等の体験型セミナーの開催／一般社団法人木のいえ一番協会……37
ソフィアの森の整備／上智大学大学院地球環境学研究科……38
第 5 回環境書道展併催ミニフォーラム／ Tokyo　ひとふで……39
「こどもの森づくり in SAITAMA」レガシィづくりプロジェクト
／特定非営利活動法人子どもの森づくり推進ネットワーク……41
「森から学ぶ」　～森林生態系サービスについて学ぶ～／公益財団法人 Save Earth Foundation……42
「医師と歩く森林セラピーロード」／ International Society of Nature and Forest Medicine（INFOM）……43
身近な森林で自然遊びを体験し、森への関心を深めよう／ NPO 法人くにたち農園の会……44
100 年先もずっと・・[緑と森と森林コンサート vol2』森と人・心と暮らしを通わせる一日」
／ヨーデル北川桜とエーデルワイスムジカンテン……46

森づくり体験による森林・林業に関する普及啓発と、森づくり団体の活動支援事業
／NPO 法人森づくりフォーラム……47
森林減少ゼロに資するフェアウッド利用検討会／認定 NPO 法人 FoE Japan……48
2024 森のがっこう～視たり・聴いたり・触ったり、五感を感じる自然体験プロジェクト～
／玉川大学　教育学部　仁藤研究室……50
「水が繋ぐ地域と世代」促進事業 森と水の祭り・影祭り／（一社）全国森の循環推進協議会……51
第４０回全国削ろう会秦野大会／第４０回全国削ろう会秦野大会招致・実行委員会……52
とやまの竹の祭典／特定非営利活動法人 Bamboo saves the earth……53
地域の自然を未来につなげていく体験活動／さとやま子育てコミュニティいけだのそら……55
木のおもちゃひろばであそぼう　森の力を学ぼう／のいちご会……56
第8回全国木のまちサミット 2024in ひがししらかわ
／全国木のまちサミット 2024in ひがししらかわ実行委員会……57
森の輪ひろば／（一社）いび森のようちえん　こだぬき……58
地域材活用のための体験講座／伊深まちづくり協議会……59
第８回森まる（もりまる）～森をまるっと楽しもう！～／MORI・IKU……60
子供たちによる子供たちのための里山整備／公益社団法人　静岡県林業会議所……61
小学校授業での森林体験学習／特定非営利活動法人水とみどりを愛する会……62
三重の木の椅子展４／三重の木の椅子展実行委員会……63
住民自治組織と里山保全の先達との協働による「第二次里山保全運動」のキックオフ事業
／特定非営利活動法人　赤目の里山を育てる会……64
地域産木材利用促進啓発事業／特定非営利活動法人　京都森林・木材塾……65
地域子育て支援フォレストコミュニティ／一般社団法人森のようちえんどろんこ園……66
特定非営利活動法人自然と緑「自然大学」／特定非営利活動法人自然と緑……67
森とまちをつなぐ木材コーディネーターによる「木づかい社会」定着のための普及啓発活動
／NPO 法人サウンドウッズ……69
森林生態系から身近な自然を学ぶ ESD ワークショップ～奈良県の森林 ESD の推進に向けた次世代インタープリターの養成～／奈良教育大学附属中学校裏山クラブ……70
奈良こども自然フェスタ／奈良こども自然フェスタ実行委員会……71
うみの森おやこひろば／うみの森こどもひろば……73
保育園・幼稚園等における森林環境教育の推進／（公社）島根県緑化推進委員会……75
森林を活用した自然体験活動／特定非営利活動法人　隠岐しぜんむら……76
里山再生ワークショップ／桜本美林を守る会……77
里山保全普及啓発事業／ＮＰＯ法人倭文の郷……79
デジファブを活用した里山保全と森林環境教育の推進／特定非営利活動法人ひろしま自然学校……80
林間学校プロジェクト事業／NPO 法人ひろしま人と樹の会……81
「とくしま木づかいフェア 2024」の開催／とくしま木づかい県民会議……82
少年少女里山マイスター養成講座／特定非営利活動法人 徳島県森の案内人ネットワーク……83
まちの縁が輪での住育プロジェクト／ひょうたん島まちなか再生機構……84
いろいろな生き物と共存する森づくり／特定非営利活動法人山村塾……85
温泉施設と連携して行う地域材の普及啓発事業「お風呂で天草森林浴フェア」
／天草ヒノキプロジェクト（熊本県）……86
第 29 回九州森林フォーラム in 福岡県福岡市～森林環境税を見える化する～
／NPO 法人九州森林ネットワーク……87

健全な森のサイクルに貢献する「木づかい」事業／特定非営利活動法人もりびと……89
日本三大砂丘「吹上浜」の白砂青松再生事業～「森林ボランティアの日」森林づくり活動 ～
／鹿児島県森林ボランティア連絡会……90

調査研究

「森のようちえんの安全管理に関する実態調査」／田中　住幸（札幌大谷大学短期大学部）……92
カエデの樹液の調査／ギャニオン　マーク……95
「沼田産イタヤカエデ樹液の商品化を通した観光振興に関する研究開発」／長野時敏……97
自然保育における森林・自然等の活用の理論・方法論に関する調査研究／菊池稔（名寄市立大学）……99
能登半島地震により崩壊した社会インフラストラクチャーの代替としての
森林生態系サービスの評価 - 能登半島の中山間地域を対象として - ／早稲田大学人間科学部……101
学校教育における森林空間を活用した教育プログラムの実施のためのアクティビティ集の作成
／一般社団法人全国森林レクリエーション協会……102
マングローブ植物の特性に関する調査／上智大学……104
森林サービス産業が地域社会に及ぼす経済・社会的影響の把握と発展可能性に関する調査研究
／東京大学大学院農学生命科学研究科　柴崎茂光……105
「森林系「自然共生サイト」の類型化とサイトにおける人工林管理の実態把握」 要旨
／（一財）林業経済研究所……107
高齢化の進む山村地域の有用植物に関する新たな活用・普及方法及び森林空間利用の調査研究
／特定非営利活動法人日本森林保健学会……109
地域材利用拡大に向けた環境指標整備のための調査研究／特定非営利活動法人　木の建築フォラム……111
ECO-DRR による森林グリーンインフラ整備の推進
／公益社団法人森林・自然環境技術教育研究センター……114
「自然保育者の養成カリキュラムと社会化に関する研究」／代表者：鶴見大学短期大学部 増田直広……115
手つかずの河辺林を市民の森にするための基礎調査
／特定非営利活動法人コミュニティねっとわーく高島……118
里山未利用資源用途開拓事業「地域里山優勢樹種・ソヨゴの染色研究」／ファーストステップ……121
五木村における小さな林業の実現に向けた可能性調査／五木村山村活性化協議会……123
木育推進の条件整備に関する調査研究（要旨）／鹿児島大学　農学部……125

活動基盤整備

修学旅行生対象の民泊事業における林業六次化体験の提供／沼田どってこどってこ……128
緑の少年団支援事業／階上売り込み隊……129
森でコミュニケーションしよう「里山再生プロジェクト」／学校法人尚絅学院……130
八丁目城跡の森林整備と伐採樹木の活用事業／八丁目城跡周辺整備協議会……132
里山キャンパス益子家「大平の森」協働プロジェクト／宇都宮大学農学部西山研究室……133
子ども樹木博士認定活動支援のためのネットワーク活動の展開による森林 ESD の推進
／子ども樹木博士認定活動推進協議会……135
安全で楽しい里山保全活動を指導できるリーダー養成講座／モリダス……136
能登における縄文的災害復興／ NOTO にじのひかり……137
いじら・さとやま遊歩道プロジェクト／伊自良の里・食と農推進協議会……139
ぎふ木育研修会／ぎふ森　遊びと育ちネットワーク……140

人と自然が共生する里山づくり事業／特定非営利活動法人森を再生する会……141
ピカソのもり～命を育む森林でのフィールドワーク活動／一般社団法人ピカソプロジェクト……142
陀羅尼助（だらにすけ）の郷で森林づくり in 天川村洞川 part 5／奈良県森林ボランティア連絡協議会…144
里山保全ボランティア養成講座の開催／ NPO 法人山野草の里づくりの会……145
都市と山村みどりの少年団交流集会／和歌山県みどりの少年団連盟……147
次世代を育むひろしま自然保育勉強会／ひろしま自然保育推進協議会……148
自然保育者養成＆足元から始める自然理解＆整備～流域地図～／森林ボランティア団体もりゆう……149
「やまの家」先人の知恵を未来につなぐ体験事業／山内自治振興区……150
水源地周辺の里山の整備／やしろの杜を楽しむ会……152
緑の少年団活動発表大会開催事業／緑の少年団愛媛県連盟……154
令和6年度　森林ボランティアリーダー養成講座／情報交流館ネットワーク……156
宮崎県みどりの少年団総合研修大会／宮崎県みどりの少年団連盟……157
産学協同で取り組む「こどものけんちくがっこう」／ NPO 法人 こどものけんちくがっこう……158

国際交流

国際林業研究機関連合第7部会　合同会議　森林における食葉性昆虫、侵入性害虫、昆虫・病原菌の生物学的防除に取り組むための理論と実践　概要　／国際林業研究機関連合（IUFRO）第７部会……160
アジア諸国での森づくり実践報告会／公益財団法人　オイスカ……161

普　及　啓　発

釧路森林資源活用円卓会議 15 周年　くしろ木づなフェスティバル２０２４

くしろ木づなフェスティバル実行委員会
〒 085-0022　釧路市黒金町 7 丁目 5 番地

1．活動の概要

「育てる」林業の成果であるカラマツなどの人工林資源は、現在利用可能な時期を迎えています。その森林資源を活用する取り組みを推進するため、木材産出側（川上）から木材利用側（川下）までの様々な関係者が一堂に会し、地域の課題等を話し合う「釧路森林資源活用円卓会議」が 2010 年（平成 22 年）に組織され、今年で 15 年目を迎えました。

円卓会議では「くしろ木づなプロジェクト」を実施し、「地域内での、地域の木材消費向上」を目指した様々な取り組みをしてきました。

私たちは今回その取組の一環として「くしろ木づなフェスティバル」を通じて、釧路の皆様に、釧路の森林と木材のこれまでを知って頂くとともに、木を通じた未来を共に創造していきたいと考え、開催いたしました。

2．活動の成果

２日間で３，９４０名の市民等に来場いただき、出展者それぞれの特徴を生かした木にまつわる体験メニューや展示・実演を通して、実際に木を見て、木に触れ、木の良さを感じていただくことができたことで、林業や木材産業の魅力を市民の皆様に知っていただき、林業・木材産業への理解の醸成に繋がったと考えられる。

今回のフェスティバルの開催テーマ「森と共にくしろの未来～つなげる「木づな」１５周年～」の趣旨を踏まえ、釧路の森林を未来につなげるため、林業・木材産業の発展を通じた地域経済の活性化に向け「くしろ木づなプロジェクト」の取組を進め、森林資源の循環利用に向けた取組を進めてまいりたい。

3．参加者の声

・釧路の森林に触れ合う機会をえることができ楽しかった！！
・釧路が森林都市ということがわかった。
・木のにおいが入ってきた時からしており、とてもよかったです。
・木の良さをさらに感じられました。
・やはり、木は良いですね！！
・普段子供に木で何かを作るという体験はさせてあげられないので、とてもよかったです。ありがとうございました。
・小さい子（１さい）が体験するにはまだ早かったですが、色々な木に触れて良い刺激になりました。また来ます。
・色んな体験や屋外での機械が動くのは迫力があった。
・木製品がたくさんあり、価格も手ごろで良かった。

実績報告とりまとめ表

実　施　時　期		10 月 26 日	10 月 27 日	計
事業量 又は 事業内容		くしろ木づなフェスティバル 2024 開催	くしろ木づなフェスティバル 2024 開催	
参加者数	県　内 県　外 計	2,013 人 5 人 2,018 人	1,917 人 5 人 1,922 人	3,930 人 10 人 3,940 人
実　施　場　所		北海道市釧路市幸町 3-3　釧路市観光国際交流センター		

未就学児が水環境と森林のはたらきについて学ぶ「どんぐり塾」の開講

NPO 法人いきものいんく
〒052-0005　北海道伊達市清住町 47 番地 1

1．活動の概要

地域住民の自然環境保全意識向上を目指し、未就学児とその保護者を対象に「どんぐり塾」を開講。

【通常プログラム（春～秋)】自然とより密接に関わり、身近な野生生物や外来種問題への関心を高めることを目的とし、川や湖にて生物観察を行った。また、北海道の動植物や森のなりたちについて学習を促すため、自然×アート×算数を取り入れたプログラムを構築した。

【いきものいんくの森 OPENDAY】子どもたちの自主性を育むため､あえてプログラムは用意せず、スタッフは児童に寄り添いながら、自由な遊びと学びを楽しめる野外体験の場を提供した。

【特別プログラム】幼児～小中学生･大人までを対象とし、馬搬について理解を深めるため、厚真町･西埜馬搬の西埜将世氏を講師にお招きし、森林整備の様子を見せていただいた。

2．活動の成果

2019 年から未就学児とその保護者を対象とした野外事業を実践。今回は全 3 回にわたり、創作活動など野外体験とは別の切り口で環境教育を行い、新たな顧客獲得の糸口を見つけることができた。特別プログラムでは、森に負担をかけずに伐採を行う馬搬の魅力を教わり、林業について実践的に学ぶことができた。幼児期のうちから、家族で野外体験や環境教育の機会を創出することで、地域の環境保全発展を期待する。

3．参加者の声

■特定外来生物が引き起こす在来種の影響について詳しく知ることができてよかったです。
■馬搬で行う林業が今も受け継がれていることに驚きました！
■エゾリスの貯食と森のなりたちを親子で楽しみながら学ぶことができました。

実績報告とりまとめ表

実施時期		7/6・8/24	9/7・10/19・11/9	9/11・25 10/9・23 11/6・20	11/23 AM・PM	計
事業量 又は 事業内容		通常プログラム（春～夏） 2 回	通常プログラム（秋） 3 回	いきものいんくの森 OPENDAY 6 回（うち 1 回荒天中止）	特別プログラム「馬搬ってなんだろう？」 全 2 回（午前／午後）	計 13 回
参加者数	県内 県外 計	道内 未就学児延べ 23 人 大人延べ 27 人 道外 0 人 計 50 人	道内 未就学児延べ 27 人 大人延べ 29 人 道外 0 人 計 56 人	道内 未就学児延べ 23 人 大人延べ 27 人 道外 0 人 計 50 人	道内 未就学児 6 人 大人 6 人 小学生 26 人 中学生 4 人 道外 0 人 計 42 人	道内 未就学児延べ 79 人 大人 89 人 小学生 26 人 中学生 4 人 道外 0 人 計 198 人
実施場所		ソウベツ川、洞爺湖、長流川	いきものいんくの森	いきものいんくの森	いきものいんくの森及び近隣の私有地	

青少年への緑を通じた環境教育推進事業

青森県緑の少幼年団連盟
〒 030-0813　青森市松森 1-16-25
青森県森林組合会館内

1．活動の概要

○県内の緑の少幼年団育成強化を図るため、森林公園や地域の里山を活用して、野外活動や木工教室、森林教室を少年団交流会、森林学習会等で実施。次代を担う青少年の森林・緑に対する理解を深め、生物多様性の保全や地球温暖化防止の意識を育むことを目的に、各地区にある林業振興協議会や林業活性化センターが森林・林業の指導員等による森林の多面的機能等についての学習会や五感を使った森林の自然観察会、林業の体験学習等を実施した。

○フィールドビンゴ、チェーンソーアートの実演見学、木のボウリング、丸太切り体験、樹木当てクイズ、森林体験、木登り体験、積み木を高く積んでみよう等を通じて、各地域の少年団の交流を深めることが出来た。

2．活動の成果

県内４地区５ヶ所で緑の少年団交流会、森林学習会等を開催した。地域の里山や自然公園等を活用し、参加した子供たちが森林の多面的機能や地球温暖化防止等に重要な役割を果たしている事を学び、さらなる緑化意識の高揚を図ることが出来た。

3．参加者の声

○参加者（子ども）

・他校の子と協力して作成することができた。
・ラックは木のいい香りがした。
・クギを打つのが難しかったけど最後までがんばって完成できた。大事に使いたい。
・いろんな人・他校の人と話すことができて楽しかった。他校の子と仲良くなれてよかった。最初は恥ずかしかったけど話ができた。
・ノコギリが重くて（丸太切りが）たいへんだった。切った丸太は宝物にしたい。
・丸太をうまく切れてよかった。
・自分の班の木を覚えることができた。
・（教えてもらった木以外の発見をスタッフに示し）「こういうもの見つけたよ！この形がおもしろい」と教えてくれた。
・ヘビの抜け殻にびっくりした・初めてみた・触った！
・リスが食べると松ぼっくりがエビフライに変身するのが面白かった。

○引率・スタッフ

・どの子どもたちもとても一生懸命ラック製作に取り組んでいた。たくさんのスタッフの見守りのもと、安全に「何かを作った」という経験は、楽しかった思い出として子どもたちの心に残ると思う。
・ラック製作は協力しながら作る必要があり、他校等との交流ができた。
・多少形が悪くても、自分たちでラックを作り上げたことに充実感を得ていた。
・ゲームやメディアと関わる時間が増加している今の子どもたちにとって、自然と関わる時間はとても貴重だと感じています。特に、このような自然のものを使って遊んだり散策したりしながら「自然を楽しむ」体験は、一人一人の子どもたちにとっても今後の学校教育活動にとっても貴重な体験であると感じるので、ぜひ、今後とも続けていただければ幸いです。

・たくさんの緑の木々に囲まれた場所で活動して、自然の中で過ごす心地よさを満喫することができた。児童の満足度はたいへん大きかった。
・普段できないいろいろな体験・貴重な体験をさせていただき感謝します。
・班ごとに木の種類を当てるクイズは、木の種類によってさまざまな葉の形があることや、実のなる木などの種類を覚えることもでき、楽しく活動できました。
・木でできたボウリングや自然の素材を使っての丸太切り体験でした。苦労した分、切り落とせた時の達成感も大きかったようです。
・日頃、のこぎりを使う体験が少ないので良い体験であった。
・子ども達が全力で取り組み、楽しんでいる様子を間近で見ることができ、大変ではあったがやりがいがあった。児童の笑みをみることができて良かった。

実績報告とりまとめ表

実施時期	7月13日	7月29日	8月24日	9月5日	9月7日	9月29日	計
事業量又は事業内容	三八地区緑の少幼年団グリーンジャンボリー	中南地区緑の少年団森林学習会	中南地区緑の少年団森林学習会	西北地区緑の少年団交流会	中南地区緑の少年団森林学習会	東青地区緑の少年団交流集会	
参加者数（県内）	37名	34名	15名	254名	14名	23名	377名
実施場所（県内）	新郷村	弘前市	西目屋村	つがる市	西目屋村	青森市	

眺望山自然休養林を活用した健康増進活動

沖館地域緑の募金推進協力会
〒038-0002　青森県青森市沖館４丁目3-22

１．活動の概要

青森市郊外にある眺望山自然休養林を活用して地域市民、小学校児童を対象に、森林が持つ心理的なリラクゼーション効果について森林セラピー体験会として実施し、ストレスからくる病気やいじめの予防につなげて市民生活の健康や明るい街づくりに資することとした。当日は、森林セラピストを総括指導者とし、ヨガインストラクター、森林インストラクターを配置して、はじめに青森市森林博物館においてオリエンテーションを実施した。また、森林セラピストによる「森林の健康保養効果について」の講話並びに血圧・脈拍測定、ストレス度チェックを行った。

その後、バスで眺望山自然休養林管理棟前に移動し、森林セラピストの指導の下、ストレッチで体をほぐして西口コースを出発。山頂を経由して東口コース出口までの２．５時間森林浴。コース途中では森林インストラクターによる木製堰堤や青森ヒバの説明、ネイチャーゲームを取り入れた。山頂ではヨガインストラクターの指導でしばしの間深呼吸やヨガで心身のリフレッシュ。

バスで森林博物館に戻った後、森林浴後の血圧・脈拍測定、ストレス度チェックを実施するとともに森林セラピストの終了面接、意見交換、そしてアンケートを行った。

なお、今回の体験会開催に当たっては、新型コロナウイルス感染防止の観点からマスク持参を呼びかけた。

２．活動の成果

ストレス度チェックを取り入れた森林浴体験会の企画は７回目であるが、当協力会会員、ヒノキアスナロ緑の少年団、同育成会及び一般市民の参加を得て実行することが出来た。今回の実施に当たっては、青森県内在住の森林セラピスト、ヨガインストラクター及び青森森林インストラクター会の協力を得たほか、当協力会会員もスタッフに配置して実施した。また、実施準備としてスタッフ、森林セラピスト、森林インストラクターによるコース状況、安全点検等事前調査を行い事故もなく実施できた。

さらに、オリエンテーションにおいて、「緑と水の森林ファンド助成事業であること、当協力会はヒノキアスナロ緑の少年団とタイアップした街頭募金や当会独自に町会家庭募金を主事業にしている」旨を説明して参加者の理解を深めた。

３．参加者の声

参加者からは「自然を感じることができ、リフレッシュできた。肩こりが少し治った。森の中で地面と一体になる体験は素晴らしかった。子供が多いのにはびっくり。森の中のヨガを体験出来てよかった。

(少年団員)頂上に行った時の達成感がうれしい。息がしやすくなった。森林のことが知れてよかった。」等の感想が寄せられた。

実績報告取りまとめ表

実　施　時　期		月　日	計	備考
事業内容	ストレス度チェックを取り入れた森林浴	９月８日		１日のみの実施
参加者数	県　内 県　外 計	24人 0人 24人	24人 0人 24人	
実　施　場　所		青森県　青森市森林博物館、眺望山自然休養林		

2024_ 山へでかけよう！ in 津軽

一般社団法人ガールスカウト青森県連盟
〒 030-0111　青森県青森市荒川藤戸 119-7

1．活動の概要

青森県内に住む中学・高校生を対象とし、１泊２日の事業を岩木山の麓に位置する岩木青少年スポーツセンターにおいて実施し、中学・高校生１０人、活動を支える成人１０人、計２０人が参加した。１日目は岩木山神社周辺のハイキングコースをガイドの案内のもと散策し、自生する植物や水についての理解を深めるとともに、利用者目線で散策道や周辺施設の利便性を考え、より多くの人に利用してもらうための改善点等の意見を交換した。夜は屋外でボンファイヤーをおこない、火の偉大さや自然の中で活動することの楽しさを体感した。２日目は１日目に考えた散策道や周辺施設をより多くの人に利用してもらうためのアイデアを更に深め、グループ毎に資料を作成し、発表をおこなった。岩木青少年スポーツセンターの職員にも発表に参加いただき、講評をいただいた。発表の後は、木材を活用した、バードコールおよび青森ヒバチップの匂い袋を作成し、木材に親しみながら参加者間の交流をはかった。昼食を野外炊事する予定だったが、悪天候のため、屋内での炊事に切り替えた。

2．活動の成果

学業や部活動が忙しく、自然の中での活動の機会が少ない中学・高校生たちが、ハイキングコースを散策することで、自生する植物や水についての理解を深めることができた。散策を通して、森や水を身近に感じることができ、自分達が住む地域の魅力を再発見することができた。ハイキングやボンファイヤーのアウトドア活動を通し、自然の中で活動することの楽しさや良さを直に感じることができた。

散策道や周辺施設の改善策を考えることにより、観光資源を自分事として捉えることができた。今後改善策を実行に移すことができるよう引き続き取り組んでいきたい。

3．参加者の声

・同じ分類の花でも、沢山の花や木の種類があり、それぞれに特徴があることがわかった。楽しく植物や自然について学ぶことができた。
・自分の知らない花や植物が沢山あり、自分の知識を増やせたので良かった。歩いていると「危険だな」「不便だな」と思う場所も見つけられたし、川の音や鳥の声がきれいだという魅力も見つけることができた。自然を守るために、学校の友達に自然のことについて教えたり、自分から行動を起こしたりしたいなと思った。
・ハイキングでは、景色がきれいで、解放感があって気持ちよかった。空気や湧き水が感動するほどおいしかった。
・ハイキングはガイドさんのお話を聞きながら、知らない植物や花などに出会うことができ、新しい発見をすることができた。また、どうしたらもっと多くの人に利用してもらえるかということを考えながらハイキングすることによって、いつもは見つけられない改善点を見つけることができて良かった。これから、自然にもっとふれあう機会を作っていきたいし、自分から自然を守るために活動していきたい。

実績報告とりまとめ表

実　施　時　期		5 月 24 日～ 5 月 25 日	計
事業量 又は 事業内容		2024_ 山へでかけよう in 津軽	
参加者数	県　内 県　外 計	20 人 人 20 人	20 人 0 人 20 人
実　施　場　所		青森県　弘前市	

「自然保育と森林 ESD －農林漁業とその恵みを生かす－」
シンポジウム及び関連事業

日本自然保育学会第 9 回大会実行委員会
〒 030-0943　青森県青森市幸畑 2-3-1

1．活動の概要

日本自然保育学会第 9 回大会では、自然保育や森林環境教育（森林 ESD）に携わる実践者や研究者が集まり、最新の実践事例や研究成果を共有しました。特に東北地方の特色を活かした農林業や里山を活用した教育実践が紹介され、産業界・行政・学術界が連携することで、地域資源を活かした持続可能な教育の可能性が議論されました。

シンポジウムでは、自然保育が「持続可能な社会の創り手」を育成する重要な手段であることが改めて確認され、実践と研究の成果を結びつける意義が強調されました。また、エクスカーションを通じて具体的な教育手法を体験し、地域の特色を反映した保育モデルが全国に広がる可能性が示唆されました。

さらに、産官学の連携の重要性が再認識され、新たなネットワークが構築されるとともに、今後の教育方針や政策に実践知を活かしていくための基盤が形成されました。参加者からは、地域資源を活用した保育方法が参考になったという声が多く、今後の実践に活かせる具体的な手法を得られたとの評価がありました。本大会を通じて、自然保育の発展と持続可能な社会づくりへの貢献が期待されます。

2．活動の成果

日本自然保育学会第 9 回大会では、自然保育や森林 ESD の実践例や知見が共有され、農林業や里山を活用した教育事例が紹介されました。産官学の連携とともに新しいネットワークが生まれ、持続可能な社会づくりに向けた議論が一層深まりました。特に、自然保育が「持続可能な社会の創り手」を育成する手段として再確認され、地域資源を活用した保育のモデルが全国に広がる可能性が示唆されました。実践と研究の成果が結びつき、その結果、今後の教育方針や政策に反映される期待が高まりました。

3．参加者の声

地域資源を活用した保育方法について学べて、とても参考になりました。特に、自然環境を生かした教育が地域の特色を反映できる点が印象的で、今後の保育実践に活かせる具体的な方法を得たと感じています。また、産業界、行政、学術界の連携がいかに重要かを再認識し、自然保育が持続可能な社会の創り手を育てるための大切な手段だと実感しました。地域ごとの実践事例や行政との連携の重要性についても学び、今後の教育方針や政策に期待を持っています。

実績報告とりまとめ表

実　施　時　期		11 月 8 日	11 月 9 日	11 月 10 日	11 月 10 日	計
事業量 又は 事業内容		エクスカーション①	公開型シンポジウム・ポスターセッション・	口頭発表・ポスターセッション	エクスカーション②	
参加者数	県　内 県　外 計	2 人 21 人 23 人	22 人 51 人 73 人	22 人 42 人 64 人	3 人 6 人 9 人	49 人 120 人 169 人
実　施　場　所		青森県青森市幸畑 2-3-1　青森大学				

里山整備に若い力を　～きのこプロジェクト～

岩手県立大野高等学校
〒028-8802　岩手県九戸郡洋野町大野 58-12-55

1．活動の概要

全校生徒で地域の里山を整備することにより、マツタケが生育しやすい環境づくりを進めるとともに、地域の資源を活かした環境保全の重要性を学ぶ。

学校の北方約 15km に位置する久慈平岳（標高 706.3m）の山麓に広がる約 1 ha の里山を地元の方から借り受け、外部の指導者からの助言・指導を受けながら、枯れ枝や堆積した落ち葉を除去するなど整備を長年実施している。

2．活動の成果

里山整備に取り組むことにより、先人が守ってきた豊かな自然とその恵みについて見つめ直し、自然と共生する人間の生活を改めて考えることができた。

地域住民等との協働から、地域社会の一員であることを自覚し、郷土愛を育むとともに、自己有用感を醸成することができた。

町内の他の高校生を初めて事業に招待し、交流を深めることができた。

指導者の発案で、初めてマイタケの植菌を実施した。

3．参加者の声

「自生しているマツタケを初めて見た。折れないように慎重に取った」

「大野高校と言えばマツタケ、と地元では定着している。これからも大事に整備したい」

「マイタケの植菌は初めてなので、うまく育てばいいなと思う。高校ならではの経験を伝統として繋いでいって欲しい」

実績報告とりまとめ表

実　施　時　期		令和 6　10 月 8 日	令和 7　6 月 14 日	令和 7　6 月 24 日	計
事業量 又は 事業内容		収穫祭 全校生徒による	里山事前整備 教 職 員・PTA に よる	里山整備 全校生徒による	
参加者数	県　内 県　外 計	75 人 人 75 人	7 人 人 7 人	50 人 人 50 人	132 人 人 132 人
実　施　場　所		岩手県洋野町 久慈平岳			

森フェス 2024 in 遠野

特定非営利活動法人　遠野エコネット
〒 028-0661　岩手県遠野市附馬牛町上附馬牛 19-530

1．活動の概要

市民の森林への関心低下から、獣害や豪雨による土石流災害が各地で発生している。この状況を改善するため、３年目となる今年は初秋の９月に、一般市民を対象に、森林への理解を深める講演会や、各種体験会、マルシェなどを森林内で開催し、森林への理解と関心を高める機会とした。

2．活動の成果

昨年までの夏開催は、アブなどの発生に悩まされたため、今年はアブがいなくなる過ごしやすい９月の一日開催とし、また、遠野駅などからの無料シャトルバスを４往復出し、岩手県内外各地から、関係者を含めると 266 名が参加し、音楽や講演、各種体験を通じて、森林の魅力を十分に感じていただけたと考える。事後アンケートを 50 人から集めることができ、その結果すべての方が、イベント内容に対して、大変良いまたは良いという回答であった。今後は、地元の遠野市との連携を強化し、森林環境譲与税を活用して継続できないか検討している。

3．参加者の声

・ふだんデジタルで過ごしていますので、そこから離れた空間が良かったです。（遠野市･20 代男性）
・子ども達が喜んで遊べるのが、とても良いです！！（遠野市・40 代女性）
・たくさんのスタッフさんが配置され、みんなで作っているイベントだと感じました。（遠野市・30 代女性）
・きれいな森の中で、ゆったり過ごしたり、クラフトをしたりと、とても楽しい時間を過ごしました！（岩手県内・20 代女性）
・初めて来ましたが、とても魅力的な空気で感激しました。森ばなれが進まない様に、これからも地道な活動をされてください。微力ながら応援しています。（岩手県内・60 代女性）

実績報告とりまとめ表

実　施　時　期		9 月 15 日	10 月 11 日	計
事業内容		森フェス 2024 in 遠野	森フェス・スタッフ交流会	
参加者数	大人	192 人	20 人	212 人
	高校生以下	74 人	人	74 人
	計	266 人	20 人	286 人
実　施　場　所		岩手県遠野市　遠野薪の駅及び周辺の森林 / 遠野森のがっこう		

「木のおもちゃとあそび」木育推進プロジェクトⅡ

あきたグッド・トイ委員会
〒010-0041　秋田市広面字野添 86-2

1．活動の概要

・良質な木のおもちゃに触れ、子どもから大人まで多世代が交流し、当会の活動テーマ「あそぶ力は生きる力」を体験する機会を提供することを目的に「木育キャラバン」を開催した。
・東京おもちゃ美術館を運営する特定非営利活動法人芸術とあそび創造協会監修の約 300 種類の木のおもちゃで遊ぶ「木育キャラバン」を主体に、工作ワークショップ、秋田の木工製品の展示を行った。

2．活動の成果

木のおもちゃで遊ぶ親子の笑顔、工作が出来上がり動かしてみた時の充実した顔、新しい発見を喜ぶ姿、積み木やクーゲルバーンなど繰り返し集中して遊ぶ真剣なまなざしなど、また、一緒にコミュニケーションをとりながら遊ぶ保護者の皆さんも、木のおもちゃを通して、木のぬくもりや音色など木の魅力を体感していました。

３千人を超える来場者は、秋田市に常設の木育拠点整備の必要性を現すものであり、関係者に来場者の思いを伝えるためにも、活動の強化と継続に取り組んでいきたい。

3．参加者の声

・「帰りたくない！」と泣いている子どもたちが見られ、木のおもちゃの魅力は子どもたちを虜にしていることが肌で感じられました。
・お父さんが子どもを肩車しながら、積み木を積み上げる姿は、微笑ましいものがあった。子どもさんの真剣な表情に、木のおもちゃがコミュニケーションに大切な役割をはたしていることが実感できました。
・コマやお手玉など、日本の伝統おもちゃに「懐かしい」と声を上げて、夢中で遊ぶ大人が何人も見られました。子どもたちだけでなく、大人にも楽しんでもらえた木育キャラバンになりました。

実績報告とりまとめ表

実施時期	2 月 15 日	2 月 16 日	計	備考
事業内容	木育キャラバン	木育キャラバン		
参加者数	1,300 名	2,300 名	3,600 名	
実施場所	秋田県秋田市　秋田港振興センター（愛称　セリオンプラザ）			

※ボランティアスタッフ　延べ 43 名

自然にふれよう　山のがっこう

特定非営利活動法人 SCR
〒981-3341　宮城県富谷市成田 7 丁目 23-21

1．活動の概要

○目的

地域の森林・林業について理解を深め、大切さを伝えていくため市民参加の森林づくり運動を行う。

○内容

・森づくり体験・・特殊伐採や伐採の様子を見学し、枝払いや後片付けの体験を行う。
公園内に蜜源の森づくりのための花苗を植える。

・森林教室・・大学教授や林業従事者による座学の開催。より良い森林づくりの講習や自然環境への理解をより深める。専門家の指導のもとで温暖化防止のためにも森林の重要性や保全の方法についても学ぶ。

・木工教室・・地域材（間伐材）を利用し、公園に設置するベンチを製作。
間伐体験後に、木が形を変えて私たちの生活の一部になっていく工程を体験。

・地域文化の継承・・餅まき

2．活動の成果

・地域の自然に触れ、体験を通して森林環境の大切さがより一層深まった。
・実際に従事する方の話や専門家の方の聞くことで、森づくりの必要性を実感できた。
・間伐体験や間伐材を使ったベンチ作りでは、家族で協力しながら達成感を味わえ、山の日の思い出に繋がった。
・継続して開催することで、次世代のリーダー育成につながる活動になった。
・台風接近のため、キャンセル数が多いなか、楽しみに来て下さる家族も多く継続は力なりを感じた。晴れて暑い日でしたが、子供達の笑顔と真剣に取り組む姿勢が見えた。

3．参加者の声

・最後まで自分で木を切ることができて良かった。
・森林を大切にしていこうと思った。
・台風が来て心配だったけど、ベンチを作ることができて楽しかった。
・親子で自然に触れる機会ができて良かった。

実績報告とりまとめ表

実　施　時　期		8 月 11 日	計
事業内容	自然にふれよう 山のがっこう	森づくり体験 森林環境教室 木工教室 地域文化の継承	
参加者数	県　内 県　外 計	41 人 0 人 41 人	41 人 0 人 41 人
実　施　場　所		宮城県　富谷市	

地域材の利用拡大と木育の推進事業

置賜「地材地住」ネットワーク
〒992-1443　山形県米沢市大字笹野 517-1
米沢地方森林組合

1．活動の概要

地域材の利用拡大や木育を目的とした「置賜『地材地住』運動」を推進するため、山形大学工学部と連携しアウトドア・ファニチャーの製作や木材の伐採から利用までの一連の工程を学ぶ「地域材利用セミナー」を開催した他、製材端材等を活用した木工体験や地域の各種イベント等での木工教室の開催、各種イベント等を活用した「置賜木」の普及啓発活動を行った。

2．活動の成果

・地域材利用セミナーの開催では、植えられた木が木材として利用されるまでには様々な工程があることや多くの方々の関わりあることを知ってもらうことができた。また、木造建築の良さや建築に必要な技術等を知ってもらう良い機会となった。
・「置賜木」木工教室の開催では、自由な発想で物づくりに取り組む楽しさや金づちや電動工具等を用いて様々な物が出来上がる喜びを感じてもらうことができた。
・木造建築を学ぶ機会が少なくなっている中、木造建築の良さやすばらしさ、伝統的技術のすばらしさや必要性等を学ぶことができる機会を今後とも提供していきたい。
・木材は、加工が容易で唯一無二な物づくりが可能で、資源循環型社会の構築にも貢献する身近な資源であることを木工教室の開催などを通して今後とも発信していきたい。

3．参加者の声

・林業の現場を初めて見学し、我々が普段使っている木材の根源を直接見れ大変良い機会になった。
・増改築の現場ではその場で加工する手刻技術が必要なことを知り、手刻技術の重要さを学んだ。
・木材の流通経路も様々な機関・方々が携わっていることを知ることができた。
・家が建つまでには知らなかった多くの工程があり、様々な工夫がなされていることを実感した。
・今後、建築について学ぶことに対して、とてもモチベーションが上がる良い機会となった。
・子どもにトンカチを初めて使わせた。楽しく良い体験ができた。
・子どもと組み立て作業ができてとても良かった。

実績報告とりまとめ表

実施時期		9月1日 10月23日	9月27日	9月29日 10月12日 10月19日～20日 11月3日	2月21日	計
事業内容		地域材利用セミナー ・アウトドアファニチャーの製作 ・植栽体験	地域材利用セミナー 「置賜木」体感ツアー（伐採～加工～建築を巡る）	「置賜木」木工教室 ・南陽市親子木工教室 ・川西町親子木工教室 ・山形県林業まつり ・飯豊町こども木工教室	置賜森林ノミクス推進フォーラム2025	
参加者数	県内 県外 計	24人 人 24人	36人 人 36人	193人 人 193人	61人 人 61人	314人 人 314人
実施場所		山形県：米沢市、南陽市、高畠町、川西町、飯豊町、山形市				

フォレストサポート・2024

ガールスカウト山形県連盟
〒990-0031　山形県山形市十日町 1-6-6
山形県保健福祉センター 4F

1．活動の概要

目的：2015 年に植樹した「森」の下刈り等の手入れをし、森づくり保全活動に取組む。
森や木にふれる森林体験学習を通じ、より森林を理解し環境問題への理解を深め、SDG13、15 に貢献する。

内容：・育樹活動：下刈り・葛の根駆除
・森林体験学習：森の木への名札付け・宝物（エコカード）さがし）

2．活動の成果

・森づくり活動（下刈り / 葛の駆除）により地域の里山保全に寄与できた。
・「育樹」の大切さを学び、「美しい豊な自然」を守るために、より森林への理解を深める姿勢を養うことができた。（SDG13・15）
・ゲーム宝物（エコマーク）さがしでは、地球をまもる環境に配慮した商品やサービスを知る事ができた。
・日頃使う事のない“鍬・剪定はさみ”を使っての活動は、技術の習得や安全について学ぶ事ができた。
・木に名札を付けることによって、木々をより身近に感じることができた。
・一般参加者と協働する事によって一般参加の方にも「森づくり」に対する関心を促し、SDG13・15 について意識を高めることに寄与できた。
・育樹活動、森林体験学習ともに成果を上げているので、毎年新会員が参加するので木が育つまで継続していきたい。

3．参加者の声

・木が見えないほど葛がまきついていて手入れをしないと育たないと改めて思った。
・葛の根が太く、ケイピン打ちが大変だった。
・鎌がきれないところがあり大変だったけど楽しかった。
・ただ名前を知っているというだけでも、不思議とその木と親しくなった気になる。
・蛇、珍しいチョウの蛹、カマキリ、カエル、カナヘビを見つけたよ。
・宝物（エコマーク）探しは楽しかった。いろんなエコマークを知った。生活の中でも気にかける
・環境関連の話もあり勉強になった。

実績報告とりまとめ表

実　施　時　期		8 月 31 日 10 月 5 日	10 月 7 日	10 月 13 日		1 月 31 日	計
事業量 又は 事業内容		事前準備 ・案内状 ・しおり作成	現地踏査 （下見）	＜育樹活動＞ ・下刈り ・葛の根駆除	＜森林体験学＞ ・木の名札作成 取付 ・宝物さがし	事後活動 ・報告書作 成	
参加者数	県　内 計	6 人 6 人	3 人 3 人	23 人 23 人		6 人 6 人	41 人 41 人
実　施　場　所		事務局	山形県山形市松原（ガールスカウトの森）				

手入れが必要なヒノキ林（那珂市有林）の
保全整備と周辺の谷津田及び里山の環境保全事業

なか自然の会
〒319-2104　茨城県那珂市平野 1800-395

1．活動の概要

・活動目的：荒廃しているヒノキ林（4ha）伐採と間伐材の活用を通じて里山林の保全整備。古徳の谷津田周辺は白鳥の県最大の飛来地であり後世に残すべき貴重な自然かある。同時に周辺の森が整備されていないため過去不法投棄の温床になっていた。

・活動事業：①森林 ESD の一環として瓜連小学校と連携し林業・森林体験の場を提供
②間伐材を放置するのではなく全て福祉施設の燃料として活用　③長田谷津周辺の整備により見通しを確保する事で死角を無くし不法投棄を防止　④整備過程で出来た作業道路と周辺の史跡を活用した約 10km の散策コースを月 1 回整備

2．活動の成果

・主活動のヒノキ林は月 1 回以上整備している。①約 70％整備が完了しているが継続して活動を実施する必要がある。②当該森林を使用した林業森林体験会は小学校の授業の一環定着してきた。11 月 9 日の学校行事に小学 4 年生が自然を生かしたイベントを企画し当会が協力（別紙参照）
③長田谷津や周辺の里山に対する不法投棄やごみのポイ捨てはほぼセロ。さらに徹底して活動
④伐採で発生した間伐材は時間がかかるが 60cm に全て玉切後施設で給湯用燃料として使用。
⑤散策路（静古徳古道）総延長 10km は市民の方の散歩道として市外からの訪問者も増えている。

・課題は会員の高齢化への対応…省力化や安全対応の器具の導入。新規会員の確保。

3．参加者の声

・小中一貫教育 10 周年企画の小学 4 年生の企画は大成功。小学生が説明員になって保護者や地域住民へドングリ遊び、竹とんぼやプランターの作り方を説明することで自然への理解が深まる。

・社会福祉協議会との共同企画「夏休み森林体験」は毎回好評でリピートの小学生も増えている。

実績報告とりまとめ表

実　施　時　期		8 月 4 日	9 月 9 日	計	備　考
事業量 又は 事業内容		那珂市小中学生 29 名、保護者 14 名応援者 5 名、会員 10 名　合計 58 名	8 日、9 日 2 日間児童 58 名先生 2 名会員延 19 名応援 2 名　白鳥学園	11 月 12 日樹木観察会住民 9 名講師他 2 名　計 11 名	定例活動 年 25 回× 10 名＝250 名　　※ 2 月体験会 80 名予定
参加者数	県　内 県　外 計	58 人 人 58 人	81 人 人 81 人	150 人 人 150 人	延 480 名
実　施　場　所		茨城県　那珂市			

地域材による木工技術の普及と木材利用の普及促進事業

特定非営利活動法人 やみぞの森
〒310-0903　茨城県水戸市堀町 1225-13

1．活動の概要

⑴ 木工技術の普及を目的として、地域材を活用したDIY塾を毎月1回、年間12回開催した。専門技術者の指導の下で基本から学び、各自が自由な発想で家具づくりを楽しんだ。
⑵ エコプロ2024へ出展し、森林整備や環境教育などの活動状況、間伐材によるベンチ等を展示した。例年好評な「やみぞの森の自然素材によるワークショップ」も実施し盛況だった。
⑶ 森林環境保全のため実施している様々な活動の情報発信として、ニュースレターを発行し、当法人パンフレットとともにイベント会場等やＤＭで配付した。
⑷ 森林環境の研修会は、水府プレカット事業協同組合と（株）小池住建の工場見学を実施した。

2．活動の成果

⑴ DIY塾では、専門技術者の指導を受けた結果、参加者全員が自身でテーブル、小椅子、棚などを作れるまで上達した。木工技術普及は、地域材の利用拡大と地域活性化に有効である。
⑵ パネル展示だけでは分からない実物見本を見て触ってもらう実体験と共に、木の実など自然素材によるワークショップを行い、森林を身近に感じてもらう効果が認められた。
⑶ パンフレットやニュースペーパー、研修会などを通し、森林環境保全の啓発に繋がった。

3．参加者の声

・自宅のウッドデッキ用に作ったテーブルは、家族でバーベキューをする時に活用している。
・DIY塾ではカンナの刃の研ぎ方から専門家に教わり、本格的ですっかり木工にハマった。
・ワークショップでは、自然について学びながら楽しく作ることができて良い体験だった。
・エコプロはこのコーナーに来るのが楽しみで一番先に探してきた。自然素材が素晴らしい。
・自分で作品が作れる上に森の木の実等を使うことで自然についての学習もできるのが凄い。
・間伐材で作ったベンチは木目がきれいでガッチリできていて、座り心地がとても良かった。

実績報告とりまとめ表

実　施　時　期		7/14～6/8	12/4～12/6	計
事業量 又は 事業内容		「DIY塾」 毎月第2日曜日 年間12回開催	「エコプロ出展」 ワークショップ を3日間無料開催	その他「研修会」 木材加工に関する工場見学18人
参加者数	県　内 県　外 計	117人 12人 129人	14人 183人 197人	148人 196人 344人
実　施　場　所		○茨城県：笠間市、常陸太田市、水戸市、○東京ビッグサイト		

高原山麓における森林の保全・再生活動と木材の利用に関する普及啓発

くまの木里山応援団
〒329-2213　栃木県塩谷町熊ノ木 802

1．活動の概要

高原山麓における森林の保全・再生活動と木材の利用について、多様な人々に理解していただくための普及啓発を行うことで、人と自然の関係性の回復をめざすことを目的に、たかはら里山の集い（講演会、展示紹介、記念植樹）を実施した。

たかはら里山の集い前日（11 月 16 日）には、講演会、展示紹介、記念植樹の会場の刈払いや植樹する部分に穴を掘るなどの準備を行なった。

東京大学寺田徹准教授により「里山と人との新しい関係性」、西粟倉村白籏佳三主任により「再エネで村のエネルギー自給率を 100％に」、森の仲間たちの森大顕代表取締役により「薪ボイラーの展開」、アップサイクルの瀧井和篤事務局長により「創意工夫でヒノキを資源化」についてそれぞれ講演いただいた。

展示紹介では果樹 woodcrafts による木製食器（コップ・ボウル・皿）の展示をはじめ、風呂桶屋えんによる木製寿司桶や味噌桶の展示、くまの木里山応援団による薪割り体験やエコストーブ、ペール缶窯の展示、アップサイクルによる木由来の紙糸などを展示した。記念植樹ではコナラ苗を中心に一般参加者とともに植樹を実施した。また、後日くまの木里山応援団にて、ヤマザクラ、ホオノキ、カキ、スギ、ヒノキ苗を植栽した。

高原山開き（2025 年 5 月 11 日開催予定）の準備として、12 月 4 日に登山道の巡回と放射線量の測定を実施し、高原山開き木製バッチを作成した。2025 年 5 月 11 日開催予定の高原山開き参加者に配布予定である。

2．活動の成果

東京大学寺田徹准教授は家庭や地域での資源活用をより進めることで、地域の風土や独自の景観というものが形成されることを示唆された。そして、西粟倉村白籏佳三主任は木質バイオマス利用のためには、地域性＋優位性＋実現性＋継続性が必要であることを示した。森の仲間たちの森大顕代表取締役が進める「薪ボイラーの展開」も環境面においては優位性が理解できるものの、投資金額が想像以上に高いことから、現在の社会情勢では木質バイオマス利用は限定されると考えられ、実践者の報告はわかりやすかった。アップサイクルの瀧井和篤事務局長は現在の服の素材はほとんどが海外産であることから、奈良時代から和紙から糸をつくる文化があったことに着目し、針葉樹材から糸を作り、昨年製品化をしたことを紹介された。熱利用だけでなく、針葉樹材から糸を作って製品化することも、里山の資源活用になり、地域の風土や独自の景観というものが形成されることが推察された。

木製品の展示では、「皿」に集中的に注目が集まった。確かに皿であれば、家庭での利用頻度が高まる可能性がわかった。木製品については、人々と対面で感じてもらえることが大切で、今後も積極的に取組んでいきたい。

今回の記念植樹は参加者からの評価が高く、植樹をしながら話しあえるのも良かったようで、今後も植樹する機会を提供していきたい。

高原山開きのバッジは記念品になるとともに参加者として一目でわかるので、イベントの管理・運営として役立っている。引き続き木製品の PR に努めていく。

3．参加者の声

西粟倉村白籏佳三主任は長年村での木質バイオマス利用を担当されてこられ、「海外メーカーによる設備点検は想定外に大変である」ことなど、里山資源の循環利用を考える上で木質バイオ

マス利用は大切なことであるが、日本製で展開されていないのが課題ともいえる認識で一致した。木製品については、「皿」に評価と魅力を感じる方が多く、「皿」の一般家庭での普及はありうるという手ごたえを得た。植樹体験は活動開始時には消極的な参加者が多かったが、植え方を個別に伝えると、積極的に植樹をされるようになり、植樹体験終了時には参加者からいろいろな会話が生まれるなど、参加者同士のコミュニケーションが生まれる良い機会であった。高原山開きでは例年咲いているヤシオツツジが地球温暖化の影響でほとんどみられなかったことから、開催時期の検討の声が多数出ていたことから、2025 年は 5 月第 4 週から第 2 週の日曜日開催に変更した。

実績報告とりまとめ表

実　施　時　期		11/16	11/17	計
事業内容		たかはら里山の集い（準備）	たかはら里山の集い	
参加者数	県　内 県　外 計	7 人 2 人 9 人	25 人 13 人 38 人	32 人 15 人 47 人
実　施　場　所		栃木県塩谷町		

森はともだち　楽しくまなぼう　森友　楽校

ぐんま森林インストラクター会
〒371-0846　群馬県前橋市元総社町 739-5

1．活動の概要

自然観察会、森の恵み体験、木登り体験、森づくり体験を通じて、自然と親しみ、自然環境の保全に理解を深めてもらうため、自然、特に森林を舞台に普及啓発活動や森林環境教育を行なった。

2．活動の成果

各種イベントでは、体験を通じて森林生態系、生物多様性をふまえた解説を行い、幅広い参加者に対し、自然のすばらしさを五感で実感してもらうことで、その維持、保全の必要性を認識してもらうなど、森林環境に対する理解を深めることがきた。

今後も積極的にイベントを通じた活動を継続してゆきたい。

3．参加者の声

・樹木や植物について詳しく説明して頂き、とても勉強になりました。
・とても楽しかったです。植物の特徴や名の由来など聞いて興味がわいてきました。森林の働き、火山の地形の榛名山の成立ちなど、たいへん勉強になりました。

実績報告とりまとめ表

実施時期		6年 7月 6日	7月 20日	8月 24日	9月 28日	10月 12日	10月 27日	7年 5月 31日	計	備考
事業内容		自然観察会 林業体験	自然観察会	自然観察会	自然観察会	自然観察会	自然観察会 木登り体験	自然観察会		
参加者数	県内 県外 県外	2人 0人 2人	31人 0人 31人	29人 2人 29人	26人 2人 26人	26人 0人 26人	11人 0人 11人	21人 2人 21人	140人 6人 146人	
実施場所 群馬県		前橋市 サンデンの森	片品村 日光白根山	高崎市 榛名山	みなかみ町谷川岳山麓	渋川市 伊香保森林公園	前橋市 サンデンの森	沼田市 玉原湿原		

植物観察と水生生物観察を通した環境教育事業

特定非営利活動法人思いをつなぐ会
〒370-0068　群馬県高崎市昭和町 158-17

1．活動の概要

環境問題に興味を持つきっかけとなる第一歩として誰でも気軽に参加できる川の観察会と植物の観察会、環境学習会を行いました。

・川の観察会：川を一定の範囲に区切り、気温・水温・流れの速さなどを観測した後に、網などで捕獲した生物を種類ごとに区分けし数を集計して川の水質階級を調べました。環境の話と生物の特徴や川の様子について教えていただき、捕獲した水中生物は活動の最後に川に返しました。
・植物観察会：普段何気なく見ている植物や見過ごしている植物が多く、一つ一つ丁寧に解説を受けながら植物を観察しました。外来植物が増えていることも問題になっていると教えていただきました。
・活動の様子をまとめた写真中心の資料を配布して普及啓発につなげました。

2．活動の成果

参加しやすい場所での観察会で環境問題を身近なものと捉えることができ、子供たちの参加も多く楽しみながら観察ができ、普段の川遊びだけでは得られない学びができました。「国民参加の森林づくり」の大切さを実感する機会となり次世代の後継者づくりにもつながったと思います。

3．参加者の声

・子供達と参加できて単家族だけではできない体験ができ良い勉強になりました。
・川の中にこんなにたくさんの生き物がいることに驚きました。
・みんなが少しずつ環境の事を考えることで川や森が元気になるのだと思いました。
・普段見逃していた植物や綺麗でかわいい花たちがたくさんあり楽しかったです。
・身近な植物観察で環境の話が聞けて見識が広まり、また参加したいです。

実績報告とりまとめ表

実　施　時　期		7 月 28 日	9 月 21 日	計	備考
事業量 又は 事業内容		水生生物調査	植物観察会	全 2 回	
参加者数	県　内 県　外 計	36 人 人 36 人	16 人 人 16 人	52 人 人 52 人	
実　施　場　所		群馬県　高崎市浜川町			

学校における『木と森のSDGs』を推進する支援ツールの制作

ＮＰＯ法人木育・木づかいネット
〒103-0027　東京都中央区日本橋３丁目２番14号
新槇町ビル別館第一１階

１．活動の概要

本事業は、学校において木や森について学ぶツールとして、教員用の指導案、学習シート等の資料を制作、整備し、小学校等における自立的な実践活動の展開を支援することを目的として実施したものである。また、それらの資料を活用し、効果を検証するための実践を、中学校、学習塾、学童保育の３か所において進めた。

説明資料等については、教員経験者、学童保育の指導者等の助言を受けながら、わかりやすい内容、表現で作成した。指導案については、３時間構成の単元として作成し、事前学習からまとめの学習までツールを用いた学習指導案を開発することができた。また補助的な資料として、ツールの解説のためのスライド集も用意した。

実践においては、中学校、学習塾、学童保育、大学の４か所において、小学校１年生から中学生、大学生を対象として進めた。実践は自立的な学習活動の有効性を検証するために指導者を派遣せず、それぞれの実践場所の指導者に依頼した（大学を除く）。指導者に対しては、あらかじめツールの活用方法、実践に向けたSDGsに対する説明を行い、実践を進めた。実践の結果、ツールの内容についての理解が早く、参加者の意欲はいずれの実践場所でも非常に高かった。またSDGsや森林、木材利用への理解が深まった、多様な考え方に触れることができた、もっとやりたいなど、前向きな感想が聞かれ、実践の効果の一端が明らかとなった。また学校だけでなく、様々な場所において実践が可能であることが示唆された。

２．活動の成果

各実践者から、本ツール、資料の有効性が高く評価され、事業の目的は達成されたと考えられる。また学校だけでなく、学習塾や学童保育などでの実践結果から、社会教育的な場における実践の可能性が高まり、指導者研修等を通じて、このツールの普及拡大が期待できると考えられる。

一方、実践においては、資料集の充実や実践方法の改善についての意見が示され、補足的な説明資料等の制作が必要なことが明らかとなった。本事業においては、児童・生徒を主たる対象とした実践を進めたが、高校生や大学生、成人を対象とすることで、より深く、主体的な学びの実現が期待される。ツール等の課題を整理、改善しながら、実践の拡大に向けて今後も支援活動に努めていきたい。

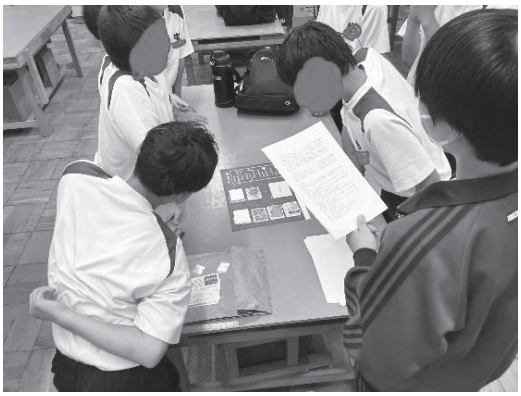
３．参加者の声

●どんな問題があるのか知ることができた
●他の人の意見をよく知ることができた
●多様な考えがあることがわかった
●実際にツールを使った解決策を実行してみたくなった
●2030年までに本当にできることもあるのではないかと思った
●ツールカードを増やしてほしい
●ツールカードはもう少し使いやすいものもほしい
●このゲームの大会をやりたい
●自然以外の内容の同じゲームもやってみたい

ほとんどの参加者から「楽しかった」、「難しい部分もあったけど楽しかった」と前向きで、ネガティブな感想は出ず、様子を伺っていても否定的な姿勢は伺えなかった。

実績報告とりまとめ表

実　施　時　期		月　日	計
事業量 又は 事業内容	埼玉大学 さいたま市立木崎中学校 株式会社 SAIL 学童保育アウルさいたま中央スクール	4 月 28 日 6 月 2 日 6 月 18 日 6 月 27 日	1 回 18 名 1 回 14 名 1 回 12 名 1 回 15 名
参加者数	県　内 県　外 計		59 人 人 59 人
実　施　場　所		埼玉県さいたま市	



シンポジウム「広葉樹 新時代！―変動する世界市場と国産材利用への道」

「森林･林業･山村問題を考えるシンポジウム実行委員会」
〒113-0034　東京都文京区湯島 1-12-6　高関ビル 3A

1．活動の概要

近年、国産広葉樹材が再び脚光を浴び始めているが、一方で、良質な材の入手が非常に困難になっている現実がある。従来の基準では良質とはいえない材をいかに使いこなしていくか、多様かつ新たな価値を見いだす取り組みが各地域で進んでいる。今回は、特に広葉樹材の利用に焦点を絞り、第一線の現場で実践的に活動する方々として、日本における広葉樹家具製品の一大産地・北海道旭川の流通業、家具製造業のそれぞれ代表者、および本州の代表的産地岩手県の最大の流通業者、そしてこの分野に造詣の深い研究者を招き、国内外の広葉樹資源の有効利用について議論し理解を深めることを目的とした。

2．活動の成果

当日は、例年になく多くの参加者を得、報告及び討論では当該業界の状況について、北海道と東北の違いも含め、歴史的経緯から現在の客観的な状況の位置づけまで広く把握されると共に、将来に向けての課題等も提示されたことから、参加者は今後必要とされる取り組みについて具体的な示唆を得ることができた。また将来の方向性については、かなり前向きな感触を得ることができたと思われる。

主催者としては、今後、来年３月に予定されている『林業経済』誌への討論要旨の公表等を通じて、これらの有益な情報を各方面に可能な限り広く普及することに努めたい。

3．参加者の声

参加者は、今回は広く業界に関係した様々な立場の方々の参集が見られたが、総じて、多様な情報が得られたこと、課題の掘り下げ等も適切に行われたこと等について高い評価があり、好評だった。

実績報告とりまとめ表

実　施　時　期		10 月 5 日	計
事業内容		シンポジウム	
参加者数	県　内	人	人
	県　外	人	人
	計	138 人	138 人
実　施　場　所		東京大学農学部１号館８番教室（東京都文京区）	

持続可能な社会の実現のために、森と人・生き物との関わり方のこれからを考える連続講座・意見交換会

「森づくり政策」市民研究会
〒113-0033　東京都文京区本郷 2-25-14
第 1 ライト 405 号

1．活動の概要

森林と人と生き物たちとの関わりのこれからについて、取り組み事例などを基に有識者･実践者･市民らが共に考え、協働していくきっかけの場として、講座・シンポジウム、意見交換会等を行っている。

2024 年度は会場集合形式での講座を 1 回、オンライン配信講座を 3 回（内、地域会場と連携した開催が 1 回）実施した。

(1) 連続講座『" 森づくり " と " まちづくり " を一緒に考えよう！～市民が参加・協力して地域の森林ビジョンをつくるには～』出演 : 井上有加、入交律歌、西守信二、溝口隼平、國武智仁
(2) 連続講座『tt 保持林業 vv って何だろう？～人工林の生物多様性を高める方法を探る～』出演 : 相川高信、山浦悠一
(3) 連続講座『私たちは次世代にどんな森が残せるのか ?』出演 : 内山節、佐座マナ、佐藤岳利
(4) 連続講座『能 : 登林業の今とこれから』出演 : 奥田和也、亀井順一郎、関軒明宏、相川高信、船本真美

2．活動の成果

配信形式での実施により、全国各地域の関心層の参加を促し、連続講座 4 回の実施で合計 719 人の申し込みがあった。会場集合形式で実施した回では、森林・林業に関わる方たちのネットワーキングの機会創出にもつながった。

3．参加者の声

・湿原・山林の保全活動をしているが、生物多様生保全を計画する上で参考になった。

実績報告とりまとめ表

実　施　時　期		11 月 16 日	2 月 20 日	5 月 24 日	6 月 20 日	計
事業量	4 回	1 回	1 回	1 回	1 回	
参加者数	県　内	2 人	84 人	100 人	7 人	436 人
	県　外	28 人	152 人	252 人	5 人	780 人
	計	30 人	236 人	352 人	12 人	1, 216 人
実　施　場　所		熊本	大阪	岐阜	東京	

森林資源の活用と伝承を活かした森林環境教育

特定非営利活動法人自然文化誌研究会
〒191-0053　東京都日野市豊田三丁目28番地の2

1．活動の概要

森林資源を実際に活用し、燃料（材）の入手、火の利用を実際に行う。炭焼き窯を体験し、炭を利用する。

都市住民が森林資源を活用する機会を生み出す。

多摩川の水源である山梨県北都留郡小菅村は、面積の95%が森林である。間伐作業をはじめ森林の維持と管理はこれまでにも各方面で活動がなされている。実際に青少年を対象とした植栽活動や間伐体験事業、森のようちえんなど多くの事業を展開されている。

森林の水源機能だけではなくエネルギーとしても見る目を養い、燃料の入手・加工・活用・保存等を積極的に学ぶ環境学習プログラムを行う。参加者は小中学生、スタッフとなる高校生～大学生も学ぶ側となり、実際に中長期キャンプを行う。講師には日常的に森林資源を活用する地元民とし、森林の有効性や森林資源とエネルギーに囲まれる山村の豊かさを学ぶ森林環境教育・体験学習の場の充実を図る。

・参加者が森林に入り、材の調達、加工、活用を行う。
・焚火（暖まること）、調理（食事）、風呂沸かしなど、日常生活で当たり前に存在することの根本を自らの手で実践して体験する。
・地元住民を講師に、炭焼きなどの伝統的な知恵を学ぶ。
・8/3-9、12/26-28、5/3-5に山梨県小菅村にて環境教育キャンプを行う。

2．活動の成果

農山村が過疎になり、地域住民だけでは伝承・継承できない事を、都市住民の参加により遊びや楽しみを取り入れながら繋ぐことをイメージし、継続してきました。その結果、農山村へ興味を持ち、通うきっかけになり（使命感を持つのではなく、まずはファンになる程度で良い）、結果として農山村に経済的効果や、都市住民の移住など成果が実際にあると思います。

今回感じたのは､｢地域住民｣が減少している事。｢地域住民｣に移住者が多く含まれ始めている事。今回、「炭焼き窯」のプログラムが、古老が維持できなくなり実施できませんでした。今後ますます、今までできたことができなくなります。その中で次代に必ず伝えなくてはならないことを絞りながら進めていく必要があるかなと思います。すべてを伝承･継承はしきれないと思いますので、そのあたりの調査も進める必要があると感じました。

3．参加者の声

参加者の声が上手く集められませんでした。申し訳ありません。

活動の様子の写真を別添で提出しますので、その中で感じている事が観られれば幸いです。

実績報告とりまとめ表

実　施　時　期		8/3～8/9	12/26～12/28	5/3～5/5	計
事業内容		「こすげ冒険学校」	冒険学校 「まふゆのキャンプ」	冒険学校 「むらまつりキャンプ」	
参加者数	県　内	1人	2人	5人	8人
	県　外	67人	43人	86人	196人
	計	68人	45人	91人	204人
実　施　場　所		山梨県小菅村			

森林・水の活用と保全の推進等に関するシンポジウム

一般社団法人産業環境管理協会
〒100-0011　東京都千代田区内幸町一丁目３番１号

１．活動の概要

森林・水は国民一人ひとりのウェルビーイングを高める重要な要素のひとつであり、脱炭素等の課題解決に有用なことから、森林・水を巡る取組等を内容とするシンポジウムを開催しました。

遠方のかたも参加しやすいようにハイブリッドで開催しましたが、各講演のあとに質問を受け付け、双方向型で開催しました。

２．活動の成果

森林が有する多面的機能については、炭素中立への寄与するほか、自然再興、資源循環といった課題の解決に有用です。しかし、自然再興についてはＯＥＣＭの設定を促進することも必須であり、生物多様性増進活動促進法の成立を受け、企業、行政、ＮＰＯといった各主体の連携を促進するための枠組み等の法の概要とともに、ウェルビーイングとも深いかかわりがあることへの理解が深まりました。

参加者へのアンケートでも満足度が高いという結果でした。シンポジウムへの参加者から、関係機関や社内等での情報共有も期待でき、普及啓発活動動を継続的に実施することの必要性を認識しました。

３．参加者の声

参加者へアンケートを実施しましたが、９６％が「大変よかった・よかった」と回答しており、参加者にとってもシンポジウムは有益であり、貴重な機会であったといえます。

具体的な意見の一例として、「森林にフォーカスしたテーマで、全体が分かり易いシンポジウムでした」、「バランスの良いテーマ配分と内容となっており、非常に参考になりました」、「企業としてどのように森林に、生物多様性に貢献していくべきか、どのようなことができるのかを今後考えていかないといけないと感じました」がありました。今後取り上げてほしいテーマ・内容について、生物多様性保全、企業の森などの森林を活用した事例との回答が多くあり、頂いた意見を今後の活動の参考にしていきたいと思います。

実績報告とりまとめ表

実　施　時　期		９月５日	計
事業内容		シンポジウム開催	
参加者数	県　内	186 人	186 人
	県　外	40 人	40 人
	計	226 人	226 人
実　施　場　所		東京都港区／ Zoom	

大学生を対象とした森林環境教育プログラム

特定非営利活動法人 Peace Field Japan
〒101-0051　東京都千代田区神田神保町 2-20　新協ビル 304

1．活動の概要

11 月 9-10 日に、山梨県小菅村において、大学生、大学院生（留学生含む）が森林保全活動体験などを通して森林や中山間地域の現状、課題にふれ、自らの行動につなげる環境教育プログラムを実施した。

1 日目は、森林と里山地域の価値や課題について学ぶ里山講座を行った後、森林資源活用の取り組み事例の視察を行なった。森を観光資源として活用し、来訪者に森への親しみを持ってもらいながら、管理が困難になった森林の維持管理につなげることを目的とした観光施設、間伐材を利用して温泉の水を加温している薪ブロイラー、森の荒廃で深刻になっている獣害に対処するために設立されたジビエ解体処理施設、省エネ省資源を掲げて建築されたタイニーハウスを視察し、様々な森林資源の活用法、実践例を学んだ。

2 日目は、間伐を体験し、森のサイクルと森林管理の必要性を学び、管理の大変さを実感した。高齢化と担い手不足で森を維持していくことが難しい現状、林業のために管理されてきた森も、最近は環境を守るための環境林として保全していくアプローチになっており、村外の人と共に守る取り組みが行われていることを講師が話してくれ、森の課題に自分も関われることを知った。そば打ち体験では、自然の恵みとその土地の自然とつながった伝統の食文化の価値にふれた。また、間伐材を使って伝統の箸作りを体験し、木を利用する文化、手仕事の技を学んだ。最後のまとめでは、自分にとっての森の意味をテーマに意見や感想を共有した。

2．活動の成果

SDGs や環境に関心の高い学生、大学院生が参加し、森林管理作業体験や森を守り活用する事例の視察に熱心に取り組んでいた。一方、「里山地域を初めて訪れた」、「中山間地域が抱えている課題を初めて知った」、「普段飲んでいる水が小菅村から流れ出ていて、健全な森があってこそ自分たちの暮らしが成り立っていることを初めて認識した」、という参加者が多かった。また、留学生が、自国の森林や都市から離れた地域の状況を共有し、様々な視点で考えることができた。

道の駅周辺での森林資源を活用した取り組みや、森の荒廃に起因する獣害対策としての取り組みの事例の視察では、従事する村民から取り組みの理念やビジョンを聞き、自然や森への責任感、使命感、生き方にも触れる機会となり、意識を喚起する学びとなった。また、森林管理作業を実際に体験し、作業の大変さを実感したと同時に、社会の変化に伴う森林を取り巻く環境の変化、多くの課題を抱えている現状にふれ、代々継承されてきた森を維持管理し、次世代に継承していくことがいかに困難か、講師の話から、自分に何ができるかを真剣に考えるきっかけとなった。

まとめのワークショップでは、中山間地や森林を取り巻く課題は、自分たちが暮らす都会と離れた地域の問題ではなく、自身の課題だと気づいたという感想が多く聞かれた。今後、森を守るボランティア活動に参加したい、授業でこの体験を発表したいなど、意欲的な姿勢が見られた。引き続き、各大学のボランティアセンターや教員と連携して機会を提供していきたい。

3．参加者の声

・里山における人と自然とのバランスが大切なこと、人間と動植物との関係性によって里山が成り立っていることを学んだ。
・自然という大きな枠組みの中で人が生かされていると実感した。
・初めて里山という地域を実際に訪れ、日本の里山の地域社会、森林が様々な課題に直面していることを知った。日本の中山間地域の将来の姿を想像し、何かしなくてはいけないと思った。

・自分が普段飲んでいる水がどこから来ているのか、また、下流域の人たちに水を供給するために、課題が多いのにも関わらず、上流域の責任を果たすために森林管理や保全に取り組んでいる人たちがいることを初めて知った。日本の国土の大半は森林なので、自分も何ができるか考えていきたい。
・森林を守り活用する取り組みが多く行われていて、従事している人たちが、手間がかかる作業なのに、持続可能性に貢献しようとする高いモチベーションを持って取り組んでいることが印象的だった。
・以前は、林業として売るための良い木を育てるために管理作業を行っていたが、人工林の管理が難しくなってきた現在、自然環境を守るために森林を管理するという環境林の考え方を知った。自分も自然環境の保全に関わりたいと思ったので、このような森を守る活動に今後も参加してみたい。
・自分が知らなかったことが多く、自分の周りの学生も知らないことが多いと思う。環境に関する授業をとっているので、今回の体験を発表し、周りの学生に伝えたい。

実績報告とりまとめ表

実　施　時　期		11 月 9 日	11 月 10 日	計
事業量 又は 事業内容		里山講座 森林資源活用の取り組み事例視察	森林保全活動 地元の食材を使った伝統食作り体験 間伐材を使った箸作り体験	
参加者数	県　内 県　外 計	人 25 人 25 人	人 25 人 25 人	人 25 人 25 人
実　施　場　所		山梨県県小菅村		

設計者等に対する木材・木質建材等の体験型セミナーの開催

一般社団法人木のいえ一番協会
〒150-0033　東京都渋谷区猿楽町10-1
マンサード代官山6階

1．活動の概要

カーボンニュートラルの実現、建築における国産材需要の拡大等を図るため、これから建築物の構造材や内装材等の選択決定権を有することになる若手設計者等10名に対し、木材や木質建材を使用する意義や使用方法等について、木造建築物や施設等の現場視察も含め、見て・触れて・体感することを目的とした体験型のセミナーを2025年6月13日(金)に東京･高尾山周辺にて実施。

2．活動の成果

自然環境・歴史景観と調和した木造・木質化のあり方を考えるや木材や木質建材を使用する意義を森林・林業・地域経済の観点から考える、また、木材・木質建材の起源となる森林環境の中で樹木や森林の機能等を体感し理解を深めることができた。今後も継続して国産材利用や木質化の意義を若手設計者等へ伝えるべく、webコンテンツや分野を拡充しつつ研修事業への展開を検討。

3．参加者の声

・今回の研修では、普段扱うものとは異なる木造建築の見学を通じて、木材の種類やメンテナンス方法、設計思想の違いなど多くの学びを得ることができた。特に駅などの大規模施設の木質化を実際に見ることで、木材の可能性を改めて実感し、非常に有意義な時間となった。
・高尾山でのフィールドワークでは､専門家の解説を聞きながら歩くことで､これまで気づかなかった自然の魅力や森林保全の重要性にも触れることができた。
・木材や森林に対する理解が深まり、日常業務では得られない貴重な体験となった。今後もこのような学びの機会が継続されることを希望。

実績報告とりまとめ表

実　施　時　期		6月13日	計
事業量 又は 事業内容		体験型セミナー	1回
参加者数	県　内 県　外 計	10人 人 10人	10人 人 10人
実　施　場　所		東京都八王子市高尾町(高尾山口駅･高尾森林ふれあい推進センター･高尾山)	

ソフィアの森の整備

上智大学大学院地球環境学研究科
〒102-8554　東京都千代田区紀尾井町 7-1

1．活動の概要

上智大学大学院地球環境学研究科の教員及びボランティアの森林インストラクターの引率のもとで軽井沢のソフィアの森を散策しながら森林環境や生態系について解説をしてもらえる市民講座を開催した。地域住民及び上智大学大学院の学生を対象に行い、特に本期間中は小さい子どもを連れて参加できる親子コースを新たに整備し家族単位での体験学習の場を提供した。

本市民講座は国有林であるソフィアの森を身近に体験する機会を提供し、さまざまな動植物の観察、季節による景観の変化などを観察する環境学習を目的にしている。さらに、今年は昆虫を手に取って観察する企画やキノコを探し出して観察するという企画を実施した。

2．活動の成果

地域住民の方々には地元近くで豊かな自然に触れる機会を提供すると同時に散策を通して健康増進、また専門的な説明を通した環境意識の向上の機会となり、子どもたちと共に家族で生態系について学習する機会を提供できた。大学院で環境学を専攻する学生らには日本の森林生態系が気候変動に与える影響について学ぶ機会となり、今後の研究成果を通して持続可能な社会を実現するために地域環境を活用する市民参加型の活動が持つ重要性や実施形態の事例を実践的に学ぶ機会を提供することができた。親子コースを続けて整備していく予定なので参加者の安全を確保するために道の整備を頻繁に行うとともに引率者の安全教育に関する取り組みを拡充することが必要とされる。

3．参加者の声

森林を身近に感じることができ有益だったとの声があった。その中でも親子コースで昆虫観察とキノコ探し企画が好評だった。

実績報告とりまとめ表

実　施　時　期		2024 年 7 月 27 日	2024 年 8 月 3 日	2024 年 10 月 19 日	計
事業量 又は 事業内容		市民講座	市民講座	市民講座	
参加者数	県　内 県　外 計	9 人 2 人 11 人	5 人 2 人 7 人	6 人 4 人 10 人	20 人 8 人 28 人
実　施　場　所		長野県軽井沢町（浅間山国有林）			

第５回環境書道展併催ミニフォーラム

Tokyo　ひとふで
〒154-0017　世田谷区世田谷 2-7-5

1．活動の概要

森林再生や利活用の重要性への理解を深める普及啓発として、子どもから大人まで幅広い年齢層の参加による海岸林や里山での森林再生活動と子ども達による緑の募金活動を実施している。更に活動内容を、写真や現場で書いた書作品で紹介する展覧会の開催と、林野庁関係者や学術専門家を招いたミニフォーラムを併催することで、一般市民の森林再生活動への理解と関わり方を考える森林 ESD を目的とする。

具体的な内容として、展覧会では上記の活動写真や書作品の他、鹿児島県屋久島の絶滅危惧種ウミガメの国内最大産卵地である永田浜で、森を復活させる為の抵抗性クロマツ等を植樹する様子を映像でも紹介。また全国天然木化粧合単板工業協同組合との連携で国産檜の突板約 250 点に国内の希少動植物を書いたモジュール書作品や大作などを展示、森林再生をより促進する為に国産材を活用することの重要性も発信。

併催のミニフォーラムでは「いのちの結びつき」をテーマに NPO 法人森は海の恋人理事長の畠山重篤様が基調講演、世田谷区長の保坂展人様に話題提供をいただいた。また（公）国土緑化推進機構専務理事の織田央様に森林再生活動で緑の募金が果たす役割や意義をお話いただいた他、林野庁林政部木材産業課長の福田淳様、全国木材組合連合会副会長の本郷浩二様、山梨県小菅村長の舩木直美様にご登壇いただき、観覧者と共に森から川を経て海へと繋がる生命の循環のなかで私たちがどの様に関わってゆくべきか、考えを深める機会とした。

2．活動の成果

「森林再生活動も書道もどこか遠いところのものと感じていたが、大変身近なものに思った」という主旨のご感想が幾つか寄せられ、活動目的である森林再生や利活用の重要性への理解を深める普及啓発活動とすることが出来た。更に寄せられた感想から、森林再生活動に国民がどの様に関わってゆくかを考える機会とすることが出来た。

今後も森林再生活動を継続実施してゆくばかりでなく、書をとおしてその重要性を発信するアウトフィールド書道を活用した森林 ESD に取り組む。

3．参加者の声

展覧会では、「水だけでなく山林との関連を知る良い機会となった」「活動、笑顔、書に込められた思い全てに嘘がなく考え方が変わるような展覧会だった」「生活の、社会の、地球環境のなかの書に感動した」「活動を始めて知り、言葉に出来ない受けとるものがたくさんあった」「突板の作品がどれも生き物のようで凄いと思った」「森林の大切さを感じながら書を書く。一般の者ですがこれは行きたいと思った」他、森林再生活動や書道に関して喜ばしい様々なご感想が寄せられた。

ミニフォーラムでは、「書と森林再生の活動に感銘した」「生命の源は森林にある、深くて意味ある言葉です。楽しく興味深いお話で今後も考えてゆきたい」「環境や自然について考えさせられた。子供達の為に大人が真剣に考えなければいけない事がたくさんあると思った」「森と海との結びつき、ひいては人と森とのつながりを深める大変興味深い話だった」「先生や子ども達が書いたパフォーマンスの字がすごくて驚いた」「書道パフォーマンスは迫力があって素晴らしかった」等々、大変有意義なフォーラムだったと沢山のご感想が寄せられた。

実績報告とりまとめ表

実　施　時　期		10月27日	11月26日～12月1日	11月30日	計	備考
事業量又は事業内容		緑の募金	第5回環境書道展	併催ミニフォーラム		
参加者数	計	20人	546人	118名満席	684人	都内、都外の統計は取れませんでした。
実　施　場　所		東急世田谷線上町駅付近	東京都世田谷区「世田谷美術館」	東京都世田谷区「上用賀アートホール」		

「こどもの森づくり in SAITAMA」レガシィづくりプロジェクト

特定非営利活動法人子どもの森づくり推進ネットワーク
〒146-0094　東京都大田区東矢口 2-6-4

1．活動の概要

本事業では、令和５年７月に全国植樹祭の２年前のプレイベントとして開催された「第１回こどもの森づくりフォーラム in SAITAMA」のレガシーづくりとして、埼玉県の保育所・幼稚園・認定こども園・保育支援団体等における「こどもの森づくり」を継続的に支援する活動体制づくりを目的とし、埼玉県内のフィールドを活用した自然保育の実践に向けた取り組みを行う。

2．活動の成果

埼玉県県内および近郊の保育園、幼稚園、認定こども園の保育者、保育関係者を中心に、野外フィールドを活用した「自然体験活動」を実践するための取り組みとして、ミニフォーラムを開催し、実践事例の発表や野外フィールドでの自然体験学習をおこなった。

また、今後、園庭緑化を進めるにあたり、植樹作業などの実践を体験するためのフィールド作りをおこなった。

3．参加者の声

「こどもの森づくりフォーラム in　SAITAMA」に参加し、自然体験の必要性を再認識した。

ミニフォーラムで、実践している園の具体的な取り組みを聞くことができて、自然体験と保育の関係性を深く理解できた。

「さいたま緑の森博物館」のフィールドを使った自然体験学習や植樹フィールド作りでは、子どもたちの興味を引き出し、自然と交わる活動として有効なものと理解できた。

実績報告とりまとめ表

実　施　時　期		2024 年 10 月 14 日	2025 年 3 月 30 日	計
事業量 又は 事業内容		ミニフォーラム開催	植樹フィールド作業	2 回
参加者数	県　内 県　外 計	27 人 3 人 30 人	12 人 人 12 人	39 人 3 人 42 人
実　施　場　所		埼玉県　入間市		

「森から学ぶ」 ～森林生態系サービスについて学ぶ～

公益財団法人 Save Earth Foundation
〒144-0043　東京都大田区羽田 1-1-3

1．活動の概要

1）生態系サービスへの理解推進を目的とする活動

当法人では、長野県東御市と保全協定を結んでいる市有林「東御の森」（渓畔林・SGEC 認証林）の自然環境調査報告書（植物・鳥類・哺乳類・水生生物等）を毎年作成している。今回その中の「植物編」をとりあげて、森林生態系の柱である植物についての理解を広めるツール作成を試みた。

2）森や生態系への理解を深める活動（野鳥を素材とする）

東御市内の団体（公財身体教育医学研究所・里山探検事業・楽育ひろば tomi）と協働して、親子参加の「野鳥のみつけかた」ワークショップを開催、「野鳥ガイド BOOK」の試し版を作成した。

3）東御市内小学４年生の社会科見学（水を学ぶ）への協力

見学コースに「東御の森」見学が組み込まれたため、「森と水の関わり」について説明してほしいとの協力要請が東御市農林課からあった。教員への情報提供や説明資料作成に協力した。

2．活動の成果

1）生態系サービスへの理解推進を目的とする活動

単なる解説ではなく、生態系を意識しながら樹木を紹介することの難しさを痛感、今年度は「東御の森」を象徴する２本の固有種（カラマツとオニグルミ）をいろいろな視点から説明するに留まったが項目整理はできた。今後中山間地を適地とする樹木を順次とりあげて資料化する。NPO 法人やまぼうし自然学校との協働活動として継続予定。

2）森や生態系への理解を深める活動（野鳥を素材とする）

楽育ひろば tomi の活動を、今後も継続して支援する。

3）東御市内小学４年生の社会科見学（水を学ぶ）への協力

「東御の森」は、地域の貴重な水源である所沢川（千曲川上流部）の渓畔林である。今後も学校・農林課から要請があれば協力する。

3．参加者の声

1）生態系サービスへの理解推進を目的とする活動

身近な樹木も四季を通じて見直すと、あらたな興味を覚える。

2）森や生態系への理解を深める活動（野鳥を素材とする）

野鳥の種類によりそれぞれに適する生活環境があることを再認識した。

3）東御市内小学４年生の社会科見学（水がテーマ）への協力

子ども達は熱心に説明を聞いており、その様子は「市報とうみ」にて紹介された。

実績報告とりまとめ表

実　施　時　期		11 月	1 月	2 月	7 月	計	備考
事業量 又は 事業内容		交流会 見学	ワークショップ 交流会	交流会	社会科見学 （協力）		東京都と長野県（東御市）にて開催
参加者数	県　内 県　外 計	59 人 2 人 61 人	45 人 2 人 47 人	7 人 7 人	73 人 1 人 74 人	177 人 5 人 189 人	
実　施　場　所		東京都および長野県東御市					

「医師と歩く森林セラピーロード」

International Society of Nature and Forest Medicine（INFOM）
〒156-0051　東京都世田谷区宮坂 3-19-4

1．活動の概要

本事業は、森林空間内滞在によるストレス緩和が、都市部滞在と比べ有意に上昇することが証明された“森林セラピー基地®”の中から７ヶ所を選び森林医学医同行で開催した事業である。医師は、森林の持つ予防医学的効果の講話とストレス度を含む検査の講評、ガイドは、森林全般の有用性、地元文化との接点等を解説し、森と木と人との共助及び各々の保健を促した。

2．活動の成果

本活動の目的は、一義的には医・科学的実証に基づく森林環境の持つ癒し機能を参加者が体験し健康維持・増進に役立てる事である（豊かな森林が無ければこの活動は成立しない。）。今回は、インバウンド対応可能な基地を中心に最新の実証実験結果を医師が解説し、地元の医科学的な効果のブラッシュアップを図り、すでに海外で浸透しつつある“Shinrin-yoku”へのインバウンド誘導の基礎固めを行った（インバウンドによる都市部のオーバーツーリズムの緩和を想定）。

3．参加者の声

イベント全体：参加者へのアンケート調査で、参加目的の１位が健康目的であり、医師による講話と各種測定により、森林の持つ医科学的効果が具体的に解ったとの感想があった。

セラピスト、セラピーガイドの対応：丁寧。樹木を熟知。ゆっくり歩行。

医師の対応：寝転ぶ、座る等が医学的見地からの説明付きで森の大切さが学べた。

実績報告とりまとめ表

実　施　時　期	事業量	参加者数	実　施　場　所	備考（ロード名 / コース名）
令和６年９月８日（日）	3.5 時間	５名	長野県上松町	赤沢自然休養林（駒鳥コース）
令和６年９月 29 日（日）	4.5 時間	12 名	鳥取県智頭町	天木森林公園コース
令和６年 11 月３日（日）	4.5 時間	22 名	岩手県岩手町	嵐山コース・子抱コース
令和７年３月 20 日（木･祝）	5.5 時間	９名	東京都奥多摩町	登計トレイル及び氷川渓谷
令和７年４月 11 日（金）	５時間	14 名	兵庫県宍粟市	国見の森公園
令和７年５月 18 日（日）	４時間	５名	高知県梼原町	久保谷セラピーロード
令和７年７月６日（日）	５時間	21 名	三重県津市	平倉コース
合計	32 時間	88 名	７か所	

身近な森林で自然遊びを体験し、森への関心を深めよう

NPO 法人くにたち農園の会
〒 186-0011　東京都国立市谷保 5119

1．活動の概要

乳幼児の森林環境教育の普及を目的とし、身近な森や公園で、森づくりの活動を行い、生きる力、森のための４つのアクションを意識した活動を行いました。焚き火の薪を森から運び、収穫野菜を調理していただき、森の木に触れ、クラフトでは、枝のキーホルダー、レザークラフトでスツール作り、木のサンタさんづくり、はっぱスタンプのてぬぐい作り、森の生き物さがし、散策等を行いました。自然の大きさ、美しさ、不思議さ等に直接触れる体験を通して、自然に対する豊かな感性を養うこと、環境を大切に思う心を育てることができました。赤城山や木曽駒ヶ岳など、登山も取り入れ自然に親しむことができました。「森にふれよう」「木をつかおう」「森をささえよう」「森と暮らそう」を実感できる親子の自然体験・環境教育につながりました。

2．活動の成果

今回の活動を通して、小さなお友だち、お母さんたちのやわらかな笑い声が溢れる関係性を作り、子育てを支え合う、協力し合う楽しさを知るきっかけにつなげることができました。森で出会った音、生き物、森の中で親子で作ったクラフトなど、子どもに良い影響を与えていることを実感することが出来たと思います。小さな実体験を積み重ねる子どもたちを見守り合うことで、自分から挑戦する力、楽しいを生み出す力を育くむことができました。活動拠点である城山公園や矢川緑地では、四季を感じ、生き物に出会い、都会の小さな森林と少し足を延ばしてそらっこの森内でのさまざまな活動等を通じて、環境と森林との関係に興味を持ち、理解を深めることが出来ました。子ども達が楽しみながら学ぶ世界を人と自然のかかわりの中で、深く広く作り出していく事をこれからの取り組みの一つにしていきたいと思います。

3．参加者の声

・サンタさん作りやキーホルダーなど、子どもと一緒に作ったもので遊びながら木の温もりを感じられてよかった。
・活動日以外にも家族で森に遊びに行くようになった。活動を通して自然を大切にしようという気持ちが子どもにも芽生えたと思う。
・近所で自然の中で遊ぶ場所があり、驚いた。森の中は暑い日でも過ごしやすいので今後も遊びに行きたい。良い場所を紹介してくれてありがとうございました。
・森の中は気持ちが良かった。
・頂上まで登れて楽しかった。
・スツールつくりは大変だったけど、完成して嬉しかった。大切に使いたい。

実績報告とりまとめ表
身近な森林で自然遊びを体験し、森への関心を深めよう

実　施　時　期	事　業　内　容	計
7月： 5日、7日、12日	夏の森であそぼう！ 虫探し	7月：大人12名・子ども15名
9月： 6日、7日、8日、28日	クラフトをしよう	9月：大人25名・子ども31名
10月： 4日、6日、 25日、26日、27日	森たんけん 森の恵みをいただこう	10月：大人38名・子ども43名
11月： 22日、24日、29日	クリスマス飾りを作ろう 赤城山登山	11月：大人45名・子ども55名
12月： 1日、20日、21日	焚火をしよう スツールつくり	12月：大人27名・子ども30名
3月： 7日、9日、14日、21日	森たんけん 野鳥の観察	3月：大人51名・子ども60名
4月： 19日、20日、30日	ナイフワーク	4月：大人43名・子ども49名
5月： 7日、11日、18日、28日	火起こし体験	5月：大人43名・子ども53名
6月： 4日、25日、29日	生き物探し 木曽駒ヶ岳登山	6月：大人38名・子ども47名
大人 322人 322人	子ども 383人 383人	合計 705人 705人
東京都国立市　　長野県伊那市　　群馬県赤城山		

100 年先もずっと・・[緑と森と森林コンサート vol2』
森と人・心と暮らしを通わせる一日」

ヨーデル北川桜とエーデルワイスムジカンテン
〒 166-0015　東京都港区赤坂 7-5-56　1F

1．活動の概要

目的：森や緑の重要性を伝え、人々の心と暮らしを豊かにする事

内容：・題名：100 年先もずっと・・「緑と森と森林のコンサート」Vol2 ～森と人・心と暮らしを通わせる一日～

・開催日：2024 年 8 月 4 日 11 時～レクチャー付きコンサート　13 時～ハイキング

・場所：岐阜県下呂市皇樹の杜

森林インストラクター伊藤栄一氏による森のお話付きヨーデル北川桜コンサート＆ハイキング　子供たちにも分かりやすい楽しい森の体験を提供 オンライン収録配信付き。

2．活動の成果

人々は、初めて聞く色々な森のお話に、すっかり魅了されてこれはつまようじの原料になるんだ等　森、緑の理解が深まった。子どもだけでなく、大人も童心に帰り、森、緑を楽しんだ。

3．参加者の声

・くろもじとしろもじの話が面白かった。

・森の中にいるだけで健康になるような気がする、お話付きハイキングがとても良かった。

・ヨーデルの歌声が森に響き　とても良かった。緑への理解が深まった。

実績報告とりまとめ表

実　施　時　期		8 月 4 日	計
事業内容		森林インストラクター伊藤栄一氏による森のお話付きヨーデル北川桜コンサート＆ハイキング	
参加者数	県　内 県　外 計	リアル 35　オンライン配信 250 人 県内 33 人 県外 252 人	リアル 35　オンライン配信 250 人 県内 33 人 県外 252 人
実　施　場　所		岐阜県　下呂市・萩原町　皇樹の杜	

森づくり体験による森林・林業に関する普及啓発と、森づくり団体の活動支援事業

NPO 法人森づくりフォーラム
〒 113-0033　東京都文京区本郷 2-25-14
第一ライトビル 405 号

1．活動の概要

森づくり体験を通して、森林と関わりを持つ人々の裾野を広げ、森づくり活動への新規参加者の促進と指導者の育成等の活動団体の支援を図るため、東京都の多摩地域で活動する 6 つの森づくり団体と協力し、「初心者のための森づくり体験会 2024 ～ 2025」を計 6 回開催した（初冬の森：3 回計画中 1 回中止、春の森：4 回）。

これまであまり森づくり体験をしたことがない層に向けて参加の呼びかけを行い、イベントを受け入れるそれぞれの団体の活動するフィールドや特徴を活かし、間伐体験、竹林整備、自然観察、クラフトづくりなどの森林体験を行った。

参加者はリタイア層から、社会人、学生、親子まで、都内を中心に首都圏在住の幅広い人が集まった。

2．活動の成果

都内の図書館へのチラシ送付と共に、Facebook 広告、メルマガ、SNS などでの情報発信を行った。申し込みは Peatix を使った事前決済型とし、activo でも告知を行った。

これまで情報をリーチできていなかった層からの申し込みも増えた。

また、森づくりフォーラムのフィールド対応スタッフの充実を図るため、フィールドスタッフの募集を行い、5 名のスタッフを採用し、体験会に参加してもらった。

森づくり体験会も当初から事務局、団体双方のスタッフも入れ替わり、改めて安全管理の統一を図るため、フィールドスタッフ及び受け令団体スタッフを対象としたスタッフ研修会を行った。開催を急遽決めたため、全部の団体が参加できたわけではなかったので、今後も継続して研修会を行っていきたい。

森づくり体験会については参加者からも好評をいただいており、今後も引き続き継続し、森林に関わる人々の裾野を広げ、森づくり団体の支援につながる事業としていきたい。

3．参加者の声

初めて森の中に入って新鮮な空気を吸えた、作業のやり方を丁寧に教えてもらった、スタッフが声掛けをしてくれた、安全に作業できた、楽しかったなど、初心者対象の体験会ならではの感想が多かった。体験会にまた来たい、周囲の人に是非お勧めしたいとの声も多くいただいた。

実績報告とりまとめ表

実　施　時　期		11 月～ 12 月	3 月～ 6 月	計
事業量 又は 事業内容		初心者のための森づくり体験会 2024 ～初冬の森：計 2 回（3 回計画中 1 回中止）	初心者のための森づくり体験会 2025 ～春の森～：計 4 回 スタッフ研修会：1 回	初心者のための森づくり体験：計 6 回 スタッフ研修会：1 回
参加者数	県　内 県　外 計	33 人 6 人 39 人	78 人 10 人 88 人	111 人 16 人 127 人
実　施　場　所		東京都　八王子市、青梅市、日野市、日の出町		

森林減少ゼロに資するフェアウッド利用検討会

認定 NPO 法人 FoE Japan
〒173-0037　東京都板橋区小茂根 1-21-9

1．活動の概要

日本は国土の約７割を森林に被われているにも関わらず、自給率は約４割と、利用する木材資源の多くを海外の森林に依存している。他方、日本国内では年々森林蓄積量が高まりつつも、適切な施業が行われていないため、山林の荒廃や林産業の衰退につながっている。この問題の解決には、川上に位置する森林・林業関係者のみならず、より川下に位置する事業者、消費者を含めたサプライチェーン、バリューチェーン全体で課題を共有し、対策について議論する必要がある。

小団体ではこれまで月次の研究部会を開催し、昨年度は国内林業の川上における ICT を用いたスマート林業や広葉樹林の保全活動の現状に加え、川下におけるディベロッパーの先進的な環境配慮調達などについて議論を重ねるなか、サプライチェーンにおける各々のポイントでは、フェアウッドの供給あるいは調達を可能とする取組が既に実装され始めていることが確認された。

本年度事業では、従来通り国内外の森林・林業から地域に根差した取組まで幅広い分野から講師を招いた研究部会を継続しながらも、重点課題として、フェアウッド調達により川上から川下までのバリューチェーンをつなぐ取組に焦点をあてた対談式の特別イベントを実施し、国内の森林保全・林業振興の出口戦略を検討すると同時に、森林減少ゼロに資する木材利用のあり方について、各分野の将来を担う若者層を巻き込んだ議論を行なう。

2．活動の成果

・川上と川下をつなぐ取組みを実践する対談式の特別イベントとして、「フェアウッド×家具」、「フェアウッド×木のある暮らし」を開催し、地域に根差したものづくりを行う担い手を講師に迎え、首都圏の木材利用企業からの参加者、大学生・大学院生等の若者層との対話の機会を創出した。

・連続開催しているフェアウッド研究部会においては、川上の取組みとして新しい視点から森林・林業に取組む担い手、菌類との関係から森林の多様性を研究する研究者、日本とは異なる広葉樹林業を営むフランスの事例を紹介する専門家等を招き、将来性のある取組みや知識の普及に努めた。

3．参加者の声

連続開催しているフェアウッド研究部会から、森林を林業とは別角度から捉えなおす良い機会となった枯木と菌類の講演、地域において多くの若者を雇用して、森林・林業の新たな形を実践している担い手２名による講演からの参加者の感想を抜粋する。

■講演「枯木が山のにぎわい～森の生態系を支える枯木と菌類」について

「今までの違う視点からの森林についての話でとても興味深かったです。」

「木の断面の黒い筋が菌類の種の境界になっているとのこと。実際の現場で見てみたくなりました。フィールドに出たときの新たな着眼点を得ることができました。」

「森林ボランティアです。白色腐朽菌と褐色腐朽菌の違い、木が枯れること、腐食、その上のコケの発生など木が更新にいろんな要素がからむとお話で改めて認識しました。」

「腐朽菌には褐色腐朽菌と白色腐朽菌があり、どちらが優勢かで森の生態系に違いがみられることに驚きました。生き物同士の繋がりは本当にすごいと思いました。

■講演「考える森林業～人・社会・環境に優しい経営を目指して」

「有機林業という考え方や適材適所、地域のもともとの状態が最適など多くの学びがありました。」

「その地域の特徴を観察して、地域に合った林業を営むこと。同じ第一次産業のはずなのに、農業と林業の違いがある、という言葉はいい視座をいただいたと思いました。」

■講演「森の入り口から出口までをつなぐやまとわの挑戦」について

「（森林・林業分野における）分業が衰退を招いているという話。製品が完成するまでのプロセスに必要な仕事も単体で利益が出ないと人が辞めていってしまうとうのはそれぞれが別会社だと成り立たない課題だと感じました。」

「森林・林業側に立っている人間なのですが、森と関わることでその人の人生がどのように豊かになるのかを伝える必要がある、といった旨の発言にはハッとさせられました。」

実績報告とりまとめ表

実　施　時　期		7月30日	8月28日	11月21日	2月17日
事業量 又は 事業内容		フェアウッド研究部会の実施 「林業の未来を考える（3）～ITの力で健全な木材流通の実現を目指す」	フェアウッド研究部会の実施 「フランスの林業に学ぶ――未来へとつなぐ広葉樹の森づくり」	フェアウッド研究部会の実施 「考える森林業～人・社会・環境に優しい経営を目指して」	特別イベントの実施 「フェアウッド×家具～ものづくりを通じた自然や生態系への貢献～」
参加者数	県　内 県　外 計	11人 21人 32人	15人 34人 49人	17人 37人 54人	16人 0人 16人
実　施　場　所		東京都渋谷区神宮前（研究部会）、千代田区大手町（特別イベント）			

実　施　時　期		3月13日	3月28日	4月17日	計
事業量 又は 事業内容		特別イベントの実施 「フェアウッド×木のある暮らし～循環の家・伝統知の家がつくる未来」	フェアウッド研究部会の実施 「枯木が山のにぎわい～森の生態系を支える枯木と菌類」	フェアウッド研究部会の実施 「森の入り口から出口までをつなぐやまとわの挑戦」	
参加者数	県　内 県　外 計	22人 0人 22人	16人 34人 50人	19人 17人 36人	116人 143人 259人
実　施　場　所		東京都渋谷区神宮前（研究部会）、千代田区大手町（特別イベント）			

2024 森のがっこう
～視たり・聴いたり・触ったり、五感を感じる自然体験プロジェクト～

玉川大学　教育学部　仁藤研究室
〒194-8610　東京都町田市玉川学園 6-1-1

1．活動の概要

【目的】

① 幼稚園や小学校の自然環境を活用し花や草木・森林の面白さや不思議さを感じる
② ネイチャーゲームや木製玩具あそびをとおして、身近にある森や森林へ興味関心をもつ
③ 幼児・児童・保護者・先生・大学生と多世代間交流を図る
④ 自然の中を歩くことで、健康・体力の向上と心身のリフレッシュする

【内容】日程：2024 年 10 月～ 12 月。会場：北海道・岩手県・秋田県・宮城県・福島県の幼稚園・認定こども園・小学校、計 6 会場。対象：幼児・児童・保護者・先生・大学生。内容：ネイチャーゲーム（フィールドビンゴ・宝さがし・葉っぱコレクション・クラフト・木の鼓動・この木なんの木クイズ）、木製玩具あそび（こまやけん玉）。

2．活動の成果

毎日通っている幼稚園や小学校等の環境を活用して自然体験活動を実施した結果、①参加者は緑や森林の資源を知る機会となった。②ネイチャーゲームは子どもたちの興味関心、学習意欲に繋がった。③親子や大学生と一緒に自然を楽しむ交流の機会となった。④歩くことやこまやけん玉あそびは、運動不足の解消や心身のリフレッシュに繋がった。

【今後の取組】近年、子どもの自然体験が減少していると報告されていることから、継続して事業を実施したいと考えている。

3．参加者の声

子ども：「ネイチャーゲームをはじめてやった」「フィールドビンゴがとても楽しかった」「自然との触れ合いが勉強になった」「大学生との交流が良かった」など

保護者：「親子で秋の散策を楽しめた」「葉っぱがとても美しく秋を感じることができた」「子どもは飽きずに楽しそうに参加していた」「童心に返って楽しめた」など

実績報告とりまとめ表

実　施　時　期		① 10 月 4 日	② 10 月 27 日	③ 10 月 28・ 31 日	④ 11 月 11 日	⑤ 11 月 25 日	⑥ 12 月 9 日	計
事業量 又は 事業内容		五感を感じる自然体験活動 ネイチャーゲーム（フィールドビンゴ・宝さがし・木の鼓動ほか）・玩具						
参加者数 （人）	県内	北海道	宮城県	岩手県	福島県	宮城県	秋田県	
		0	69	85	81	33	25	293
	県外	0	0	0	0	0	0	0
	計	0	69	85	81	33	25	293

「水が繋ぐ地域と世代」促進事業 森と水の祭り・影祭り

（一社）全国森の循環推進協議会
〒221-0056　横浜市神奈川区金港町 6-18
アーバンスクウェアⅡ１階

1．活動の概要

地球温暖化防止・国土保全・森林整備・木製品消費促進・上下流域交流・食育をふまえた水源涵養を目的とした、啓発活動を実行する。また、活動を通して山の学校への参加者を募ることを目的とする。

2．活動の成果

今の日本では、水源涵養、地球温暖化対策といった森林の持つ多面的な機能が、人々の日常生活に直結しているにもかかわらず、それらに付随する森林保全の必要性や、間伐材の有効活用の重要性などが一般市民に対して十分に浸透しているとは言い難い状況である。この状況を打開するためには、自ら体感し得る保全活動に対する入口の一歩を設けることが不可欠であると考えられる。

幣協議会が実施する出前型「山の学校」事業は、その入口のひとつとして、間伐材を活用した木工作をはじめとした様々な学習コンテンツを提供し、森林整備が私たちの生活基盤を支えるもののひとつであることを伝え広め、森林資源の循環利用や、山を守ることが水源を守ることにつながるというテーマを具体的に国民へと伝える手段としている。

事業の実施にあたっては、以前はコロナウイルスによる影響で規制されていた観客の入場も、昨年度は数年ぶりに緩和されることとなり、各水泳大会でのイベント開催が定期で実施できるようになったことで、活動周知のタイミングを定期的に得られるようになった。また、今年度はスケジュールのタイミングが合わず実施できなかったスイミングスクールでのイベント開催も来年度の実施は確定しており、幅広い年代、多くの人が集まる機会でのイベント開催のサイクルが出来上がってきている。

今後は、更なる間伐材の活用方法や体験内容を更新していくよう模索を続け、単なる啓発活動にとどまらず、森林･水源保全を次世代に継承する仕組みを確立、発展させることを目標に、更には、SDGs の掲げる目標をも意識し、持続可能な社会の基盤形成の一端を担う事業として継続的に活動を実施する。

3．参加者の声

・木を自分で選んで作れるのが楽しかった。また別の種類の木でも作りたい。
・いろいろな木の種類があり、それぞれ木目なども異なるので個性があって大人から見ても面白いと思いました。
・木によって匂いがするものとしないものがあることが分かった。

実績報告とりまとめ表

実　施　時　期		9/8	11/3	計
事業内容		森と水の祭り・影祭り	森と水の祭り・影祭り	
参加者数	県　内	200 人	200 人	400 人
	県　外	人	人	人
	計	200 人	200 人	400 人
実　施　場　所		神奈川県横浜市・相模原市		

第４０回全国削ろう会秦野大会

第４０回全国削ろう会秦野大会招致・実行委員会
〒 257-8501　神奈川県秦野市桜町 1-3-2

１．活動の概要

市民共有の財産である「秦野名水」の豊かな水源と、これを育む森林を次世代に引き継ぐため、木材の循環促進による持続可能な森林づくりの推進及び建築関連産業の活性化を図ることを目的に、第４０回全国削ろう会秦野大会を開催した。

鉋薄削り競技、五寸鉋競技により技術を競い、交流を図るとともに、大鉋・やり鉋、ハツリ実演等で、多くの方が木工技術に親しんでもらう場とした。

その他、小川三夫棟梁の講演会、大工道具の販売、木工教室、森林に関する展示等のアトラクションを実施するとともに、２日目の１１月１０日は、第１９回秦野市里山まつりも同時開催し、五感を使って「木」や「技」を体感・体験していただいた。

２．活動の成果

２日間で 15,000 人が来場し、薄削り競技を見学したり、様々な体験事業へ参加したりすることで、優れた建築大工の技術や秦野の豊かな森林の魅力に触れていただくことができた。特に、会場を訪れた子どもたちに､「木」や「技」の素晴らしさを体感･体験する機会を提供することができ、次世代に引き継ぐ契機となった。

令和７年１月１日に迎える市制施行７０周年記念事業として実施したが、引き続き、建築大工等の優れた技能と建築・木工芸術文化、秦野の大切な地域資源であり市民共有の財産である里地里山・森林への意識をより一層高めていきたい。

３．参加者の声

・巧みの技術を身近に感じることができて良かった。
・様々なアトラクションがあり、木に触れ、木を知る機会となった。

実績報告とりまとめ表

実　施　時　期		11 月 9 日	11 月 10 日	計
事業内容		・薄削り競技 ・大鉋、やり鉋、ハツリ実演 ・体験、展示事業	・薄削り競技 ・大鉋、やり鉋、ハツリ実演 ・体験、展示事業	
参加者数	県　内 県　外 計	人 人 5,000 人	人 人 10,000 人	人 人 15,000 人
実　施　場　所		神奈川県秦野市		

とやまの竹の祭典

特定非営利活動法人 Bamboo saves the earth
〒930-0112　富山市八ヶ山 145 番地

【活動内容】

○９月２１日　呉羽青少年自然の家　プレイベント
竹のスタードームテント　６張　九州から教授・棟梁（大学生）５名・竹の空間アーティスト２名
富山県内の竹の関係 20 名・他見学参加者と体験学習を設営。

○９月 22 日　呉羽青少年自然の家　とやまの竹の祭典２０２４in 呉羽
富山県森林政策課森づくり（富山県）・富山市・環境財団と協力協し、竹林整備保全の啓蒙活動と持続可能な竹の有効利用の調査研究のパネル展示や体験ブース出展。

会場　スタードームテント６ブースで、①竹を考える、②竹でご飯、③竹あかり点灯、④竹細工、⑤竹で遊ぼう⑥スタードームデモを展示。能登半島震災支援団体と被災地区からの被災者と復興支援物産・屋台ブース運営。

ステージでは、富山市の藤井市長の祝辞でスタート。
・富山県森林研究所所長・バンブーセーブジアース代表が竹談義。
・とやまの竹を考える「竹サミット」開催。
午後はライブ音楽やダンスパフォーマンスステージ。
屋外でのスタードームテント・竹の空間アート・キャンドルナイトと施設内でのライブステージ（フォークグループ・ジャズシンガー・ピアノ演奏）で盛り上がりました。能登半島地震復義眼の黙祷・献花の実施。

【活動の成果や感想】

富山県の森林政策課森づくり協働、富山市・環境財団・県内の竹ネットワーク関係者が協力協賛、これからの富山県の放置竹林問題・竹の有効利用について意見交換の場となった。

これからも富山県内での放置竹林問題・竹の有効利用の調査研究活動を続け、９月の世界竹の日「とやまの竹を考える：とやまの竹の祭典」、関連団体と連携し、富山県内の竹林問題啓蒙のイベントを継続したい。

実績報告とりまとめ表

実　施　時　期		9月21日	9月22日	計
事業内容		スタードームテント体験	・薄削り競技 ・大鉋、やり鉋、ハツリ実演 ・体験、展示事業	
参加者数	計	指導者５名 準備スタッフ・受講者50名 55人	音楽ライブパフォーマンス出演者６グループ、当日の参加スタッフ100名、展示・展示マルシェ10件、飲食ブース　５軒 会場参加者　延べ500人	（県内外各地から）石川県や京都からもスタッフボランティアが参加。 延べ500人
実　施　場　所		富山県呉羽青少年自然の家		

地域の自然を未来につなげていく体験活動

さとやま子育てコミュニティいけだのそら
〒910-2502　福井県今立郡池田町野尻 11-3

1．活動の概要

身近な里山や農地での農業やものづくり、森遊びなどの体験を通して、地域とのつながりや自然環境への感性を育むために、無農薬の米作りと収穫祭、野菜づくりとその調理や保存、森の手入れを行った。

また、「子どもも大人も幸せになる自然な子育て」と題して、奈良県の森のようちえん実践者である岡本麻友子さんをお招きした講演会を開催した。

2．活動の成果

米作りでは、昨年ほどの収量が得られず、無農薬の米作りの難しさを体験し、みんなで草取りのタイミングが合わなかったことなどを振り返って大きな学びとなった。また、収穫した大根は、地域の伝統的な冬場の野菜保存法である「つんぼり」の中に入れて、現在はあまり見られなくなった、里山の風景を作ることに子どもたちと一緒に取り組むことができた。森の整備では、人が手を入れた森の心地よさを体験するとともに、現地発生材の薪を使ってピザを焼き、資源を有効利用することが、里山の保全につながることを体験することができた。

今後はさらに、子どもたちと一緒に、体験のなかで里山の循環を学ぶ活動を継続していきたい。

3．参加者の声

・自分たちで稲刈り、精米の体験をしてみたことで、「これまでのお米やご飯に対する価値観が変わった」という声があった。
・さつまいも掘りのとき、裸足になって土の感触を確かめ、普段を使わない包丁を使った調理に挑戦する我が子を見たお母さんが、五感で体験することの大切さを感じていた。
・講演会の後に感想をシェアするなかで、親子だけのときより心地よいコミュニティがあることで、子どものことを待つ、寄り添うといった関わりができるという話があり、コミュニティで子育てすることの重要性を再認識できた。

実績報告とりまとめ表

実　施　時　期		9月14日	9月29日 11月30日 12月14日	9月21日	10月24日	12月3日	12月16日	計
事業量 又は 事業内容		講演会	稲刈り、脱穀・精米、収穫祭	森の整備とピザ作り	さつまいもの収穫と調理	大根の収穫とつんぼり作り	地域材を使った棚作り	
参加者数	県　内 県　外 計	27人 5人 32人	81人 81人	21人 21人	12人 12人	9人 9人	8人 8人	158人 5人 163人
実　施　場　所		福井県　池田町野尻　菅生地区						

木のおもちゃひろばであそぼう　森の力を学ぼう

のいちご会
〒391-0211　長野県茅野市湖東3675

1．活動の概要

国土の2/３を森林という日本に暮らす中で、日々目にしている森林が、健康であり続けることを目指して、森林に興味関心を持てる機会の醸成の場を作ることを目的に活動をしました。また森林資源を日々の生活、また災害時の生活に活かすことで、私たちの暮らし自体も持続可能になるということを、災害シミュレーションキャンプを通して感じる機会も設けることができました。

森は海の恋人という言葉を知り、海に直接は接していない長野県でも「諏訪湖は海の友達」と位置づけて、海の健康さを、今いる場所から思いを届けるため、諏訪湖クリーンウォークを行いました。

2．活動の成果

・森林資源とふれあう機会が、普段の生活の中に少なくなった今の暮らしの中で、単発のイベント型ではありますが、木に触れ、木を活かし、自然を守り意識を持てるような機会を作っていくことは、息永く行う価値があると改めて感じることができました。
・今後、木にふれあって心地よさを感じて育つ子どもたちを育んでいくこと、海に直接は接していない長野県でも、森と海のつながりが健全であることが、私たち自身の暮らしも守ってくれるというメッセージを込めてクリーンウォークを続けていきたいと考えています。

3．参加者の声

・プラスチック製のおもちゃや生活用品に多く触れて暮らしていることを改めて感じました。便利さや、手軽さを日々忙しいので、優先にしてしまいますが、昔からある木のおもちゃの良さを感じることができた。
・どのおもちゃが森林ESDにつながるかクイズで学んだことを、物を買うときに思い出したいです。
・災害時に備えることが、全くできていないので、何か体験できたらと思い参加しました。一人の力は小さいが、できることを持ち寄れば、心強いと思います。
また参加したいです。

実績報告とりまとめ表

実　施　時　期		8月22日	9月21日	9月24日	10月20日
事業量 又は 事業内容		木のおもちゃ ひろば	木のおもちゃ ひろば	木のおもちゃ ひろば	ESD講座
参加者数	県　内 県　外 計	11人 0人 11人	8人 0人 8人	9人 0人 9人	10人 0人 10人
		11月23日	1月7日		
		諏訪湖クリーンウォーク	災害シミュレーションキャンプ	計	
参加者数	県　内 県　外 計	16人 1人 17人	10人 3人 13人	64人 4人 68人	
実　施　場　所		長野県茅野市			

第８回全国木のまちサミット 2024in ひがししらかわ

全国木のまちサミット 2024in ひがししらかわ実行委員会
〒 509-1392　岐阜県加茂郡東白川村神土 548 番地

1．活動の概要

日本全国の住宅着工戸数の減少等を背景とした木材需要の低迷や輸入材木の影響による国産材の価格低迷により森林整備への意欲が低下した本村では、森林環境譲与税を活用し、森林整備や林業従事者の担い手育成を進めてきた。中山間地域（川上）が苦しい現状の中どう打開しているのか。そして、森林･材木の新たな活用法を見出し、未来に向けて奮闘しているのかを紹介し、山林･木材活用の未来を探ることを目的にサミットを開催。

サミットでは、岐阜県立森林文化アカデミー学長の涌井史郎氏と（特非）日本森林管理協議会事務局長西原智昭氏に講演をいただいた。講演後、パネルディスカッションを行い、村内の若手林業従事者と岐阜県の林政担当が登壇し、若手林業従事者が率直な疑問を投げかけ、「森林の将来」や「補助金について」など林業従事者や行政が抱えている課題などについてディスカッションを行い、森林・木材の将来について考える場となりました。

2．活動の成果

村内若手林業従事者と岐阜県林政担当がディスカッションをすることで、民間と行政の思いを共有することにより、少しでもギャップを解消し、森林の総合的利用の促進に繋がることに期待できる。また、東白川村内山林の約 75% が認証林であることから、「認証林の未来」について講演を（特非）日本森林管理協議会事務局長西原智昭氏にしていただき、地域産の利用・木材需要の拡大等の山村地域の活性化・地域づくり運動の推進に期待できるサミットとなった。

3．参加者の声

・ディスカッションで現場の生の声を聞くことができ、今後林業行政に携わる中で環境譲与税の使い道に参考となった。
・認証林が村内山林の 75% を占めるということで、山林の管理に非常に力をいれていることが分かった。現在、日本の山林が荒廃傾向にある中で、山林経営管理の参考となった。

実績報告とりまとめ表

実　施　時　期		10 月 15 日	10 月 16 日	計
事業内容		意見交流会及び講演等	意見交流会及び講演等	
参加者数	県　内	27 人	170 人	176 人
	県　外	20 人	49 人	49 人
	計	47 人	219 人	225 人
実　施　場　所		岐阜県加茂郡東白川村　はなのき会館		

森の輪ひろば

（一社）いび森のようちえん　こだぬき
〒501-1303　岐阜県揖斐郡揖斐川町谷汲長瀬 878

1．活動の概要

地域の子育て世代を対象に「木育子育て広場」を定期開催しました。この活動は、自然との触れ合いに不慣れな親子に、木工ワークショップ、畑仕事、外遊び、木のおもちゃなどを通じた多様な木育の機会を提供することを目的としています。スタッフが森での遊び方や自然体験の魅力を伝え、地域の自然体験活動を紹介することで、親子の自然への関心を深め、豊かな子育て環境づくりをお手伝いしました。

2．活動の成果

木工教室では、参加者が木の温もりや香りを五感で感じながら、木材選びから成形までを行い、一つ一つの作品に愛情を込めました。草木染めや畑仕事も体験し、自然の恵みを実感しながら、参加者間の交流を深めることができました。これらの活動を通じて、親御さんが自然体験に興味を示し、実際に「森のようちえん」への入園につながったご家庭もありました。今後も、親子が気軽に自然に触れられる機会を提供し、自然体験の楽しさを伝えていきたいと考えています。

3．参加者の声

木の香りや手触りに心が癒され、無心でやすりがけができました。

ものづくりや大人同士のおしゃべりの時間、子どもたちが自由に遊べる環境がとても楽しかったです。

「ここに来ると優しい気持ちになれる」という言葉を聞き、大変嬉しく思いました。

実績報告とりまとめ表

実　施　時　期		8 月～6 月	計
事業量 又は 事業内容		森の輪ひろば毎月 1-2 回開催 合計 11 回	
参加者数	県　内 県　外 計	155 人 人 155 人	155 人 人 155 人
実　施　場　所		岐阜県揖斐郡揖斐川町	

地域材活用のための体験講座

伊深まちづくり協議会
〒505-0008　岐阜県美濃加茂市伊深町808

1．活動の概要

当事業の実施地域は里山の風景の広がる中山間地域ですが、近年、管理されなくなった山林が増え、山林が荒れてきてしまっている。そのため、より多くの人に山林の大切さや面白さ、これからの可能性を理解していただき、山林と関わる人を増やすことと、活用されてない倒木や間伐材、危険木等を地域資源に変え、利用していくことで、木材需要の拡大を目的とした。

内容としては①倒木の処理～搬出②搬出した木材の製材・乾燥③製品づくりを体験しながら学んでいくという講座を実施した。

2．活動の成果

これまで、誰も管理していなかった山林に、多くの方が集まり、山林整備及び木材の活用に関する様々な技術を学ぶことができた。同時に、このような活動に興味のある方とも繋がりを持つことができ、これから、この場所を維持、活用していくための様々な事業を実施することができそうである。具体的には、山林を歩き、植物や生き物について学ぶツアー等を実施予定としている。

3．参加者の声

・うっそうとしていた場所がとても気持ちの良い場所に変わり驚いた。少しでもこのような場所を増やしていきたい。
・チェーンソーや製材機等を始めて使用したが、面白かった。練習して使いこなせるようにしたい。
・大勢で作業するとあっという間にきれいになることがわかった。自分の地域でも皆で活動したい。

実績報告とりまとめ表

実　施　時　期		12月8日/12月14日 /12月21日/12月22日	4月12日 /5月18日	5月2日 /6月7日	計
事業量 又は事業 内容		倒木等の処理～搬出	製材・乾燥	製品づくり	
参加者数	県　内 県　外 計	46人 人 46人	21人 人 21人	35人 人 35人	102人 102人
実　施　場　所		岐阜県　美濃加茂市　伊深町			

第８回森まる（もりまる）～森をまるっと楽しもう！～

MORI・IKU
〒437-0202　静岡県周智郡森町亀久保 351

1．活動の概要

目的　森林・林業の普及啓

子どももおとなも楽しめる森林イベントとして、森の楽しさや木のぬくもりに触れることで、自分の生活と地域の森との関りを考えるきっかけをつくり、暮らしと森をつなげるためのワークショップや展示を行った。

内容　森林環境教育プログラム LEAF 体験 / ツリークライミング体験 / 木工ワークショップ / チェンソーアートデモンストレーション / 森のくじびきドローイング / 木のジャングルジムくむんだー ®/ クイズラリー /FSC® 森林認証の PR/ 森のねんどのまちづくり / 木下琢朗彫刻展・香りのボトルづくり / 世界の木のおもちゃ広場 / マルシェねんりん市

2．活動の成果

アクセスしやすい森林公園で数多くのワークショップと実施したことで、森に触れ合い木に親しむきっかけを作ることができた。学生スタッフが継続して参加してくれるようになり、若者が森林の普及啓発を行う機会をつくることができた。マルシェねんりん市も多数の来場者を得て好評であった。

来年度も質の高いワークショップや興味を惹く企画を用意して、森と街をつないでいく。

3．参加者の声

・毎年楽しみにしている（ツリークライミング参加者）
・珍しいものを見られて面白かった（チェーンソーデモンストレーション観覧者）
・向こうが透けそうなほど木を薄く削る技術に驚いた（木下琢朗彫刻展来訪者）

実績報告とりまとめ表

実　施　時　期		11 月 1 日～ 10 日	11 月 10 日	計
事業量 又は 事業内容		木下琢朗彫刻展	第 8 回森まる ・ワークショップ ・展示 ・マルシェねんりん市	
参加者数	県　内 県　外 計	150 人 人 150 人	1,000 人 人 1,000 人	1,150 人 1,150 人
実　施　場　所		静岡県　浜松市浜名区尾野　静岡県立森林公園		

子供たちによる子供たちのための里山整備

公益社団法人　静岡県林業会議所
〒420-0861　静岡市葵区追手町 9-6　静岡県庁西館 9 階

1．活動の概要

荒廃の進んでいる里山の再生・整備・利用を通して、里山と人との共生について学ぶことを目的とし、日光や視界を遮っている樹木の伐採と急な斜面に歩道を作設する作業を体験した。作業終了後は、整備箇所にある大きな樹木を使ってツリークライミング ® を体験した。

2．活動の成果

・日頃手に触れる機会がほとんどない「鍬」を使った斜面での道づくりや日光や視界を遮っている樹木の伐採など、里山がきれいになりまた身近になったことに加え、初めての体験で達成感があったようだ。自然との共生の第一歩として体感できたと思う。
・森づくりに関して「新しい発見」と「達成感」のある体験会を工夫し、定期的に開催していきたい。
・林業家が講師を務めたことで、体験活動を通して参加者は木や山の仕事について聞くことができた。

3．参加者の声

・道じゃないところを道にすることができた。子供が楽しそうだった。
・ツリークライミングだけではなく、里山体験ができた。体験内容が充実していた。
・もう少し時間を長くして欲しい。とても楽しかった。
・普段の生活ではなかなか経験できない内容を企画してくれてありがとう。
・スタッフの対応が丁寧でよかった。

実績報告とりまとめ表

実　施　時　期		5 月 31 日	6 月 1 日	計
事業内容 又は 事業量		【里山整備】 ・伐採、道づくり ・ツリークライミング	【里山整備】 ・伐採、道づくり ・ツリークライミング	
参加者数	県　内 県　外 計	雨天のため中止	24 人 人 24 人	24 人 人 24 人
実　施　場　所		小笠山総合運動公園（袋井市）		

小学校授業での森林体験学習

特定非営利活動法人水とみどりを愛する会
〒501-3803　岐阜県関市西本郷通７丁目14番21号

１．活動の概要

次世代層に対する環境教育支援として、学校授業での森林体験学習を実施し、身近な自然と人と暮らしとの係わりを、体験を通して理解を深めてもらうことで、持続可能な社会の実現に寄与する。

２．活動の成果

次世代を担う子どもたちに、自然林と人工林の違いを、五感を通して感じることで森を楽しみ、森を守り、森をつくる大切さと人と森の繋がりを伝えることができた。

今後も森林保全を中心としたボランティア団体として活動していく。

３．参加者の声

・森の散策は、葉っぱで遊んで楽しかった。
・自然林と人工林の違いが体感できた。
・のこぎりでのヒノキの間伐は、大変だった。
・皮を剥いだヒノキはいいにおいがした。
・薪割は大変だったが、面白かった。

実績報告とりまとめ表

実　施　時　期		9月23日	10月8日	10月25日	5月6日	5月22日	6月3日	計
事業量 又は 事業内容		事前研修	神坂小 森林体験	大井小 森林体験	事前研修	山岡小 森林体験	武並小 森林体験	
参加者数	県　内	0人	15人	50人	0人	24人	22人	111人
	県　外	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人
	計	0人	15人	50人	0人	24人	22人	111人
実　施　場　所		岐阜県　中津川市（根の上高原）						

三重の木の椅子展４

三重の木の椅子展実行委員会
〒514-2104　三重県津市美里町家所 4324

1．活動の概要

林業地である三重県の植林材は建築用材としての活用が殆どであり、また植林材以外の木についても、燃料やパルプ用チップの需要に限られているという現状に対し、それらの活用幅をもっと広げ、地域の人々暮らしと身近な自然の繋がりがより繁密に形成されることの一助になることを目的として、木工作家や建築家やデザイナーたちが、商業流通していない木も含め、地域で育った木を使って制作したオリジナルの椅子を持ち寄って展示を行い、多くの市民に五感で触れてもらい、身近な木を暮らしの中に活用することの楽しさを感じてもらった。

2．活動の成果

4 回目となる今回も、30 組作り手が出品参加し、60 脚の椅子を展示することができた。5 日間で 1,590 名の来場者があり、地元産の椅子に座ってもらい、楽しみながら「三重の木の椅子展」の主旨について共感を得ることができた。また会期終了後には「みえ森林・林業アカデミー」でも椅子の展示を行い、今後もこの「三重の木の椅子展」の企画を続けると共に、一般を対象とした森林見学会や植樹イベントなどを行うなど、地域の森林に住民が親しむ機会を提供することに取り組んでいきたい。

3．参加者の声

・多彩なデザインとアイデア性のある沢山の椅子に触れることができて、木が大好きな私はとても満たされた。
・作り手の人たちと話が出来てとても良かった。木の香りと温かみが感じられてずっと座っていたかった。
・県産の木を使おうとたくさんの人に理解してもらうためにも、今後もこの展覧会を続けてほしいです。
・地域のものを活かして、というところが先ず良いと思う。出展者も幅広くて、こんなに作品のバラエティに富む椅子展は他に無いと思った。
・こんなに多くの椅子が展示されていて驚いた。自然のものが人間の工夫で活かされていて嬉しく思った。自然の恵みに感謝。

実績報告とりまとめ表

実　施　時　期		10 月 31 日～ 11 月 4 日	1 月 20 日～ 4 月 20 日	計
事業量 又は 事業内容		「三重の椅子展 4」の開催	「三重の椅子展 4」の開催 レポート冊子を作成して配布。SNS での普及活動。	
参加者数 (出展者及び来場者)	県　内 県　外 計	1, 440 人 150 人 1, 590 人	150 人 50 人 200 人	1, 590 人 200 人 1, 790 人
実　施　場　所		三重県　津市		

住民自治組織と里山保全の先達との協働による「第二次里山保全運動」のキックオフ事業

特定非営利活動法人　赤目の里山を育てる会
〒518-0762　三重県名張市上三谷561番地7

1．活動の概要

第二次里山森林保全運動を全国的に展開するために、現在も活躍している里山森林保全団体・個人等を招いて、その成果教訓を学び、住民自治組織が、一つの原動力となり得るような普及啓発のモデル事業の出発点となるキックオフを行った。

2．活動の成果

令和６年９月７日、８日にシンポジウムを開催した。

① 令和６年９月７日：

第一部は鬼頭秀一先生による基調講演、第二部は全国各地からの事例報告並びにシンポジウムを開催した。

・広島での里山と密着した生活の在り様を示し、栃木では地域との協働による里山保全の活動、
・愛媛では針葉樹林を広葉樹林に転換してきた20年の歩みの報告、
・京都からは「林業女子会」の取り組みの報告、
・神奈川からは「全国山の日協議会」の取り組み、
・地元三重名張からは持続可能性を高める自前のエネルギーの報告。

鬼頭先生からまとめの総評があり、「第二次里山保全運動が展開されるのかは、個々の努力というよりは、地域やまちづくり委員会などが先頭になった取り組みでないと進めることは難しいのではないか」というコメントを頂いた。

② 令和６年９月８日：赤目の里山を育てる会のベースに集合、保全管理をしているエリアを散策。全体は200ヘクタールある里山のごく一部だったが、トンボ池やトムソーヤ広場　ナショナルトラスト地を見てもらうことができた。その後、今後の里山保全運動で取り組んでいきたいことを語り合い、今回のテーマである「地域の人たちと一緒に取り組む里山保全」ということも意識しての議論を行った。

3．参加者の声

・自然と私たちは一体、非二元、不自
・薪ストーブは、実際に使用したら大変でした
・里山と、いつまでも仲良くしたい
・細く長く取り組むことが大切だと思います
・自然との共生、大切ですね。俳句の世界にも始点が変わりました。

実績報告とりまとめ表

実　施　時　期		令和６年９月７日	令和６年９月８日	計
事業内容		フォーラム１日目	フォーラム２日目	
参加者数	県内外	35人	35人	延べ70人
実　施　場　所		三重県名張市　名張市情報交流センター		

地域産木材利用促進啓発事業

特定非営利活動法人　京都森林・木材塾
〒618-0091　京都府乙訓郡大山崎町円明寺葛原 6-25

1．活動の概要

森林･林業･木材産業の再生を図り、自然環境を保全するため、積極的な木材利用が求められる。そのため毎月ＨＰで発信。SDGs の達成に向け活動した。

2．活動の成果

①　ＨＰ掲示板で最新情報を発信　＜毎月＞

設立以来、活動の柱は HP 掲示板による発信。森林整備・木材利用や自然環境に関する情報を掲載しアクセス数は年々増加。更に充実するため専門業者に委託。行政等から高く評価されており、学校関係、マスコミ等からの問い合わせが多くなった。

②　京都環境フェスティバル２０２５に出展　＜２月＞

京都を代表する祭典で、行政、関係団体、大学等出展し、啓発効果は大きい。本塾からは、能面、オルゴールを展示し、「森林・環境アンケート」を実施。アンケート結果を行政等と共有し有効に活用している。

3．参加者の声

毎月発信のＨＰ掲示板は、森林・木材・環境に関するあらゆる情報を提供し、行政等から非常に喜ばれている。環境フェスティバルの実施報告書は多くの人が閲覧している。

実績報告とりまとめ表

実　施　時　期		毎月	2 月
事業内容	① HP 掲示板発信	○	
	②環境フェスティバル		○
参加者数	府　内 府　外 計	閲覧 17 千人 3 千人 20 千人	会場 8 千人 2 千人 10 千人
実　施　場　所		本塾事務所	京都府総合見本市会館

地域子育て支援フォレストコミュニティ

一般社団法人森のようちえんどろんこ園
〒606-1253　京都市左京区八瀬近衛町 723-48

1．活動の概要

●森のほっこり mamcafe

豊かな自然があっても一歩野外へ踏み出す勇気や元気がない親子に森の中でのびのびと活動できる自然環境で集い、おしゃべりしたり学び合ったりできる仲間と居場所を創っていきたい。

2．活動の成果

未就園児の子ども連れ親子や、他の幼稚園に通いながらも自然との触れ合いや、コミュニティを求めている親御さんが集えるように、内容を森の中の散策に加え、自然素材を活かしたモノづくりや普段使う調味料を昔ながらの製法で一から作るという体験をしながら語らえる催し企画開催した。

子どもだけではなく親御さん自身が楽しみながら森や自然の中で過ごしてもらう事で、屋内では感じられない森の中ならではの開放感、癒しを感じてもらう事が出来、親御さん同士の仲間づくりにも貢献できた。

3．参加者の声

・いつもは【子どもの楽園】にしか行ったことがなかったが、少し奥に入るだけで森の中に入って自然の力に癒された。自分たちだけでは不安で行けない場所に、連れて行ってもらえたのが嬉しかった。

・木の実クラフトでフォトフレームに木の実を飾っていたら、最初は子どもがやっていたのにいつの間にか大人の方が夢中になっていた。子どもをスタッフさんが見てくれている間自分の時間を楽しめ充実した時間となった。

実績報告とりまとめ表

実　施　時　期		7月20日	10月18日	11月9日	12月15日
事業量 又は 事業内容		キノコ博士と 森の散歩	落ち葉で遊ぼう	秋の森を 楽しもう	お醤油づくり ワークショップ
参加者数	県　内 県　外 計	15組 人 15組	10組 人 10組	30組 人 30組	10組 人 10組
実　施　場　所		京都府京都市			

実　施　時　期		1月6日	1月28日	2月18日	5月14日	計
事業量 又は 事業内容		薪割り＆ お餅つき	味噌づくり ワークショップ	木の実で遊ぼう	野染め体験	
参加者数	県　内 県　外 計	22組 人 22組	26組 人 26組	5組 人 5組	30組 人 30組	148組 人 148組
実　施　場　所		京都府京都市				

特定非営利活動法人自然と緑「自然大学」

特定非営利活動法人自然と緑
〒540-0006　大阪市中央区法円坂 1-1-18

1．活動の概要

優れた指導者から自然について学び、生態系の仕組みと働きを理解し、環境教育・環境保全活動家の育成を図る場として自然大学を開催する。令和６年度は室内講義８回と野外実習７回を実施した。

2．活動の成果

受講生は自然大学で、森林、気候、土壌、植物、動物、淡水、海水等、自然を構成するものとそれらの組み合わさったシステムについて、またそのシステムを壊し続けてきたのが人間の活動であったことを学んだ。今後はこの学びを基に人間と自然の好ましいあり方を考え、見つめ直してもらうことを期待したい。

自然大学を修了した30名のうち13名は､指導者の育成を目的としたステップアップ講座(1年間)に進み、自然大学のリーダー、自然と緑の各種事業の運営・指導者となるべく更なる学習・体験を続けている。

また、自然と緑が取り組んでいる馬ヶ瀬山等での森林整備の活動にも多くの受講生が参加している。

3．参加者の声

・自然大学での一年間は、講義や実習を通じて自然への理解を深め、視野が大きく広がる貴重な時間でした。
・「アグロフォレストリー」は初めて知る概念で、自然と共存する農業の可能性や課題について多くを考えさせられました。
・金剛山の雨、春日山の原生林、里山整備など、実際の自然の中で学べたことはとても有意義でした。
・講師や仲間たちとの出会いにも感謝し、今後も学びを活かし自然を大切にしていきたいと思います。

実績報告とりまとめ表

実　施　時　期	内容	参加者数	実　施　場　所
2024 年 7 月 28 日	室内講義 土の生態学	受講生　19 名 他　18 名 計　37 名	大阪市 大阪市教育会館
2024 年 8 月 4 日	室内講義 水域生態系	受講生　20 名 他　20 名 計　40 名	大阪市 大阪市教育会館
2024 年 9 月 8 日	室内講義 大気と気候	受講生　22 名 他　20 名 計　42 名	大阪市 大阪市教育会館東館
2024 年 10 月 12 日 ～ 13 日	野外実習 京大芦生研究林	受講生　17 名 他　7 名 計　24 名	京都府南丹市 京大芦生研究林
2024 年 11 月 3 日	野外実習 琵琶湖の生態	受講生　19 名 他　14 名 計　33 名	滋賀県草津市 琵琶湖博物館
2024 年 11 月 10 日	野外実習 馬ヶ瀬山間伐	受講生　19 名 他　14 名 計　33 名	滋賀県大津市 馬ヶ瀬山国有林
2024 年 12 月 8 日	室内講義 森林動物・熱帯非木材林産物	受講生　22 名 他　17 名 計　39 名	大阪市 大阪市教育会館
2025 年 1 月 26 日	野外実習 冬鳥の観察	受講生　19 名 他　14 名 計　33 名	兵庫県伊丹市 昆陽池公園
2025 年 3 月 2 日	室内講義 里山について	受講生　23 名 他　20 名 計　43 名	大阪市 大阪市教育会館東館
2025 年 4 月 6 日	室内講義 地球環境と人間	受講生　23 名 他　26 名 計　49 名	大阪市 大阪市教育会館東館
2025 年 4 月 13 日	室内講義 森林の生態	受講生　21 名 他　24 名 計　45 名	大阪市 大阪市教育会館東館
2025 年 4 月 26 日	野外実習 海の生態と環境	受講生　20 名 他　13 名 計　33 名	大阪府岬町 長崎海岸
2025 年 5 月 11 日	野外実習 照葉樹林とシカの相互作用	受講生　22 名 他　15 名 計　37 名	奈良県奈良市 奈良公園・春日山
2025 年 6 月 1 日	野外実習 夏緑林の生態系	受講生　16 名 他　13 名 計　29 名	大阪府千早赤阪村 奈良県御所市 金剛山
2025 年 6 月 15 日	室内講義 水域生態系	受講生　20 名 他　19 名 計　39 名	大阪市 大阪市教育会館東館
計	―	受講生　302 名 他　254 名 計　556 名	―

注）参加者数の内、「他」は講師、リーダー、事務局員等

森とまちをつなぐ木材コーディネーターによる「木づかい社会」定着のための普及啓発活動

NPO 法人サウンドウッズ
〒669-3631　兵庫県丹波市氷上町賀茂 72-1

1．活動の概要

サウンドウッズでは、森づくりに市民参加を促す仕掛けの一つとして、「森」と「まち」をつなぐ「木材コーディネーター」の人材育成に取り組んでいる。森林と暮らしをつなげる情報発信手段として、動画配信サービス youtube に「サウンドウッズチャンネル」を立ち上げた。動画の活用により、森とまちの関係をより理解しやすい関係を生み出し、地域の森と暮らしの距離を縮める成果効果を目指す。

2．活動の成果

森とまちの間を木材の利用を通して仲立ちをする、全国で活躍する木材コーディネーターの活動を、具体的かつ分かりやすく伝えるコンテンツ制作に取り組んだ結果、全国各地から多様な関心層からのアクセスがあり、木材コーディネーターの認知を広めるとともに、木材コーディネーターを目指す森づくりを支援する木材利用の実例を広くアピールできた。

3．参加者の声

・（活動紹介では）地域の事情に精通する木材コーディネーターがいると、川上から川下までいろんな方の関与が生まれて新しい動きが始まり、地域の活性化にも繋がるのだなと、必要性を感じました。
・山林各地で所有者の高齢化や林業の収益化が難しい話題が上がりますが、やる気のある若い世代が、いかに地域にある多様な業界と連携して、森に関与する方々を増やして盛り上げていこうとしているのか熱意が伝わってきました。とても想像力を掻き立てられました。
・森林林業分野で活躍されている方のビジョンや考え方を聞くことができ、いろんな可能性があることを知り、これから山の経営を楽しんで取り組んでいこうと、励みになりました。成功事例をもう少し聞きたかったです。
・（公開問答では）大規模工場、組織設計事務所での森林林業への関心事や取り組みを知りました。個人事業・小規模林業が直面する課題と取組みの棲み分けが大規模とある程度できていて、それぞれが役割を果たしていくことで森林林業の更新がバランスするのでは、と認識を新たにしました。
・オンライン開催は、公共交通機関が遅れた場合でも、ネット環境がある場所へ飛び込んでもれなく視聴することができました。今後もオンライン開催を継続してほしいです。

4．参加状況（人）

（アーカイブ視聴数除く）

	A1 説明会	A2 公開問答	A3 活動紹介	B swForum2025		合計
				シンポジウム	森林見学	
現地参加	–	–	–	33	31	64
オンライン参加	37	24	45	68	—	174
参加人数合計	**37**	**24**	**45**	**101**	**31**	**238**

以上

森林生態系から身近な自然を学ぶ ESD ワークショップ
～奈良県の森林 ESD の推進に向けた次世代インタープリターの養成～

奈良教育大学附属中学校裏山クラブ
〒 630-8113　奈良市法蓮町 2058-2

1．活動の概要

森林生態系を学ぶ ESD ワークショップでは、中学生に自然の探求や環境保全の重要性を体験させる。アクティブラーニングや実地観察を通して生態系の関係性を理解し、森林の持続可能な活用法を考える。また、教員や大学生には森林ESDや自然利活用の知識を提供し、地域での活動をリードするリーダーシップを育成する。

2．活動の成果

今年度実施した事業は、多岐にわたる活動を通じて、参加者に森林の活用についての学びと成長の機会を提供した。中学生を対象とした活動では、森林整備安全技能講習や間伐体験を通じて、森林作業の基本を学び、安全に作業を行うための知識と技術を身につけた。大台ヶ原・黒滝村 ESD ワークショップでは、持続可能な開発（ESD）の理念を学び、具体的な実践方法を体験した。シカの頭骨標本作りでは、地域の教員が抱える問題を森林教育という視点からアプローチし、野生動物の生態や森林生態系のバランスについて学ぶ機会を設けた。参加者に好評であり、今後も活動を続けたいと考えている。また、裏山の毎木調査を通じて、カーボンニュートラルについて考える機会を中学生に提供し、環境問題に対する意識を高めた。さらに、外部機関との連携により、活動内容の発信やワークショップの実施が可能となり、地域社会との交流を深めることができた。これからの展望として、継続した取り組みを行うとともに、高校生を対象としたプログラムを検討する。地域の企業や大学、NPO などと連携し、より多様な活動を展開し、持続可能な社会の実現に向けた教育を推進する予定である。

3．参加者の声

自分の地元の山と比較しても守りたいという気持ちが多く、みんなが手入れをしたり、世界に発信したりしていくなど、みんなに知ってほしいという思いがありました。

実績報告とりまとめ表

実　施　時　期		7 月 13 日	7 月 22 日	…	計
事業量又は事業内容		間伐体験と林業が抱える野生動物の問題	大台ヶ原・黒滝村 ESD ワークショップ _ 事前学習	…	イベント等 22 回
参加者数	県　内 県　外 計	19 人 人 19 人	29 人 人 29 人	…	人 人 455 人
実　施　場　所		奈良県奈良市・奈良県桜井市・奈良県下北山村・奈良県黒滝村			

奈良こども自然フェスタ

奈良こども自然フェスタ実行委員会
〒632-0123　奈良県天理市長滝町 294

1．活動の概要

未来を担う地域の宝である子どもの伸びやかな育ちを、地域・教育者・保護者が一体となって見守る意識が奈良県に広がることを目的とし、自然体験の中で子どもたちが発揮していく「主体的に生きる力」「豊かな感性」「共生」について学びを深める講演会や体験ブースを開催。

①講演会

自然保育の実践と指導者養成に精通している岐阜聖徳学園大学教授の松本信吾氏を招き、『子どもと自然が出会ったら～センスオブワンダーな保育・子育てが育むもの～』というテーマで開催。子どもにとって「遊びとは何か」「自然とは何か」という根源的な問いから、子ども達が幸せに生きるためには命の循環を体感できる環境・共に感じ考え合える人間関係をはぐくむことが大切であり、それを実現するには幼児期の自然体験が重要であることをご講演いただいた。

②ライブパフォーマンス

奈良県在住の絵本作家岡田よしたかさんによる絵本の読みきかせ、いにしえわらべうたライブ、お絵かきと造形の場「みんなでつくるシンボルオブジェ」を開催。

③自然保育実践者・団体の展示紹介ブースを設置し、来場者に現状を知ってもらう機会を設けた。

④木工やアート、自然物を使った遊びの体験と、からだと環境にやさしいご飯やおやつなどを提供するマルシェ合計 20 のブースを設置。また、午前と午後に一回ずつ自然豊かな公園内を親子で散策する体験の機会も提供した。

2．活動の成果

講演会では、県内の公立・私立の保育者、大学の先生方などの教育保育関係者、森のようちえんなど自然保育に関心のある保護者、奈良県庁の職員さんや地元の議員さんなど様々な背景の方が 80 名ほど参加し、「自然保育を通して子ども達に育みたい力は何か」「大人が出来ることは何か」を考えあい、質疑応答や交流も生まれ共有する時間ができた。共に子どもの育ちを考えあえる大人同士の関係を築いていくきっかけの場となった。

屋外のブースでは、季節感や臨場感を感じられる空間で、一時 100 人を超える聴衆が集い大盛況。見て・聴いて・からだを動かし五感で体験できる場に多くの子ども達が集まり、その姿をあたたかく見守り合う大人の姿が生まれ、自然保育の醍醐味を詰め込んだような時間･空間となっていた。

講演会も同時開催したことで保育に携わる方たちの来場も多く学びも深まり、事業目的にあるように「子ども達の伸びやかな育ちを地域・教育者・保護者が一体となって見守る」ことが体現された空間になっていた。今後も自然保育を切り口に「共に育ちを見守る」「共につくる」体験をより多くの人と共有することで、体験した人が各地でその価値観を広げ、奈良県全体の自然への意識や自然体験の価値の向上につなげられるよう事業を継続していきたい。

3．参加者の声

＜講演会＞

・自然は多様性の宝庫であり、心動かされる豊かな環境であること等楽しく深く伝わってくる内容でした。また、保育者の方や保護者の皆様の熱心なお姿を拝見し、このような講演会の重要性を一層強く感じました。同じような思いの方が大勢いらっしゃることに感動しました。

・自然保育の実践を分かりやすく教えていただきました。私達大人が変わらなければいけない。

・安心をベースに子どもはどんどん挑戦していくというお話に、我が家が安心の場になっているのかと振り返りました。私がもっとゆったりとした気持ちを忘れないようにしたい、息子のセンス

オブワンダーを受け止めたいと思いました。帰宅して、夫も一緒に講演会の内容を振り返りました。

＜お散歩会＞

・散歩をして親子で色々な発見があり、スタッフさんと話をして気持ちが元気になりました。今まではお花を見て歩くのが自然との触れ合いだと思っていましたが、大人発信だったのかなと参加してみて気づきました。子ども発信で歩いてみると落ち葉の溝もこんなにフワフワ、サクサクして心地よいのかと体験する事ができました。

・整備された公園や歩道だけじゃなくて、自分の興味や感性がもっと広がる環境にも連れて行ってあげたいなと思いました。

・自然遊びをする機会があっても、自然物をみつけたときの気持ちや楽しかったことの振り返りは出来ていなかったなぁと気づきました。普段のお散歩の後にも子どもの心が動いた瞬間をゆっくり聞く時間をもちたいと思います。

実績報告とりまとめ表

実　施　時　期		11 月 23 日	計
事業量 又は 事業内容		自然保育について学びを深める講演会や体験の場を開催	
参加者数	県　内 県　外 計	50 人 950 人 1,000 人	50 人 950 人 1,000 人
実　施　場　所		奈良県河合町	

うみの森おやこひろば

うみの森こどもひろば
〒631-0844　奈良市宝来町 1270-19

1．活動の概要

森林、里山など自然の中でこどもの五感を育み、身体の発達を促すこと、また親子での自然体験を通して自然の大切さを学ぶこと。自然の中でのアート活動を通して、親子の豊かな共通体験と感性を育むことをなどを目的として活動を行いました。

月１回、季節に応じて、野菜の種まき、苗植え収穫。収穫した野菜を使った調理やかまどでの火おこし、また田植えから始まり、稲刈りまでを体験し、田んぼで採れた米を焚いて食べるなど、食育にも通じる、本物体験ができる場作り行いました。里山では、小川にはメダカがいたり、昆虫などの生き物が生息し、生き物と触れあえる体験にもなった。

また自然の中のアート活動では、自宅ではできないダイナミックな表現遊びをしたり、散歩で自然物を探してから、それを表現に使うなど、自然と触れあいながらアートで自己表現をする楽しさを親子で味わう事ができた。

2．活動の成果

通常はこども園や保育園に通っているが、そこでは自然体験などはほとんどなく、両親としても自然体験をさせたいと思いながらも、どのような活動をしたらよいかわからなかったが、この場所で虫を触れるようになったり、のこぎり、包丁など、ここでの体験から一緒にできるのだと分かり、家でも料理を一緒にするようになったなど、月１回の活動であるがこの場での経験が日常の生活へと繋がっていく事を感じた。また、思っている以上に自然体験を子どもにさせてあげたいと感じている保護者の方は多く、後半は定員以上の申し込みがあった。

１度参加すると、ほぼ毎月の様に参加してくださる家族が多く、今後は１回ごとのイベントではなく継続して参加してもらえる仕組みもつくり、より親子で主体的に活動できるようにしたい。

3．参加者の声

【里山活動】

・畑で採れた野菜を収穫でき、それをまた家で料理したみんなで食べる時に、畑での楽しかった事を思い出して話す事ができて嬉しかった。畑で様々な生き物に出会い、自宅の図鑑でもう一度調べてはどうやって捕まえたか、など一緒に行けなかった家族にも話す事ができた。

・親をきにせずに、こどもが本当にのびのびとしていて、初めて会った友達とも楽しんでいたり、美味しい野菜を食べる事もでき、子どもが楽しそうな姿を見る事ができて幸せに感じた。

【お話し会】

自然保育の素晴らしさを改めて実感する事ができた。非認知能力など自然保育でどんな力がつくのかが分かった。自然保育は自然の中であればいいのではなく、大人の在り方が大切だということがわかった。良いお母さんになろうと頑張っていたが、幸せなお母さんになりたいと思う。

実績報告とりまとめ表

実　施　時　期		7月12日	8月11日	9月14日	10月12日	11月17日
事業量 又は 事業内容		竹コップ作り、とうもろこし、プチトマトの収穫、色水遊び	ボディペイント 絵本	種まき 夏野菜の収穫 色水遊び	稲刈り さつまいも掘り お弁当タイムい 絵本遊び	新米を羽釜で炊く 野菜の味噌汁
参加者数	県　内 県　外 計	23人 0人 23人	27人 0人 27人	16人 0人 16人	33人 0人 33人	29人 0人 29人
実　施　場　所		奈良県　奈良市				

実　施　時　期		1月18日	2月16日	3月6日	計	備考
事業量 又は 事業内容		冬野菜の収穫 収穫した野菜の味噌汁 かまどでお餅	散歩 ねんど、絵の具霧吹き遊び	お話し会 子どもも大人も育ちあう自然な子育て		
参加者数	県　内 県　外 計	33人 0人 33人	23人 0人 23人	22人 0人 22人	206人 0人 206人	
実　施　場　所		奈良県　奈良市				

保育園・幼稚園等における森林環境教育の推進

（公社）島根県緑化推進委員会
〒690-0886　島根県松江市母衣町55番地
島根県林業会館４階

１．活動の概要

保育園・幼稚園等における森林環境教育を進めるため、１４回の出前講座を開催した。

２．活動の成果

各園とNPO団体が実施内容等について事前に協議を行い、各園の要望や状況を踏まえた出前講座となった。

園の周りにある自然素材を教材とし、園児が目で見て、触れて、匂いを嗅ぐなどの五感を使った体験やわかりやすい説明によって、園児たちの興味や理解を深める講座となり評価が高かった。また、講座を通じて園のスタッフが学ぶ機会になるとともに、講座の話題が家庭で話された園もあり波及効果が見られた。

３．参加者の声

・人形劇を通して、子どもたちに自然があることの大切さをわかりやすく、伝えてもらうことができた。
・全員が興味をもって、長い時間、集中して楽しむことができた。
・木の温かさ、色味、やさしさ、匂いなどを感じることができ、木によっていろいろな特徴や違いがあることに気づくことができた。
・家に帰って、講座で聞いたことを保護者に伝える園児もいた。
・木の素材の手触りや匂いなど、いままでにない体験ができ、良い時間だった。
・園のスタッフにも貴重な体験となったなど、多くの感想が寄せられた。

実績報告とりまとめ表

実　施　時　期		11月5日～12月18日	計
事業量 又は 事業内容		出前講座	14回
参加者数	県　内 県　外 計	289人 人 289人	289人 人 289人
実　施　場　所		県内8市町（松江市、出雲市、雲南市、大田市、浜田市、津和野町、吉賀町、西ノ島町）	

森林を活用した自然体験活動

特定非営利活動法人　隠岐しぜんむら
〒684-0403　島根県隠岐郡海士町大字海士 5328-6

1．活動の概要

森のようちえん『お山の教室』では、雨や雪の日でも毎日外で過ごしており、子どもたちは自然とふれあいながら、さまざまな経験を重ねている。また、『お山の教室』に通う子どもたちだけでなく、島の子どもたちが参加できるように、自然の中での体験や観察ができるイベントを行う。森林を使って、自然に親しむ体験や環境教育、自然観察会などを企画実施。

2．活動の成果

・毎日自然の中で過ごすことで四季の変化を体感でき、既存のおもちゃがない中で様々な自然物で遊び、自然に親しむことができている。危険な生物や植物に対し排除するのではなく毎日自然の中で過ごしていくからこそ「どうしたら自分の体を守ることができるのか」ということが身についてきている。卒園し小学生となっても虫や植物の知識など自然へ親しむ姿勢がより強いという声を聞いている。
・小学生対象の自然体験活動イベントではアウトドア体験を主軸に置くのではなく、環境学習に重きを置いているので、体験を通して隠岐の自然の豊かさや課題も合わせて学ぶプログラムとしている。そのため、学校教育の中で行う地域学習で本イベントで学んだことをきっかけに島の環境課題をテーマにして地域探究をする子どもが複数いる。
・海士町は移住政策で多世代（親子・高校・大人）島留学事業を行っており、参加者はそうした小学生から若年層が多く、隠岐の自然環境に興味を持ち、学習意欲が高いので本イベントを開くことで隠岐の自然環境の理解を深める機会となった。

3．参加者の声

・毎日自然の中で過ごすことで体力がついている。
・「これはマムシグサだよ」と危険な植物を教えてくれ、日々の知識が身についている。
・寒い雪の中太陽が出ると温かさを感じ「太陽さんありがとう」と言っていて、自然への感謝の気持ちが育っている。
・サマーキャンプはただのアウトドア活動ではなく、環境を学ぶ活動が充実しているプログラムで素晴らしかった。
・隠岐の野鳥を間近にみる貴重な機会だった。
・野鳥のことを初めて知ることばかりで勉強になった。
・もっと隠岐の自然について知りたいと思った。

実績報告とりまとめ表

実　施　時　期		2024 年 7 月～ 2025 年 5 月	2024 年 7 月 23 日～7 月 24 日	2025 年 4 月 26 日	計
事業量 又は事業 内容		森のようちえん 『お山の教室』212 回	サマーキャンプ	野鳥調査体験会	
参加者数	県　内 県　外 計	2,789 人 0 人 2,789 人	10 人 0 人 10 人	35 人 0 人 35 人	2,834 人 0 人 2,834 人
実　施　場　所		島根県隠岐郡海士町金光寺山			

里山再生ワークショップ

桜本美林を守る会
〒699-2514　大田市温泉津町福光ハ1621-120

1．活動の概要

美しく手入れされた人工林、放置された里山林のそれぞれの問題点と適切な管理方法、健全で自然豊かな森林・里山環境へ誘導する方法を実践し体験しながら習得するワークショップの実施。
１、持続可能な健康的な山林を育てる方法を地域の方々や本事業で関わるメンバーが習得する。
２、山主が高齢化しており、若い世代が今後山林の維持管理を受け継ぎ、さらに改善して後世へ受け継いでいける機会や状況を生み出す。

2．活動の成果

里山では、主に領域を広めようとする竹の伐採を行い、その竹を活用して山の一部に茅葺の小屋（縄文小屋）を建て、今後も山作業の合間に休憩できる空間を作った。また、竹をナタやナイフだけで簡単な日常使いできる道具を作った。縄文小屋の中心には囲炉裏スペースがあり、山に山積している落枝や枯木がエネルギーとして簡単に活用できることを即実践できるスペースにもなっている。焚火のワークショップにも力を入れた。昼食作りで、参加者が拾った落枝で米を炊くなど、目的のある山掃除を実施し参加者の感動と達成感を得た。またこの枝拾いが上流域にある川掃除につながり、川に流れる水野流れや風の通り方を実感し、普段街に住んでいる人でも山の維持に貢献できることと、その変化を感じることがわかった。今期は炭小屋の建設にも取り組み始めたところで終了したため、今後も継続してこのようなワークショップの機会を創出していきたい。

人工林では、見学者などの訪問者が増えていることから子供達にもっと来てもらうようにと教育関係者にも声をかけて山道の課題を見つけ、山道の整備や周辺の危険木の伐採、水の通り道の整備などを実施した。すべて山の中にあるものだけで安全な道作りをするワークショップを参加者と行い、安全で歩きやすい山道補修が実現した。また、以前のワークショプで巻枯間伐した材を運び出して木工加工するなど行い、今後の人工林のビジョンを講師の大内さんや参加者と共に描いた。これはワークショップの域を超えるが、これから山の中に現代の若者が住みたくなるような無垢の木のモデルハウス建設を実施したいと考えている。これに関連づいて、まずは山の未来を描いて、適切な木の間引きを行い、それを製材し建設準備を数年かけて行う計画だ。この過程にワークショップを絡めていくことを考えている。

3．参加者の声

・自分のちょっとした作業で川の水の流れが良くなったり、空気が流れたりして、先生の解説も上手だったのでこの作業をしたことでどんなふうに山に影響していくのかが想像できたこと、自分が貢献出ているという感覚がとても嬉しかった。
・山の中に入るとあんなに枝が落ちているとは知らなかった。いくら山掃除だと言ってもその枝を拾うだけだったらしんどいと思うけど、こんなに美味しい米が炊けるとわかった今、「米を炊くため」という目的があれば進んでやりたい。
・もっと誰もが山にかかわるべきだということがよくわかった。
・これこそが真の意味で「最高のラグジュアリー」な体験だった。（世界的なブランドの社員）

実績報告とりまとめ表

実　施　時　期		9月13日	9月14日	11月29日	11月30日
事業量 又は 事業内容		縄文小屋作り 焚火調理体験 里山整備 レクチャー （参加費 ¥5,500）	縄文小屋作り 里山整備 （参加費 ¥3,300）	縄文小屋作り 焚火調理体験 里山整備 レクチャー （参加費 ¥5,500）	縄文小屋作り 里山整備 （参加費 ¥3,300）
参加者数	県　内 県　外 計	6人 1人 7人	5人 0人 5人	13人 2人 15人	2人 2人 4人
実　施　場　所		島根県大田市温泉津町			

3月6日	3月7日	5月3日	5月4日	5月14日	計
縄文小屋作り 焚火調理体験 里山整備 レクチャー （参加費 ¥5,500）	縄文小屋完成 焚火調理体験 里山整備 （参加費 ¥3,300）	人工林、林道整備、笹薮伐採 （参加費 ¥5,500）	焚火調理体験 里山整備 竹工作 （参加費 ¥3,300）	里山整備 焚火調理体験 竹林伐採 竹の屋根作り （参加費 ¥5,500）	
0人 2人 2人	0人 11人 11人	3人 3人 6人	2人 3人 5人	0人 22人 22人	31人 46人 77人
島根県大田市温泉津町					

里山保全普及啓発事業

ＮＰＯ法人倭文の郷
〒709-4623　岡山県津山市桑下 29-1

1．活動の概要

山里では、ここ数十年に若年層が局端に減少し、高齢化が進行している。森林とのかかわりが極端に薄れている。今春期は全国各地で山火事が発生して、住宅が消失するなど被害が拡大して大きな社会問題となっている。少雨乾燥地帯と称される岡山県南部瀬戸内海地域の被害は池沼に滞積する落ち葉が誘因となり、被害が拡大した。一方、県北はクマが出没するなど有害鳥獣が生息しt、周辺の田畑や住人に被害を与えている。住人の里山離れが加速しており、当組織も微力ながら森林教育や各種イベントを実施して、森林整備の必要性を PR した。

2．活動の成果

森林が有する恩恵について、体験を中心として実施した。定員２０人、６回のイベントを実施して､県内外から１０１人を迎えた。絶滅危惧種である「ブッポウソウ」の保護活動では４月下旬、４か所に巣箱を取り付けて、７月２か所で巣立ちを観察した。内蔵カメラを取り付けた１か所の巣箱では、当初営巣活動が見られたものの警戒心が強く、巣立ちには至らなかった。親子で募集した｢ツリークライミング｣ではリピーターも増加して､ロープを使っての木登りを楽しんだ。他方、「杉玉づくり」に県内外から若年層から高齢者層まで定員超過の参加があり、イベントとして高い人気を保った。春の「バードウォッチング」では生憎の雨天であったが、冬鳥と漂鳥、留鳥など貴重種が継続して観察できた。ＳＤＧｓの活動が推奨されるなか、里山を通じて豊かな地域社会づくりの必要性を共有した。

実績報告とりまとめ表

実施時期		7 月 21 日	11 月 3 日	11 月 24 日	3 月 16 日	3 月 29 日	4 月 23 日	計
事業量又は事業内容		ブッポウソウの保護活動	ツリークライミング	杉玉づくり	バードウォッチング	苔玉づくり＆山桜鑑賞会	巣箱設置	
参加者数	県　内 県　外 計	12 人	34 人	28 人	6 人	17 人	4 人	100 人 1 人 101 人
実　施　場　所		奈良県奈良市・奈良県桜井市・奈良県下北山村・奈良県黒滝村						

デジファブを活用した里山保全と森林環境教育の推進

特定非営利活動法人ひろしま自然学校
〒731-1221　広島県山県郡北広島町今吉田 1197

1．活動の概要

3Dプリンター、レーザーカッター、CNCルーターなどのデジタル機器を活用し、間伐材等を利用したモノづくり教室を開催することで、間伐材等の有効活用と里山への関心を喚起するとともに、都市と中山間地の交流を促進し関係人口の創出に寄与する。

2．活動の成果

今年度はデジタル機器を取り扱えるオペレーター養成に重点を置き「デジファブ活用促進指導者養成講座」を延べ５回開催すると同時に、ものづくりマルシェなどでの指導体験（OJT）の機会を設けたことで、数名のオペレーター（指導者）を育成することができた。このオペレーター（指導者）を核として、今後間伐材を利用した小物作りなどにチャレンジし製品化を目指していきたい。

また、地元高校生の探究学習の中で、森林の課題解決に取り組むグループとコラボレーションして、地元の伝統神楽面をデジファブで制作することにもチャレンジし、次年度以降の探究学習においてデジファブを活用した地域課題解決プロジェクトが立ち上がることになった。地元に住む若者に地域の森林が抱える課題について真剣に考えるきっかけを与えることができたのは大きな成果と言える。

年間を通じて毎週木曜日に実施している「平日作業隊」は、定年退職したボランティアによる里山整備活動として定着し、年間で265名のボランティア参加があった。

3．参加者の声

「指導者講座に参加して、自分で機械を動かせる自信が少しついた。今後は、この工房を活用して自分なりの作品制作にチャレンジしてみたいし、そのための工房の一般開放を希望する」という声が複数寄せられた。

実績報告とりまとめ表

実施時期	7.7	10.6	10.12-13	11.3	12.8	1.19-20	3.3	3.16	4.29	6.15	R6.7-R7.6	計
事業量又は事業内容	シンポジウム	指導者講座	ものづくりマルシェ	指導者講座	指導者講座	指導者講座	ネイチャーポジティブ講座	指導者講座	ものづくりマルシェ	ものづくりマルシェ	里山整備ボランティア活動(44回)	54回
参加者数												
県　内	32人	7人	37人	6人	7人	13人	28人	5人	23人	11人	265人	434人
県　外	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人
計	32人	7人	37人	6人	7人	8人	28人	5人	23人	11人	265人	434人
実施場所	広島県山県郡北広島町　豊平どんぐり村											

林間学校プロジェクト事業

NPO 法人ひろしま人と樹の会
〒730-0052　広島市中区千田町 1-15-4-904

1．活動の要旨

小学生を対象に、森林の中での宿泊型林間学校を開催し、キャンプを二度にわたり実施。

キャンプでは、チェーンソーによる模範伐採を見学し、指導者のもと、ロープを使って木を引き倒す伐採作業を体験した。

さらに、手ノコを活用した枝払い・玉切・丸太切り・薪割機を使った薪づくりを実施した。

活動中に発生した材を活用した鉛筆づくりも行った。

さらに、自然への理解を深めるため、雲月山縦走登山を実施。

活動を円滑のするため、体験フィールドの整備は、枯れ木の処理、草刈りや間伐・除伐を実施した。参加者募集では７月と９月にチラシを作成・配布し、多くの児童が本事業に参加した。

2．活動の成果

本事業を通じ、児童たちは森林内での集団宿泊活動を経験し、互いに協力しながら社会性やコミュニケーション能力を培った。森林・林業体験を通じては、自然の恵みとその厳しさを肌で感じ、森林の重要性への理解を一層深めることができた。雲月山縦走登山では、達成感を味わうとともに、自然の雄大さと人との調和の大切さを実感した。この体験は、将来の森林保全や林業振興への関心を高め、次世代を担う「森の守りて」としての育成へとつながる契機となった。

3．参加者の声

○模範伐倒では、チェーンソーで木を伐るのを初めて見ました。木が地面に倒れると「ドスン！」と大きな音がして、地面が揺れたのがすごかったです。

○丸太切りは、初めての体験で、最初上手く切れなかったが、教えてもらって、切れるようになり達成感を感じました。

○キャンプでご飯を炊いたとき、少し焦げてしまいましたがとても美味しかったです。またやってみたいです。

○山登りでは、天気もよく、遠く鳥取県の大山も見えました。頂上までの登山は大変でしたが、景色を見たら疲れも吹き飛びました。

○小さな無毒の蛇を見つけ、手に乗せてみました。くねくねと動くのを観察しました。蛇の体が冷たくて怖かったですが貴重な体験ができました。

○世界で一つだけの鉛筆をクロモジの枝で作りました。持ち帰って自慢したいです。作るのがとても楽しかったです。

実績とりまとめ表

実　施　時　期		7/13	7/24・25	7/27・28	10/13・14	11/19	11/28	計
事業量又は事業内容		現地確認調査	事前準備下草刈り1.0ha 枯れ木伐採	キャンプ森林探索、丸太切り、薪づくり自炊体験	キャンプ模範伐倒、丸太切り、自炊体験、登山	間伐、0.6HA搬出	間伐、0.4HA搬出	キャンプ２回 下草刈り 1.0ha 間伐 1.0ha
参加者数	県　内	2 人	9 人	89 人	97 人	4 人	4 人	201 人
	県　外	0 人	0 人	0 人	0 人	0 人	0 人	0 人
	計							201 人
実　施　場　所		山県郡北広島町土橋						

「とくしま木づかいフェア 2024」の開催

とくしま木づかい県民会議
〒770-8001　徳島県徳島市津田海岸町 5-13

1．活動の概要

日頃、木と接する機会の少ない方々に、木工教室や木づかい体験、森林整備のパネル展示等を通して、木を使うことが森林環境の保全や山村地域の活性化に貢献し、SDGs の推進につながることを PR するため、「とくしま木づかいフェア 2024」を開催した。

① 会員等のブース出展による木製品の展示・販売、パネル展示、ドローン体験など
② ワークショップ（どんぐり木工教室、親子木工教室など）
③ 木製品が当たるスタンプラリー抽選会
④ 木を使ったパフォーマンスショー

2．活動の成果

当フェアのブース出展に小学校が初めて参加し、地元の森林組合の協力により児童が作成した木工作品の展示・販売を行ったところ、来場者に大変好評であった。木づかいで未来につなごう SDGs を掲げた今年のテーマどおり、未来の木づかいを担う世代に素晴らしい体験の場を提供することができた。

次回以降も、小学校等の教育機関と連携を図りながら、次世代を担う子ども達に木づかい体験できる機会を創出し、その輪を広げていきたい。

3．参加者の声

木製の日用品が手頃な価格で購入できて素晴らしい。
やわらかい木のぬくもりを感じた。

実績報告とりまとめ表

実　施　時　期		10 月 26 日	10 月 27 日	計
事業量 又は 事業内容		とくしま木づかいフェアの開催	とくしま木づかいフェアの開催	
参加者数	計	2,149 人	5,360 人	7,509 人
実　施　場　所		徳島県板野郡板野町　あすたむらんど徳島		

少年少女里山マイスター養成講座

特定非営利活動法人 徳島県森の案内人ネットワーク
〒770-8055　徳島県徳島市山城町東浜傍示 5-226

1．活動の概要

活動は身近な里山をフィールドにした体験型の講座で、森の遊びを通した野外での活動として【木登りやロープ渡りなど】、小集団での作業として【きのこの植菌や秘密基地作りなど】、道具を使っての【ノコギリでの伐採体験やオノでの薪割り体験など】、季節に応じた「クリスマスリース作りなど」を実施。また、今回山人の森の再生の第一歩として、どんぐりからの苗木作りを親子で実施しました。本講座は次代を担う青少年の育成を目的としています。

2．活動の成果

活動の成果の第一はケガや事故も無く受講生２０名が修了証を受け取れたことです。次に保護者から、自然に触れて鹿の角を使ったクラフトやオニヤンマ作りなど、普段の生活では出来ないことが体験でき、子どものときの体験はとても大切と感じて貰えたことです。野外での活動することが殆ど無く自然に触れる機会の減ってきている子ども達に、これからも身近な里山を使ったフィールドでの体験型の講座を継続して実施し、豊かな感性を持った子ども達の育成に寄与して行きたいと思います。

3．参加者の声

講座終了後、アンケート（受講生及び保護者に対して）及び感想文をお願いしました。受講生の感想文には、「木登りやロープ渡り」などの森の中での遊びや「植菌や生き物観察」などの活動を通して自然の中での色々な体験を喜んでいる言葉が書かれていました。一方保護者からは、様々な内容の講座を用意し、色々な体験が出来たことに感謝していました。また、保護者参加の回（第３回）があったことも喜んで頂きました。本講座の様子を報告書（概要版）にまとめました。

実績報告とりまとめ表

実　施　時　期		7月1日～	5月31日	計	備　考
事業量 又は 事業内容		少年少女里山マイスター養成講座	少年少女里山マイスター養成講座	6回	講座は令和6年10月～令和7年3月迄の 6ヵ月間／月1回
参加者数	県　内 県　外 計	人 人 人	人 人 人	延べ214人 1人 215人	県内；受講生＆保護者・姉妹及び会員の延べ人数 県外；自然観察指導員
実　施　場　所		徳島県徳島市入田町月ノ宮			

まちの縁が輪での住育プロジェクト

ひょうたん島まちなか再生機構
〒770-0847　徳島県徳島市幸町１丁目43番地

１．活動の概要

今年度は、「まちの縁が輪」が６団体による協働運営方式で１年間継続利用ができるようになった。そこで今年度は下記事業を継続実施した。

・７月から毎月１回、住まい方の作法である「住育」や「地域づくり」について、地域材で住まいづくりを実践した人や市民を交え、新築、リフォーム予定の家族に、先人の住まいづくりの知恵や地域材の活用の意義についての「くんだら塾」を開催した。（ファンド事業）
・木造住宅の維持管理を目的とした利活用や住まいの終活について、出前セミナーを牟岐町で開催した。（ファンド事業）
・「地域材の生産から供給」のパネルと「先人から学ぶ住まいの知恵」パネルを利用して「住育」展を開催し、来場者には地域材利用の意義について説明をするようにした。（自主事業）
・ワークショップで作った本棚を建築図書館として平日に誰でも木造住宅の雑誌や書籍が閲覧できる運営体制を整備した。（自主事業）

２．活動の成果

・定期的に実施した勉強会では、くんだら塾の講師や建築士によるアドバイスと共に、住宅雑誌等を素材に活発な議論が展開され「住育」の役割と必要性について理解が深まったと考えている。また､住まいの維持管理とリフォームによる産価値維持の重要性について「住まいの終活 in 牟岐」を出前セミナーとして開催、地域住民には日頃の疑問や悩みに対応したことで非常に喜ばれた。
・建築図書館では、建築を学ぶ学生が講義資の合間や休日に来場して、建築専門書や住宅雑誌を見ながら学習や交流をするようになった。また、住育をテーマにしたパネル展を５月、６月の２か月で実施、地球環境の保全と共に住み手の健康に貢献できる地域材の役割についての理解が、消費者や建築を学ぶ学生にも理解して頂いた。

３．参加者の声

地域材を活用しての木造住宅や建築物が地球環境や地域づくりに果たす役割が理解できたとの意見が寄せられている。

実績報告とりまとめ表

実　施　時　期		月　日	月　日	月　日	月　日	月　日	計
事業内容	・企画パネル展	5月1日～	6月1日～				2か月間開催
	・くんだら塾	7月27日	8月24日	6回/月開催	3月22日	4月26日	10回開催
	・出前セミナー	11月29日					1回開催
	・建築図書館	R6・7月～					常時開催
	・パネル展	R6・7月～					常時開催
参加者数	・企画パネル展	20人	20人				延40人
	・くんだら塾	10人	15人	68人	12人	15人	延120人
	・出前セミナー	10人					10人
	・建築図書館	200人					200人
	・パネル展	200人					200人
実　施　場　所		まちの縁が輪　徳島県徳島市幸町１丁目43番地					

いろいろな生き物と共存する森づくり

特定非営利活動法人山村塾
〒834-1222　福岡県八女市黒木町笠原 9836-1

1．活動の概要

1991 年 17 号、19 号の大型台風による風倒木被害は激甚災害に指定され、多くの市民が森づくりへの関心を寄せて、九州各地で広葉樹の森づくりが行われた。当会が森づくり活動を行ってきたフィールド（通称：ケヤキ林）もその一つであるが、活動を開始し 30 年を迎えるにあたり、研究者や市民の参加を交えて、これまでの成果や意義を振り返り、今後の整備や活動の在り方を考える機会を得た。

今年度は、森林整備モデルの試行や整備方針検討を行うワークショップ（全２回）を実施し、これまでの調査・議論をもとにケヤキ林の中長期ビジョンづくりを進めた。また、九州大学大学院芸術工学研究院朝廣研究室の協力により、初年度の調査成果と本年度の取り組みを整理した冊子を制作した。

※シンポジウムを計画していたが、実施することができなかった。

2．活動の成果

令和５年度事業で得た知見をもとに、令和６年度事業では森林整備モデルの試行、整備計画づくりに取り組み、市民参加による広葉樹の森づくり手法の一例を整理することができた。しかし、シンポジウムを実施することができなかったため、当初見込んだような波及効果を得られていない。

実施できなかった取り組みや情報発信は、令和７年度～９年度の３か年をかけて取り組む予定であり、市民参加による広葉樹の森づくりの意義、生物多様性を高めるための森林整備について、多くの方々と考えていきたい。

3．参加者の声

・作業量としては今回の範囲と 10%全層間伐が丁度よいかもしれない。
・今回は 10%だったが、もうちょっと切ってよいような気がした。
・今回、なぜ 10%と 30%の強度が提案されたのかが気になった。
・間伐作業は楽しかった。
・森の生育状況に対する間伐強度が知りたい。
・大径木を抜いたあとに、クラスター的にケヤキの苗を植えて、モザイク的に管理するのはどうか。

実績報告とりまとめ表

実　施　時　期		10 月 13 日～ 14 日	2 月 16 日	計
事業量 又は 事業内容		中長期ビジョンづくり ワークショップ第１回	中長期ビジョンづくり ワークショップ第２回	ワークショップ ２回３日間
参加者数	県　内 県　外 計	13 人 0 人 13 人	14 人 0 人 14 人	27 人 0 人 27 人
実　施　場　所				

温泉施設と連携して行う地域材の普及啓発事業
「お風呂で天草森林浴フェア」

天草ヒノキプロジェクト（熊本県）
〒863-0032　熊本県天草市太田町8番地の6
野上建設株式会社内

1．活動の概要

目的

地域の森と木材への親しみを育て、総合的利用を促す。

活動内容

市内3ヶ所の温泉施設と連携し、リラックスシーンで森林資源の効用を体感できるフェアを実施した。11月26日～12月9日の期間中、実施施設の浴槽に天草ヒノキを削った木球を浮かべ、脱衣所にはヒノキをベースに森林浴効果をテーマに製作したアロマスプレーを設置した。施設内には「天草の木づかい」リーフレットも設置し、森林のはたらきや木材利用について訴求した。

2．活動の成果

- 市民（温泉利用客）と実施施設、双方から好意的な反応が得られ、地域材の認知、親しみの醸成につながった。
- 開催にあたって実施施設との協力連携を通して、地域材を軸にしたコミュニケーションが生まれ、森林や木材利用への関心、共感を寄せていただけた。
- 地域材の利用シーンや用途が広がる手応えを得た。
- 市民（温泉利用客）が多く話題にし、地域材の認知の向上にも貢献できた。
- フェアをきっかけに、地域材利用商品の問合せや販売にもつながり、普及啓発活動の確かな手応えを感じた。今後も、共感を得やすい手段やメッセージで、森の力を高めながら林業と関係産業の活力につなげていきたい。

3．参加者の声

実施後、実施施設にご協力いただいたアンケート記載の利用者の声より

- 木の香りがして気持ちよかった。普段時よりリラックスできた。
- 木のボールは売っているのか。孫のおもちゃに買いたい。
- もっと期間が長くあればいい。
- 天草ヒノキを初めて知った。
- フェア目的に来館されるお客様もいらっしゃった。

実績報告とりまとめ表

実　施　時　期		11月26日～12月9日	計
事業内容		市内の3温泉施設で「お風呂で天草森林浴フェア」開催	
参加者数	県　内	5,760人	5,760人
	県　外	960人	960人
	計	6,720人	6,720人
実　施　場　所		熊本県　天草市	

第 29 回九州森林フォーラム in 福岡県福岡市
～森林環境税を見える化する～

NPO 法人九州森林ネットワーク
〒 883-1301　宮崎県東臼杵郡諸塚村大字家代 2683 番地
諸塚村企画創生課内

1．活動の概要

2024 年度から年間一人当たり 1,000 円の森林環境税の徴収が始まりました。自治体への配分は 2019 年度から開始されており、すでに各自治体は運用を行っています。森林地域の自治体での森林整備、林業振興、担い手の育成の事業とともに、森林が少ない自治体では地域産材の利用推進や上流自治体との連携等などに使っています。また、各自治体は森林環境税の使途を HP で公表することになっています。それを私たちはどう評価し、森林を豊かにするために何ができるでしょうか？また、国版の森林環境税とともに、37 府県で自治体版「森林環境税」が導入されています。有効な活用はできているのでしょうか？

それらを議論するためには、森林管理における地方自治体の役割とは何かから考える必要があります。今回の第 29 回九州森林フォーラムでは、市町村の森林行政研究に取り組まれている森林総合研究所の石崎涼子氏と愛知県豊田市の鈴木春彦氏を基調講演者にお招きしました。市町村が森林管理でやるべきこと、やれることを知った上で、森林環境税を見える化したいと考えています。

2．活動の成果

今回テーマを「森林環境税を見える化する」と題してフォーラムを開催しました。

自治体の立地条件や、所管する森林面積の多少、職員規模による森林行政の体制も異なる中で、森林環境税を活用した自治体による森林管理のあり方を学べる良い機会になりました。

これまで未解決課題であった森林行政問題に対し、各自治体の裁量で取り組むために、貴重な森林環境税を財源としていることや、現時点での課題や将来への展望などを多くの方に周知できたフォーラムとなりました。

また、フォーラムに参加できなかった方などのために、オンライン（YouTube 配信）での同時配信を行いました。

3．参加者の声

・森林環境税譲与税の全体像を知る機会になりました。石崎先生ご説明が非常にわかりやすかった。鈴木さんを、パネラーの方々から、事例を伺えてよかった。総会に参加して、団体の運営が、山側の自治体組合などの方々の業務に支えられているのを実感した。（一般　60 歳以上）

・いろんな立場の方が登壇されており、各々で議論されていたのが非常に新鮮で興味深かった。（学校関係　20 歳代）

・1 日目の現地視察では、森林環境税が実際にどのように使われているかを直接見ることができ、見える化という点においては木材利用は非常にインパクトがあり、伝わりやすい一例であることを気付かされました。一方、2 日目の基調講演では、森林環境譲与税の設立経緯や本質的な部分（石崎先生）、その課題を踏まえて市町村がどのように取り組めるのかの手法的な部分（鈴木先生）を学ばせていただき、白書や報道からの情報ではわからない課題や取組事例を知る良い機会となりました。（学校関係　20 歳代）

・単に地域材を使用するという表面だけの取組だけではなく、次の世代へのストーリーを工務店としても考えていきたいと思います。（工務店　20 歳代）

・市町村森林行政に焦点を当てたお話で参考になりました。特にこれまで感覚として捉えていた市町村の人手不足について、具体的な統計資料で説明していただき、目からウロコが落ちる想いで

した。（行政　50歳代）
・期待とおりの内容で勉強になりました。（設計　60歳以上）
・年１回は森林環境税の使用方法を我々にも説明して欲しい。森林組合内ではうまく活用されているが中々審査が難しい。行政における担当者は３～５年で異動されるので、中々関心が薄いのでは。（一般ユーザー　60歳以上）

実績報告とりまとめ表

実　施　時　期		10月25日	10月26日	計
事業量 又は 事業内容		現地見学会 　油山市民の森・牧場 （福岡県福岡市）	フォーラム 「基調講演①　国立研究開発法人森林研究・整備機構森林総合研究所森林経営・政策研究領域チーム長石崎涼子氏」 「基調講演②　豊田市地域森林総合管理士　鈴木春彦氏」 「事例発表　4件」 「パネルディスカッション」	
参加者数	県　内 県　外 計 オンライン参加	18人 16人 34人	21人 19人 40人 17件	39人 35人 74人
実　施　場　所		福岡県　福岡市		

健全な森のサイクルに貢献する「木づかい」事業

特定非営利活動法人もりびと
〒890-0064　鹿児島県鹿児島市鴨池新町 27-2-510

1．活動の概要

森の生活への重要性や木材利用の幅広さを知り、森の役割と保護の重要性を理解し、木材需要の増加を通じて山村地域の活性化の促進を目的とする。

2．活動の成果

本事業には合計 155 名が参加し、森の健康や持続可能なサイクルの維持が木材利用によって支えられていることを多くの参加者に実感していただきました。また、木工体験を通じて身近な取り組みが森林保全や地域材の有効活用に繋がることへの理解が深まりました。今後もこの活動を継続し、さらに多くの人々にその価値を伝え、地域材利用の拡大と森林保全への関心を高めていきたいと考えています。

3．参加者の声

学びの充実感：木を使うことが森のサイクル維持や森林保全に繋がることを理解でき、学びのある活動だったという感想が多く寄せられました。
体験の楽しさ：木工体験を通じて楽しみながら作品を作り上げる過程に満足し、自作の作品を大切に使いたいという声がありました。
達成感：木材加工の難しさも体感しつつ、完成した作品に喜びを感じた参加者が多くいました。

これらの声から、学びと楽しさ、そして達成感をバランスよく提供できた事業内容だったと思います。

今後もより多くの参加者を得るため、新しい木工体験プログラムや普及活動を企画・実施していきます。地域材の利用促進を通じ、持続可能な森づくりと地域活性化に引き続き貢献していきたいと考えています。

実績報告とりまとめ表

事業内容	実施時期	参加者数
・地杉を使ったコースターづくり / 講座森のサイクルで洪水や土砂災害を防止できることを学ぶ	8 月 10 日	21 名
・地杉を使ったオリジナルチェアーづくり / 講座木を使うことで地球温暖化防止につながることを学ぶ	8 月 24 日	30 名
・間伐材のカッティングボードづくり / 講座木を使うことで生物多様性保持に貢献できることを学ぶ	9 月 21 日	26 名
・地杉を使ったコースターづくり / 講座木を使うことでさまざまな効果を学ぶ	10 月 12 日	19 名
・間伐材のカッティングボードづくり / 講座地域材を使うことで地域活性と雇用創出につながることを学ぶ	11 月 9 日	29 名
・地杉のクリスマスツリーづくり / 講座木を使うことで木のぬくもりを学ぶ	12 月 7 日	30 名
県　内	150 人	150 人
県　外	5 人	5 人
計	155 人	155 人
実施場所：鹿児島県日置郡伊集院町土橋		

日本三大砂丘「吹上浜」の白砂青松再生事業
～「森林ボランティアの日」森林づくり活動 ～

鹿児島県森林ボランティア連絡会
〒892-0816　鹿児島市山下町 9-15

1．活動の概要

今回の活動地である吹上浜は、約 40㎞にも及ぶ日本最長の砂丘で日本三大砂丘の一つである。

約 25㎞が松に覆われ、飛砂や防風から住民生活を守り、観光資源としても重要な役割を担ってきたが、近年、マツクイムシやマツケムシにより一部の地域で甚大な被害を受けている。

当会では、このマツ林を皆の手で守り育てていくことの大切さを広く周知し、一人ひとりがそれぞれの立場で森林づくりに参加する意義を広く発信するため、国や県、市、林業関係団体と連携して、「吹上浜の白砂青松の再生に向けた森林づくり活動」に取り組んでいる。

4 年目となる今回の活動では、残暑のまだ厳しい 9 月に、過年度（令和 3 年度、4 年度及び 5 年度）に植えた抵抗性マツの植栽箇所の下刈を実施したのち、新たに隣接する荒廃地を地拵えして 11 月に新植を行った。

当活動は、令和 3 年度から稼働したプロジェクトで、5 年がかりで 5,000 本の松林を造成することとしている。次年度についても、残りの荒廃地への植樹に加え、既植栽区域の下刈等の保育作業を実施しながら継続的な活動に取り組んでいく。

2．活動の成果

県内の森林ボランティアが主体となり、国や県、市、林業関係団体等と連携して、公益面かつ産業振興面においても、重要な役割を持つ森林を植栽から保育まで守り育てる活動を継続的に実践していくことで、大きな波及効果が見込まれ、同時に森林ボランティアの活動も対外的に認知度が高まっていくことが期待される。

当日は、地元南さつま市の職員や森林組合、森林管理署や県職員のほか、次世代を担う学生ボランティア、地域の緑の少年団など、幅広い年齢層の方々に参加いただき手応えも感じている。

3．参加者の声

・昨年度、地元の子供会を連れてこのイベントに参加した。今回は、その子供会を新規の緑の少年団として組織替えし、地元の少年団として気持ち新たに参加した。子供たちは昨年も参加しているからか手慣れた感じで、段取りよく作業していた。幼少期からこうした活動に参加できることは、非常に貴重な体験となる。今後とも次世代の育成のために尽力していきたい。

・毎年この活動に参加し、夏季には下刈活動にも参加している。夏の猛暑の中での下刈作業は、なかなか酷な作業ではあるが、皆で一本一本丁寧に植えた苗が成林していけるように、体力の続く限りは頑張ってこの活動に参加して、生長を大切に見守っていきたいと思う。

実績報告とりまとめ表

実　施　時　期		9 月 12 日	11 月 29 日	11 月 30 日	計
事業量 又は 事業内容		下刈活動	準備作業	記念植樹（6 本） 植樹 1,000 本	
参加者数	県　内 県　外 計	26 人 0 人 26 人	8 人 0 人 8 人	139 人 人 139 人	173 人 人 173 人
実　施　場　所		鹿児島県南さつま市吹上浜海浜公園に隣接する国有林内			

調　査　研　究

「森のようちえんの安全管理に関する実態調査」

田中　住幸（札幌大谷大学短期大学部）

1．研究の背景

長野県や鳥取県、広島県など、自治体による自然保育の認定・認証制度が展開され、保育に自然体験や生活体験を積極的に取り入れようとする機運が高まりつつある。田中ら（2021）が長野県の自然保育認定園に勤務する保育者を対象に実施したアンケート調査によれば、多くの保育者が「散歩に出掛けている途中、橋の上から川を覗き込んだ子どもがバランスを崩して川に落ちそうになった」といった、事故には至らないもののヒヤリとした経験を有しており、屋外での保育活動に不安を抱いていることが明らかとなった。さらに、自然保育認定園での事例ではないが、2018年2月には長野県高森町において、屋外での保育中に死亡事故が発生するなど、実際に重大事故も報告されている。

こうした状況において、自然保育を積極的に実践している森のようちえんなどの取り組みは、先進事例として参考となり得る。一日の大半を森の中で過ごす森のようちえんでは、一般的な幼稚園・保育所・認定こども園と比較して、安全管理に関する高度な意識と経験が蓄積されていると考えられる。これまでに、茶谷（2018）が森のようちえんを題材に、3歳以上児の安全確保に関する具体的手法を明らかにしているが、同様の研究は依然として乏しいのが現状である。

2．研究の目的

本研究では、自然環境下での長時間保育を特徴とし、安全管理の知識と経験が蓄積されていると考えられる森のようちえんなどの自然保育の実践園を事例として取り上げ、その安全管理の実態と具体的方策を分析する。これにより、一般の幼稚園・保育所・認定こども園における自然保育の安全性向上に向けた実践的示唆を導出することを目的とする。

3．研究の方法

3．1　調査Ⅰ（観察・インタビュー調査）

先進的な森のようちえんや自然保育の実践園を対象に、安全管理の方法（安全管理マニュアルの内容、安全管理に関する研修の内容、安全管理に関するミーティングの内容、安全管理責任者の有無および選任基準、保育現場での具体的な安全管理の実施方法など）について、観察およびインタビュー調査を行った。観察では、主に保育の進め方、環境設定の方法、スタッフや地域組織との連携場面を記録した。インタビューでは、各園における安全管理（教育）の実施状況や課題について詳しく聴取した（表1）。

表1　観察・インタビュー調査対象園（団体）

NO.	調査対象園（団体）	時期	場所
1	森のようちえんはっぴー 南房総市大房岬自然の家	2025年2月	千葉県南房総市
2	おひさま保育室	2025年2月	神奈川県葉山町
3	マザーツリー自然学校	2025年2月	東京都江東区
4	フレンド森のようちえん	2025年5月	北海道釧路市
5	里山ようちえんおやまのおうち	2025年5月	長野県山ノ内町

3．2　調査Ⅱ（アンケート調査）

NPO法人全国森のようちえんネットワーク連盟に加盟する森のようちえんおよび自然保育実践園（316園[注]）を対象に、安全管理の実態に関するアンケート調査を実施した。質問項目は、回答

者の属性、園の周辺環境、屋外活動の頻度･時間帯、屋外活動中の事故の有無とその内容、ヒヤリ･ハットの共有方法、安全管理マニュアルの整備状況および記載内容、安全管理に関する研修の受講状況、地域組織との連携状況などを選択式で構成した。さらに、屋外活動の安全管理を推進する上での課題について、自由記述を求めた。

調査は 2025 年 6 月に実施し、依頼は郵送または電子メールで行い、回答は郵送またはインターネットにより回収した。なお、協力へのお礼として、拙著『自然体験活動ブックレット 3 とぎすまそう！安全への感覚～里山活動でのリスク管理～』（能條歩編著、田中住幸著、NPO 法人北海道自然体験活動サポートセンター発行）を配布した。

３．３　倫理的配慮

観察・インタビュー調査およびアンケート調査のいずれにおいても、協力が任意であることを事前に説明したうえで実施した。さらに、アンケート調査の結果については、統計的に処理を行い、個人や園（団体）が特定される形で公表しないことを事前に説明した。

４．結果

４．１　調査Ⅰ（観察・インタビュー調査）

「森のようちえんはっぴー」および「千葉自然学校」での調査では、森のようちえん創成期から活動を継続する同園における積み重ねられた安全管理（教育）の実践や、主な活動フィールドである大房岬公園を管理する千葉自然学校との高度な連携の実態を確認できた。

また、「森のようちえんはっぴー」と同様に 20 年近い活動実績を有する「おひさま保育室」および「マザーツリー自然学校」での調査では、草の根的な活動が長期的な継続とともに事業体として発展し、組織的な安全管理への取り組みが成熟していく過程を確認した。

さらに、「フレンド森のようちえん」の調査では、幼稚園 3 園を運営する学校法人が郊外に森活動専用フィールド「もりんどの森」を取得し、学園全体で恒常的に森活動を展開している事例を視察し、安全管理の方法に関する課題点や今後の展望も把握した。

加えて、「里山ようちえんおやまのおうち」の調査では、理想の保育の場を求めて里山に拠点を置いたと語る園長から、保育の視点に立った屋外活動における安全管理（教育）の取り組みや考え方について、詳細に聴取した。

４．２　調査Ⅱ（アンケート調査）

アンケート調査には 97 園（団体）から回答があり、回答率は 30.1％であった。回答園（団体）の所在地は北海道から沖縄県まで全国に広がっていた。回答者の多くは園長・代表者（72.2％）であり、園の種別としては認可外保育施設（43.3％）と自主保育（8.2％）が多くを占めていた。また､自然学校などの森のようちえんを支援する団体からの回答も 10.3％あった。実施形態としては、通年型の園（84.5％）が多数を占め、活動日数は年間 221 ～ 240 日程度が最も多く（22.1％）、次いで 241 日以上（19.8％）、201 ～ 220 日程度（11.6％）であった。

屋外活動における安全管理マニュアルについては、88.7％の園（団体）で整備されていた。未整備の園に理由を尋ねたところ､「少人数での活動のため」「災害対応マニュアルは整備されているが、怪我や事故に関するものは整備していない」といった回答が寄せられた。整備されているマニュアルの記載内容としては、「事故や怪我が発生した場合の連絡・通報手順（92.0％）」「警察・消防・医療機関などの緊急連絡先（92.0％）」といった､事後対応に必要な情報の掲載率が高かった。一方で、「事前計画（計画書への記載内容、提出先等）（35.6％）」「子どもへの安全に関する説明（50.6％）」「気象情報の確認方法（48.3％）」といった、事故や怪我を未然に防ぐための取り組みに関する記載は比較的少なかった。さらに､屋外活動の安全管理を推進する上での課題についての自由記述では、「スタッフ間で安全に対する意識に差がある」「保護者の理解が一部浸透していない」といった記述が多く、園（団体）に関わる保育者や保護者の間で、安全に対する共通認識を保つことの難しさが指摘された。

5．考察

本研究により、自然保育の実践における安全管理は、現場経験の蓄積と地域との連携によって成熟していく一方、依然として課題を抱えていることが明らかとなった。観察・インタビュー調査では、先進的な実践園において、危険箇所の把握や緊急対応の共有、外部機関との協働が安全性向上の基盤となっていた。これに対し、アンケート調査では、88.7％の園で安全管理マニュアルが整備されているものの、その多くが事故発生後の対応に重点を置き、予防的視点が十分に取り入れられていない現状が示された。また、スタッフ間や保護者との安全意識の差異が、実践の安定化を妨げる要因となっていた。

以上の結果は、自然保育の安全性向上のためには、(1) 予防的観点に基づく計画的な安全管理の強化、(2) 安全理念・基準の明文化と関係者間での共有、(3) 外部専門機関との継続的連携が不可欠であることを示している。今後は、これらの視点を踏まえた研修や仕組みづくりが、自然保育を広く普及させていく上で必要不可欠であるといえる。

注）2025 年 6 月現在、同連盟のホームページに加盟団体として園（団体）名が公開されている園（団体）を対象とした。ただし、連絡先が不明な園や既に閉園している園は対象外とした。

引用文献

田中住幸・中本貴規・松永幸代・宮下幸子・能條　歩（2021）「屋外での保育における保育者の危険予知，回避・コントロール，対策能力向上に向けた教材開発」,『飯田女子短期大学紀要』, 38, 157 － 172.

茶谷智之(2019)「自然保育における「安全配慮」:子どもの即興的な遊びを支える保育者の専門性」,『自然保育学研究』, 2（1）, 13-23.

カエデの樹液の調査

ギャニオン　マーク

1．概要

原料と採取

- 樹種：主にイタヤカエデ（時にヤマモミジも）
- 採取時期：毎年 2 月～ 3 月の約 4 週間
- 採取方法：樹に穴を開け、チューブやバケツで樹液を収集
- 必要量：1L のシロップを作るには約 60L の樹液が必要

製造工程

- 樹液を薪で煮詰めて濃縮（スモーキーな風味が特徴）
- 糖度は 1 ～ 1.5 度と低く、煮詰めに時間がかかる
- 最終的に得られるシロップは樹液の約 1/60

地域との関わり

- 製造拠点は札幌近郊の当別町
- 森林保全活動と連携し、地域振興や雇用創出にも貢献
- アイヌ文化ではイタヤカエデを「トペニ（乳汁の木）」と呼び、樹液を食していた歴史も

味と用途

- 当別町産はバニラのような風味があり、昨年は完売
- 醤油と合わせて照り焼きソースにしたり、鮭料理にも活用可能

2．活動の成果

本稿では、北海道産メープル樹液の概要と地域的意義について紹介する。主にイタヤカエデから採取される樹液は、毎年 2 月から 3 月にかけて約 4 週間の期間に収集され、約 60L の樹液から 1L のシロップが得られる。製造は薪による煮詰め工程を経て行われ、糖度が低いため時間を要するが、スモーキーで独特な風味が特徴である。製造拠点である当別町では、森林保全活動と連携しながら地域振興や雇用創出にも寄与しており、アイヌ文化においても「トペニ（乳汁の木）」として親しまれてきた歴史がある。当別町産のシロップはバニラのような風味を持ち、照り焼きソースや鮭料理など多様な用途に活用されている。北海道メープル樹液は、地域資源としての価値と文化的背景を併せ持つ希少な食品である。

調　査　報　告　書

報告書作成日：2024 年 12 月 01 日

所　属　・　部　署	氏　　名	調　査　実　施　期　間
	ギャニオン　マーク	2024 年　08 月 29 日～ 09 月 19 日
調　査　内　容		調　査　趣　旨
北海道メープル樹液の高圧殺菌済　検査菌検査		水分、タンパク質、脂質、灰分、炭水化物、糖質、食物繊維、エネルギー、ナトリウム、食塩相当量、カルシウム、マグネシウム、pH、一般細菌数、大腸菌群、カビ数

調査対象・方法	調査対象：北海道メープルの樹液 調査方法：下記参照
調査結果の概要	栄養成分の特徴 水分含有量が高く（95.6%）、非常にクリアな液体である。 炭水化物（主に糖質）は 4.2g/100g と低めで、カロリーは 17kcal と控えめ。 カルシウム（24.3mg）やマグネシウム（3.3mg）などのミネラルも含有。 pH は 7.2 で、ほぼ中性。 微生物検査結果 一般細菌数は 30 以下 /ml と非常に低く、安全性が高い。 大腸菌群およびカビは検出されず、衛生的に良好な状態が確認された。 高圧殺菌処理により、衛生面での安全性が確保されており、栄養面では低カロリーかつミネラルを含む清涼な樹液であることが示された。

調査結果の詳細

栄養成分分析結果（100g あたり）

項目	**結果**	**方法**
水分	95.6g	減圧加熱乾燥法
たんぱく質	0.1g 未満	燃焼法
脂質	0.1g 未満	ソックスレー抽出法
灰分	0.2g	直接灰化法
炭水化物	4.2g	計算式による
糖質	4.2g	計算式による
食物繊維	0.1g 未満	酵素 - 重量法
エネルギー	17kcal	計算式による
ナトリウム	2.0mg	原子吸光光度法
食塩相当量	0.0051g	ナトリウム × 2.54
カルシウム	24.3mg	ICP 発光分析法
マグネシウム	3.3mg	ICP 発光分析法
pH	7.2	ガラス電極法

微生物検査結果

項目	**結果**	**方法**
一般細菌数（生菌数）	30 以下 /ml	標準寒天平板培養法
大腸菌群	陰性 /22.2ml	LB 培地接種法
カビ数	陰性 /1ml	ポテトデキストロース寒天平板培養法

所　　感	今回の分析結果から、北海道メープル樹液は非常に高い安全性と品質を備えた天然素材であることが確認された。高圧殺菌処理によって微生物リスクがほぼ排除されており、食品としての衛生基準を十分に満たしている。栄養成分においては、低カロリー・低糖質でありながら、カルシウムやマグネシウムなどのミネラルを含有している点が注目される。これは、健康志向の消費者にとって魅力的な特徴であり、特にナチュラル志向の飲料や機能性食品への応用が期待される。pH が中性であることから、他の素材とのブレンドや加工にも適しており、製品開発の幅が広がる可能性がある。北海道という地域性と自然環境を活かしたブランド価値も高く、今後の市場展開において強みとなるだろう。北海道メープル樹液は「安全・自然・機能性」を兼ね備えた素材として、今後の食品業界においてさらなる活用が期待される。

「沼田産イタヤカエデ樹液の商品化を通した観光振興に関する研究開発」

長野時敏

1．研究の目的

本研究の目的は、地域の山林に賦存するイタヤカエデの樹液をメープルシロップとして商品化し、メープルシロップ作りのプロセスを観光資源化するための方法を検討することである。

2．研究の内容

高価な機械を導入することなく、簡易な材料を使ってイタヤカエデ樹液を商品化する方法を検討するとともに、樹液採取からシロップづくりまでのプロセスを観光資源化するためのモニター調査を行った。

2-1. 樹液加工のためのロケットストーブ開発

ドラム缶、レンガ、パーライト、粘土（地元で採取）など安価で手に入りやすい材料でロケットストーブを作成した。材料の総額は約９万円で、作成は２人日かかった。

ロケットストーブを用いた樹液の煮詰め作業は約１か月のあいだ継続し、その間にロケットストーブの改良を重ねてより早く煮詰められるようにした。初期には最大でも 10 リットル／時ほどしか煮詰めることができなかったが、後半には 25 リットル／時まで上がった。燃焼経路の断面積が狭くなっていたところを修正したこと、煙突に抜いていた排気を鍋の横から抜くことで鍋の上部まで熱気で包まれるようにしたことが主な改良点である。その他にも燃焼室内での薪の置き方、サイズ調整など細かい改良を重ねた。

2-2. 観光資源化のためのモニターイベント開催

R7 年３月８日に樹液採取をおこなっている森林で子供向けイベント「メープル樹液とスノーサーフィンの祭り」をおこなった。２５名の参加者があり、最も多くの樹液がたまっている採取ボトルをもってきたグループを勝ちとするゲームをしたり、樹液を生のままと、薪ストーブで４分の１まで煮詰めたものを試飲してもらったりした。最後に 40 分の１程度まで煮詰めたメープルシロップも試食してもらい樹液加工のプロセスを体感してもらった。

樹液を煮詰めているあいだに、町産材でつくったスノーサーフィン（立ちのりゾリ）を貸し出して堅雪のうえをすべって遊んでもらった。スノーサーフィンに飽きた子供は、木登りしたり雪遊びしたりさまざまに遊んですごした。2 時間程度のイベントであったが、樹液加工を通して冬の森林体験を提供することができた。

3. まとめと今後の課題

3-1. ロケットストーブについて

他の地域では、イタヤカエデ樹液を加工するのに市販の薪ストーブを使っている団体もあるが、市販の薪ストーブで樹液を煮詰めると５リットル／時程度であるので、今回の最大 25 リットル／時は安価な自作のストーブとしては効率が良いことがわかった。しかしながらロケットストーブ全体が温まって最大火力が出るまでに４時間程度を要するため１日に煮詰められる樹液は 100 リットル程度が限界であった。私たちがイタヤカエデから集める樹液は合計 100 リットルを超える日も少なくなかったため、ほぼ毎日のように煮詰め作業に追われることになった。

樹液は気温が低い時期は何日か保存が可能なので、煮詰める能力があがれば煮つめ作業を数日間休むことができる。煮詰める能力をあげるために今後は、①ストーブの燃焼室と燃焼経路を大きくすること、②煮詰め鍋の面積をもっと大きくとれるような形状にすること、③断熱性能をあげること、の３点に取り組む必要がある。

3-2. 観光資源化について

イベントにおける参加申し込み状況や参加者の当日の様子からイタヤカエデ樹液の加工プロセスを観光資源化できる可能性が十分にあると考えた。樹液を煮詰めるのに時間がかかるので、今回はスノーサーフィンと組み合わせたが、色々な雪あそび、森あそびを組み合わせることで体験の幅がひろがるだろう。この地域では、冬は大人も子供も外で遊ばず、スキー場くらいにしか出かけないので、冬の森のイベントは野外で子供たちが遊ぶ機会づくりとしてとても重要であると感じた。また、子供たちが森らしい森で自然に触れる機会もほとんどない。今後は環境教育という視点でイタヤカエデ樹液の観光資源化を進めていきたいと考えている。

自然保育における森林・自然等の活用の理論・方法論に関する調査研究

菊池稔（名寄市立大学）

1．調査の概要

本事業は、自然保育実践園の自然や地域資源を活用に至った背景や活用方法、自然環境・地域資源の維持管理に関する調査を行い、自然保育における自然環境の利活用と整備の実態を明らかにし、自然環境の利活用の理論モデルを生成し提示することを目的として、文献調査、長野県信州型自然保育認定園でのアンケート調査、先進事例地（12 園）のフィールドワーク調査を実施した。ここでは、調査結果の一部を報告する。

2．調査結果

(1) 長野県信州型自然保育認定園アンケート調査

本調査は、2025 年 2 月から 3 月にかけて①現在の園の状況②園庭や園周辺の自然環境等の「保育環境」の状況③質の向上に向けた研修の実施状況④認定制度についての 4 項目についてアンケートを実施した。回収率 88％であった。

本事業に関わる内容に厳選して報告する。はじめに自然保育実践園での保育環境の状況についてである。園庭の構成について信州型自然保育認定の 2 区分（普及型、特化型）に分類し、さらに普及型認定を受けてから①1 ～ 5 年目⑥6 年目～ 10 年目）にわけてクロス集計を行った。その結果園庭の構成要素は、全体的に認定の分類によっての差異は少ない傾向にあったが「特化型」では「焚き火場・かまど」が約 9 割、「樹林・森林・里山」も約 7 割、「小川・池」は約 4 割の認定園にあり、森林・里山環境に園が立地している傾向が見られた。

次に活用している園周辺の自然環境についてである。自然環境フィールドを所有・仮受しているか、それ以外で利用しているフィールドの 2 問を質問した。特化認定園と普及型認定園での差異としては、特化型認定園では「森林や里山」「畑・田んぼ・果樹園」を所有・仮受している傾向が高かった。一方で普及型認定園では地理的・立地的制約も考えられ自然環境を所有・仮受するのではなく地域にある「遊歩道・歩道」「緑地・草地」を利用する傾向が見られた。所有・仮受している「森林や里山」の整備に関与する主体では、特化型認定園では、「保育者・職員」「保護者」「園児」「卒園児保護者」「森林・林業等の専門家」など多様な主体が整備に関わっていたが、普及型認定園では「地域住民」「自治体・関係団体職員」と特化型認定園よりも関わる主体がすくないという傾向がみられた。

最後に園庭や地域の自然環境の整備数が子どもの発達に影響を与えるか統計ソフト R を使用し、統計分析を行った。分析を行ったのは①園庭の充実度②自然環境の利用数の 2 点である。①の園庭の充実度に関しては、回答数の中央値である 10 以上と 10 以下の 2 郡間に分けて分析を行った。ここでの子どもの発達に関する内容は幼児期の終わりに育って欲しい 10 の姿を採用した。その結果園庭の構成要素数が多い園（10 以上群、n=173）は、少ない園（10 未満群、n=101）に比べて、「健康な心と身体」や「自立心」において有意に高い平均値を示し、さらに発達 10 項目合計スコアでも優位性が確認された（$p<0.05$）。次に②の自然環境の利用数について見ていく。ここでは自然環境の利用数を 4 以上・4 以下の 2 郡間に分けて①と同様に分析を行った。同様に、園周辺の自然環境を多様に活用している園（4 以上群、n=166）は、活用の少ない園（4 未満群、n=108）に比べて、「健康な心と体」「社会生活との関わり」「自然との関わり･生命尊重」の各項目で有意に高値を示し、総得点においても優位差がみられた（$p<0.05$）。

これらの結果から、自然環境や園庭環境の多様性を高めることが、子どもの身体的健康、自己形成、社会性、自然への態度といった発達を促進する可能性があることが明らかとなった。

(2) フィールドワーク調査

2024 年 8 月から 2025 年 6 月末にかけて、アンケート調査及び HP 調査の結果をふまえて自然環

境等（里山、森林、川等）を利活用している自然保育実践園を 12 園ピックアップし、自然保育を始めたきっかけやフィールドの利活用状況と整備の方法について園の関係者、整備に関わる当事者にヒアリングを行った。

フィールドワーク調査を行った結果、自然環境等の整備に関しては、「保育者・職員」「自治体」「地域住民（有志組織を含む）」「大学」「林業･環境教育等の専門家」「社会奉仕活動団体」「保護者」「卒園児・保護者」など多様な主体が関与しており、自然環境の整備には①園主導型整備②地域主導型整備③地域協同型整備④地域再生型整備⑤その他の５つの類型に大別することができると考えられた。

この５類型において②地域主導型整備③地域再生型整備の２つに該当する園の場合、今回の調査では、整備に関して園が主体的に関わっておらず、地域住民や整備組織に依存していた。関係団体のヒアリングからも関わる人材の高齢化や担い手が不足してきており、活動の持続不可能性の問題ができた。このことからも今後自然保育を持続可能に展開していくには、地域の自然環境に関して外発的に整備を任せるのではなく、地域住民等様々な主体と協同なって環境を整備していくことが求められるだろう。

3. 得られた知見と課題

本事業を通して、園庭環境及び利活用する地域環境が充実している程子どもの発達に優位な影響を与えることそしてその環境を整備するには地域住民や保護者等多様な主体が関わっていたことが明確となった。今後は今回提起した５つの利活用理論モデルを援用しながら多くの園の情報を整理し、自然保育における保育環境論としての理論化を進めていくことが重要であり、次回の課題としたい。

能登半島地震により崩壊した社会インフラストラクチャーの代替としての森林生態系サービスの評価 - 能登半島の中山間地域を対象として -

早稲田大学人間科学部
〒359-1192　埼玉県所沢市三ヶ島 2-579-15

1．活動の概要

石川県能登町当目地区は、令和６年の能登半島地震で水道や電力等が崩壊した。そうした中、生活基盤を支えた森林生態系サービスが、地震後の避難生活等においてどのように活用されたか、及びそれによる地域生活のレジリエンス維持への貢献度を評価した。その結果、とくに湧き水は生活基盤として広く活用され、水道が復旧するまでに数か月間において大きく貢献したことが分かった。

2．活動の成果

石川県能登町当目地区は、コナラ二次林からの『マキ生産』を継続し、かつ生活用水としての『湧き水』を維持・活用することや、『山菜やキノコ類といった食料（保存食）の収集』を生活基盤としてきた。こうした生態系サービスを生業及び日常生活に活用してきた中山間地域の生活スタイルは、水道等の生活インフラストラクチャーが復旧するまで地域における生活レジリエンスの維持に大いに役立ったことが分かった。他方、地域住民間の連帯は、地域における社会関係資本として機能し、高齢者等を支え、かつ体調変化等を相互にチェックし合う等が確認された。以上より、地震といった自然災害への備えにあたっては、中山間地域が有し、かつ維持・継承してきた生活の知恵として生態系サービスの利活用、加えてそれらを生業としている地域生活が大いに役立ったことが分かり、社会インフラストラクチャーもしくは地域財としての価値を再評価する必要があることが示唆された。

3．参加者の声

地域住民を対象にしたアンケート調査（半構造式の調査票を用いた対面調査）、水田等の復旧作業、地域の文化財の移転等を通して、多くの地域住民、地区外からのボランティア、民間企業からの支援（とくにイオングループ）と連携することができた。こうした活動は、過疎化が進む中山間地域における交流人口との繋がりが機能するかに大きな示唆を与えた。また、評価した生活レジリエンス及びアンケート調査から得られた地震後の知見・供給からは、今後への備えについて取りまとめるに至った。

実績報告とりまとめ表

実　施　時　期		2024 年 8 月 8-10 日	2025 年 6 月 26-28 日	計
事業量 又は 事業内容		里山資料館の展示物移転・水田復旧作業・地域住民へのアンケート調査等	水田復旧作業・地震と豪雨による森林生態系への影響踏査	
参加者数	県　内 県　外 計	10 人 9 人 19 人	25 人 14 人 39 人	35 人 23 人 58 人
実　施　場　所		石川県能登町大字当目		

学校教育における森林空間を活用した
教育プログラムの実施のためのアクティビティ集の作成

一般社団法人全国森林レクリエーション協会
〒112-0004　東京都文京区後楽1-7-12　林友ビル

1．事業の目的

学校教育での森林空間を活用した教育プログラムの実行に役立つ情報提供のため、新学習指導要領に対応した森林ESDのアクティビティ集を作成し、関係者に提供する。

2．事業の概要

（1）検討員会においてアクティビティ集の構成を検討した。
（2）小学校の学習指導要領と森林環境教育の関係を整理した。
（3）学年、教科別に、単元ごとに指導計画・指導案を作成した。
（4）新学習指導要領に対応した森林ESDのアクティビティ集「先生のための指導計画・指導案　学校で使える森林環境教育アクティビティ集」を作成し関係者に配布した。

3．アクティビティ集「先生のための指導計画･指導案　学校で使える森林環境教育アクティビティ集」の作成

本書は、小学校で授業として行える森林環境教育を教師の目線から構成した。

まず、現行の小学校カリキュラムと森林環境教育との関係を整理した。そして、森林環境教育を学校で行う場合を想定し、具体的なアクティビティを示した。

各アクティビティを授業で行うには単独の活動ではなく、指導計画が構築され、その中の1コマとして授業が行われる。それら一連の流れを組み込み、指導観や教材観なども示している。さらに評価の例、授業の展開などを含めた指導案の形式でアクティビティを示した構成にしている。形式として小学校の教育現場を意識しているが、幼児教育などにもアレンジが可能かと考えている。

アクティビティ集の内容は次のとおりである。

① 森林環境教育とは

森林環境教育とは、森林の多面的機能を使った環境教育である。以前は教育の場であらかじめ決められていることを児童が率先して行う「自主性」が重んじられていたが、現在は、児童が自分の発想から行動していく「主体性」が重んじられている。この教育の変化が森林環境教育の大切さに繋がっている。森での自然との出会いが関心から気付きへ繋がり、その気づきを深めることから観察、実験に発展していき科学的な視野を持つ児童に成長していくと考えられる。

② 幼児からの学びの連続性

幼児教育から小学校教育への連続性の中で、子どもは自然を「感じる」体験から「気付き」へと進み、やがて「観察・実験」に発展する。森のようちえんなどの活動を通じて、興味や驚きを伴う体験を重ねることで主体的な気付きが深まり、生活科や理科で求められる質の高い観察力や探究心の育成につながる。

③ 小学校カリキュラムと森林環境教育

日本の森林は国土の約3分の2を占め、暮らしや文化、環境保全に深く関わってきた。森林環境教育は、自然との共生や地球規模の課題理解に効果的であり、「総合的な学習の時間」や「特別活動」だけでなく、社会･生活科･理科など多教科にわたり教材として活用され、教科横断的な資質･能力の育成にも有効である。

④ 実践プログラム

これらの各プログラムを、小学校の授業で行われる学習指導案の形式の単元とし、教材観、児童観、指導観を作成し、目標と評価基準を示している。また、本時の展開として、アクティビティの具体的な進め方がまとめられている。

○１・２年生　生活科：　秋を楽しもう！

本時の展開：フィールドビンゴを利用して秋の自然を観察する。

○３年生　理科：　こん虫の観察をしよう！

本時の展開：渓流で水生昆虫の観察、採集をする。

○４年生　社会科：　森は緑のダム

本時の展開：水源の森を観察して、湧き出た１てきの水が集まり川になり、その水が私たちの生活を支える飲料水になることを知ること、森の保水機能を知る体験をすること、水が地球環境で循環していること、森が緑のダムになっていることを知る。

○５年生　社会科：　私たちのくらしと森林

本時の展開：森林の多面的機能の１つである、木材生産の場である人工林の手入れについて、間伐体験から学ぶ。間伐をすることで人工林に光が多く入ることを理解できる。

○６年生　理科：自然とともにくらす

本時の展開：樹木が空気中の二酸化炭素を吸収し幹に蓄えていることを理解し、樹木の幹回りや樹高を計測した後、ワークシートを利用して、吸収した二酸化炭素の量を計算する。

⑤ 安全

○気象を知る

集中豪雨・熱中症・低体温症

○危険な動物を知る

クマ対策・ハチ対策・マダニ対策・その他キタキツネのエキノコックス、セアカコケグモ

○危険な植物を知る

ウルシ・イラクサ・キョウチクトウ・その他トリカブト、ヒョウタンボク、カエンタケ

マングローブ植物の特性に関する調査

上智大学
〒102-8554　東京都千代田区紀尾井町 7-1

1．活動の概要

マングローブ林の生育条件については、いまだ解明されていない点が多く残されている。本研究では、マングローブ林の一種であるメヒルギ植林地における土壌の物理と化学特性を調べ、植林地の適地性を明らかにすることを目的とする。

奄美大島宇検村の枝手島では、マングローブの植林事業が進められているが、同地はもともとマングローブの自然生育地ではない。そのため、本研究ではこの場所におけるマングローブ植林の適地性を科学的に検証する必要があると考えた。

本調査では、植林地の適正性を、土壌の物理・化学的性質、周辺の植生群集、生物多様性、さらには周辺海域の水質といった多角的な視点から評価している。具体的には、植林地において季節ごとに土壌硬度、温度、pH、電気伝導度（EC）、含水率、粒径分布、栄養塩、全有機炭素（TOC）を測定した。また、植栽されたマングローブ稚樹の樹高と直径の変化も継続的に記録している。さらに、周辺の植生種の調査を行い、eDNA（環境 DNA）技術を用いて植林地の生物多様性についても分析を行った。比較のため、沖縄の漫湖におけるマングローブ植林事業の効果に関する調査も併せて実施した。

この取り組みは地域環境再生にも役立つと考えられる。

2．活動の成果

マングローブ植林地の基礎情報を収集した。具体的には、土壌の硬度、粒度分布、pH、EC、栄養塩、この場所で生息している生物などのデータが得られた。また、学術的にメヒルギとオヒルギ葉の蒸発散の違いの解明を試みした。

以上の情報を用いて、今後の発展に助言することができた。

3．参加者の声

マングローブ植林地の初期段階状況調査が出来、今後の追跡調査のベース情報が得られたこと、とても嬉しく思います。

実績報告とりまとめ表

実　施　時　期		2024 年 11 月 28 － 30 日	2025 年 3 月 17 － 20 日	20205 年 6 月 7 － 10 日	計
事業量 又は 事業内容		現地調査	現地調査	現地調査	
参加者数	県　内 県　外 計	人 5 人 人	人 4 人 人	人 4 人 人	人 13 人 人
実　施　場　所		県　　市・町			

森林サービス産業が地域社会に及ぼす経済・社会的影響の把握と発展可能性に関する調査研究

東京大学大学院農学生命科学研究科　柴崎茂光

1. 研究の目的

森林サービス産業への関心が高まっており、各地で森林セラピー®、エコツーリズムなど多様な事業が展開されている。ただし、森林サービス産業に類似した概念は、数十年前から提唱され、実践されてきたが、これらの事業についての、中・長期的な評価は十分行われていない。そこで本研究では、森林サービス産業やそれに類似した概念に基づく事業が、地域社会に及ぼす経済・社会的影響を把握した上で、中・長期的な発展の可能性・課題を考察する。まず、森林サービス産業の先駆けともいえる森林総合利用施設の状況を把握した。次に、事例調査として、屋久島では観光業の盛衰段階や長期滞在型観光（本報告では5泊以上と定義）の実態を、尾鷲地方では古道の再生や利用・管理の現状を、砺波地方では屋敷林保全の取組や観光資源化の現状を、それぞれ明らかにした。

2. 森林総合利用施設に関連する関連事業の展開

林業構造改善事業などの林野庁の補助金事業を活用して、1970年代以降、森林総合利用施設が建設された。ガイドブックに掲載されている全国382カ所の施設を対象として、1988年当時の整備状況、2024年時点における存続状況や設備の変化を、インターネットの情報も活用して把握した。1988年時点での主要な設備として、キャンプ場が最も多く、バンガロー、フィールドアスレチック、レストラン、テニス場が続いた。また、現在まで存続する施設は約7割で、先進地として紹介されていた施設ほど、存続する割合も高かった。一方で、平成期に合併した市町村の施設ほど、廃止した割合が高かった。2024年時点においても、キャンプ場、林間広場、バンガロー、コテージ、レストランなどは多くの施設で整備されている一方で、フィールドアスレチック、テニスコートは減少していた。市町村が関与する形態での管理が続く一方で、PFIなど民間資金等の活用は進んでいなかった。

3. 事例調査

(1) 屋久島（鹿児島県屋久島町）　高速船の就航や世界遺産登録により、1990年頃に20万人弱だった年間入込数は、2000年代後半に約40万人まで急増し、縄文杉などの過剰利用問題が発生した。2010年代に入ると漸減傾向となり、過剰利用も沈静化した。宿泊施設数についても、入込数の増減に同期する形で変動していた。2024年に宿泊施設へのアンケート調査（134軒回収）や聞き取り調査を実施した。その結果、宿泊施設は民宿が76軒と最も多く、1棟貸し、ホテル、ゲストハウス（GH）と続いた。また、2010年以降、1棟貸しやGHの新設が確認された。宿泊数は2泊が最も多く、GHをのぞいて5泊以上は約1割に過ぎなかった。長期滞在者について、民宿では1人客が、1棟貸しでは海外客が、GHでは海外客と1人客が、高級ホテルでは海外客富裕層が多かった。長期滞在者は、縄文杉への訪問に固執していない状況が明らかになった。経営者は、長期滞在者の受入に前向きだが、長期滞在者向けの自炊施設は1棟貸しやGHに限り、充実していた。

(2) 尾鷲地方（三重県尾鷲市）　巡礼道、生活道、塩の道、杣道などの山道が存在していたが、車道整備や紀勢本線全通などの近代化が進む中で、その大半は廃道状態となる。一方、1990年代後半から、登山道やトレイルとして、一部の山道の整備・再生が始まった。世界遺産の構成資産を含む熊野古道伊勢路は、市教育委員会が管理主体となり、保全団体やパトロール員などが整備・維持管理に携わっていた。ただし、市教育委員会と保全団体は整備状況の情報共有が不足していた。その一方で、吉野熊野国立公園内の九木崎遊歩道は、管理主体が不在の状態が続いたが、2020年

頃から整備団体によるボランティア整備が始まった。ただし、同年末に、遊歩道終点のオハイがテレビで紹介されると利用者が急増し、滑落や遭難の事故の多発、駐車場不足などの問題が生じた。この問題解決のために、市商工観光課が主催する形で、関係主体が一堂に会する会議が 2024 年に開始された。尾鷲地方において、広域にわたる管理主体間の連携は不足していた。

(3) 砺波地方（富山県砺波市） 砺波平野ではカイニョと呼ばれる屋敷林が維持されてきたが、生活の近代化や過疎高齢化による担い手不足により消失が進む。こうした状況に対して、1998 年度より開始した田園空間整備事業の一環として、屋敷林保全の助成事業や来訪者の受入れ施設の建設が本格化した。具体的には、2006 年にビジターセンター（コアミュージアム）として、となみ散居村ミュージアムが完成した。ソフト事業として、2002 年度から散居景観保全事業による屋敷林の高木剪定補助事業が、2014 年度からは中低木剪定の補助事業が開始された。2020 年代に入ると、地域連携 DMO の収益事業を担う株式会社「水と匠」が、散居村ウォークツアーや、宿泊施設の運営などの収益的観光事業を開始した。同社では、宿泊料の 2% を屋敷林保全活動に寄付している。こうした様々な取り組みにもかかわらず、屋敷林の消失は、現在も減少の一途をたどっている。

4. 考察

森林サービス産業の前身である森林総合利用施設は、長期間にわたり農山村社会に雇用機会を創出してきた。ただし、約 3 割の施設が廃止し、現存施設における民間資金の活用も進んでおらず、農山村地域における観光開発の経営上のリスクが確認できた。

尾鷲地方のオハイでは、メディア報道により、来訪者が急増し過剰利用問題が発生していた。ただし同地点への関心が一過性である場合には、森林総合利用施設（フィールドアスレチックなど）や屋久島（縄文杉）の事例と同様に、ある時点をピークに来訪者は減少を続ける可能性が高い。中長期的な視点に立った、慎重な開発計画・事業の実施が求められる。また観光ブームとは一線を画した長期滞在型観光は、地域の多様な価値の再発見につながる。屋久島の場合には、縄文杉などの山岳地域への利用集中を、結果的に回避する可能性も有していた。

総じていえば、農山村社会の過疎高齢化が進行する中で、地域資源の過少利用問題が顕在化していた。尾鷲地方や砺波地方では、山道再生や屋敷林をめぐるツアーの開発などの観光資源化が図られていたが、管理の担い不足や、主体間の連携不足の状況が発生していた。

民間ベースだけでは成立しにくい農山村社会における森林サービス産業を維持するためには、市町村など公的機関による能動的な管理・運営体制の構築が求められる。

参考文献

全国林業構造改善協会編（1988）Do! 森林レク：さわやかリフレッシュ 全国森林レクガイド－. 全国林業構造改善協会，276pp

「森林系「自然共生サイト」の類型化とサイトにおける人工林管理の実態把握」 要旨

（一財）林業経済研究所

本調査は、日本の生物多様性国家戦略において、2030 年に向けての目標とされる「ネイチャーポジティブの実現」のための基本戦略 1「生態系の健全性の回復」の主要施策である「30by30」（OECM（other effective conservation measures）の拡大施策）実現のために新たに作られた「自然共生サイト」制度を対象とする。本調査では、認定自然共生サイトのうち、主に森林によって構成されるサイトを対象に、2024 年度認定分について精査し、23 年度認定分と併せて類型化を行い、そのうち典型と思われる事例について、聞き取り調査を行い、全体として自然共生サイトにおける人工林管理の実態を明らかにすることを目標とする。

目次を示せば、I. ネイチャーポジティブ関連の日本における施策の動向、II. 地域生物多様性増進法下の自然共生サイト制度、III. 林野庁での森林における生物多様性保全施策の進展、IV. 林野庁での森林における生物多様性保全の検討、V. 森林系自然共生サイトの 2024 年度認定分の状況、VI. 森林系自然共生サイトの類型化、VII. 森林系自然共生サイトにおける人工林管理の実態、VI. まとめ、となっている。

このうち、I. から IV. までは、既存の施策等の整理となるが、研究代表者が、この間、日本における OECM 制度のあり方、そして具体的な自然共生サイト制度、さらにその制度の法制度化、また法制度化を受けた林野庁の方針（「指針」の検討等）についての、環境省、林野庁の関係の検討会、小委員会等に委員として参画してきた経験をもとに、概括的な整理を行った。同趣旨の報告は、昨年度の報告書においても行っているが、この 1 年間の進展は大きく、特に 3 省共管による法定の自然共生サイト制度の成立は、制度の性格を大きく変えたと言え、また法定化の動きと併走した林野庁における民有林を中心とした森林における生物多様性関連施策の充実は特筆に値する。そこでの制度の進展の特徴の一つは、人工林をどうこの制度に取り込んでいくかであり、特にこの点について焦点を当てて整理している。

次に、V. および VI. については、環境省の公表情報（2023 年度認定サイト）を利用した集計（V.）および同様の昨年度報告書の結果（2024 年度認定サイト）も併せた 2 年間の計 328 サイトの情報を整理し、自然共生サイト全体の中における森林系自然共生サイトの位置づけ及び森林系自然共生サイトの類型化を、人工林の有無・規模及び取扱い方を主な視点として行っている。残念ながら、同様の調査研究は、基礎的な把握として重要であるにもかかわらずほとんど見当たらないため、引き続き当調査で担当する必要があると考えている。

まず自然共生サイト全体の集計だが、2022 年度の試行段階、本格運用の 1 年目である 2023 年度についても指摘されたような都市偏重、工場敷地偏重の傾向は解消されていないと言える。また、2024 年度認定分について、面積規模が 30ha 以上の陸域のサイトについてみると、29 サイトのうち、26 サイトが森林をサイト内に含んでおり、人工林が存在すると思われるサイトは 21 だった。2024 年度の総認定サイト数は 144 なので、全体に占める割合は約 15% となる。人工林の施業内容としては、環境省資料でみる限りは、主伐・再造林を伴う施業を実施しているサイトはほぼなく、従って、主伐・再造林に当たって特に生物多様性を高めるような工夫をしている例もなかった。

以上のような実態をもとに、森林を含む自然共生サイト（森林系自然共生サイト）について、森林の取り扱い方をメルクマールとして類型化を行った。

1）森林は、奥山の天然林、または里山の二次林が大部分を占め、基本的に施業等は行わず、そのまま保全する。断片的に人工林が存在する場合も、基本的に手は加えず放置する。
2）一部あるいは大部分の人工林については、強度間伐により広葉樹の進入を促し、針広混交林に誘導する。
3）一部あるいは大部分の人工林については、皆伐は行わず、間伐を繰り返して、広葉樹の下層植生が豊かな長伐期施業を行う人工林として維持する。

４）一部あるいは大部分の人工林については、通常の人工林として扱い、森林経営計画に基づいて、適切な間伐、主伐・再造林を実施し、木材生産を主目的とした人工林として維持する。特に生物多様性を高めるための施業上の工夫等は行わない。
５）一部あるいは大部分の人工林については、通常の人工林と同様に森林経営計画に基づいて、適切な間伐、主伐・再造林を実施するが、一方で、林分の状況に合わせて、混交した広葉樹について保残伐施業を行うなど、木材生産を主目的としながらも、生物多様性を高めるための施業上の工夫等を積極的に実施する。

以上の類型のうち、５）は実際には存在しなかったものであり、人工林の取り扱い方のいわば理想型として類型化した。

VII.「森林系自然共生サイトにおける人工林管理の実態」では、類型４）の典型例として、愛媛県有林を取り上げ、担当部局への聞き取り調査により、その実態を詳述した。自然共生サイトには2023年度後期に認定されており、面積は1,163.69ha、県内全域にわたる18区域に分かれている。県営林として一体的に経営されている分収林部分は含まず、県が所有し県が直営で管理する県有林のみで構成されている。ほとんどがスギ、ヒノキを主とした人工林であり、一部にマツ、広葉樹等の天然林を含む。詳しい内容は報告書に譲るとして、結論のみを述べれば、当サイトでは、県営林経営計画に基づいて、一般的な人工林の施業方法を踏襲した施業が行われており、林地の取り扱い方、広葉樹等の取り扱い方等において、特別の配慮はされていない。また、県職員等による巡視においても、例えば森林認証林で一般的なような、生物多様性に関連したチェックリストの提出あるいは希少種等を発見した際の記録・報告が義務付けられていることも特にない。実は、そのような巡視の実施により、自然共生サイトに要求されているモニタリングをクリアすることが計画されていたが、認定審査の過程で懸念が示され、認定された案では別の方法が採用された。それは、自然環境課の予算による５年に一度の専門家によるモニタリング調査の実施である。自然環境課では以前から生物多様性関係の調査を予算により実施しており、県内の専門家との関係も構築されていた。この予算ないし調査実施の仕組みを活用してモニタリングの課題を克服したのである。縦割りの強い県行政の中では、通常は困難の多い、こうした部局間の連携が可能になった要因については報告書で詳しく述べるが、県総合計画（2022年）におけるKGIで、2026年までに「県土における自然環境エリア（自然公園、鳥獣保護区、里地里山等）の割合」を10%から20%に倍増させるという、実現に相当の困難が伴う目標が立てられ、現場の部局にはかなり大きなプレッシャーがかかっていたこと、および林務系の技術職員が、森林関係の担当課と自然環境関係の担当課を異動で行き来しており、結果として、特に県営林関係の担当と自然共生サイトの担当の意思疎通および情報の共有が非常にスムーズだったことが大きいように思われる。

最後に、以上のような分析を踏まえて、「まとめ」としているが、2024年度認定分までの検討では、人工林での施業のあり方に踏み込んだ事例は皆無と言える。本報告書II、III、IVでも言及する、新たな地域生物多様性増進法下での自然共生サイト「回復タイプ」の認定（2025年度前期公表は９月予定）でどのような事例が認定されるかを見極める必要がある。

（文責：所長 土屋俊幸）

高齢化の進む山村地域の有用植物に関する
新たな活用・普及方法及び森林空間利用の調査研究

特定非営利活動法人日本森林保健学会
〒156-8502　東京都世田谷区桜丘 1-1-1
東京農業大学造林学研究室内

1．活動の概要

【1．調査研究の目的】

本事業では、現在わが国の各地でみられる高齢化の進んだ山村地域において、山林、里山の有用植物を主な対象として、その新たな活用方法と普及方法について検討することを目的とした。

【2．調査研究の方法】

本事業でこころみた調査研究の方法は、下記の３点である。

① 山村地域における森林空間環境の把握（林分調査および植生調査など）
林分調査では、標本抽出法を用いて、地域の森林内に調査区を設定し、毎木調査（樹高、胸高直径の測定）、林分密度の算出、樹冠投影図の作成、相対照度の測定などをおこない、林床における植生調査を実施した。

② 山村地域における植物資源の現状と有益な活用方法の調査、研究（薬用および食用など）
地域に伝承されている、あるいは現行されている植物利用の形態とその手法の確認。

③ 山村地域における植物資源にまつわる文化の確認と今後における活用促進と普及方法の検討
上記の②をふまえ、地域の文化、風土について、また今後の活用のあり方について、ワークショップを開催して、検討した。

【3．調査研究の内容】

本事業では、主に下記の２つの地域を調査対象とし、そのほか、九州・大分県国東地域の事例なども参考にした。

３－１．福井県丹生郡越前町における事例
（1）同町における森林空間の把握と有用植物の現状調査
（2）植物の有効活用の方法と今後の普及方法の検討

３－２．福島県南会津郡南会津町熨斗戸における事例
（1）同町における森林空間の把握と有用植物の現状調査
（2）植物の有効活用の方法と今後の普及方法の検討

2．活動の成果

本調査で対象とした、福井県の越前町と福島県の南会津町熨斗戸は、前者は日本海側にあり、後者は太平洋側にある地域であるため、地理的には全く異なる場所であったが、双方とも、かつては森林を生活の場として利用していたことが明らかになった。また、現在も森林に囲まれた自然豊かな地域ではあるものの、住民自身は森林に入る回数が減り、自然の恵みや知恵を生活に取り入れている人も数少ない印象を受けた。しかしながら、今回実施した野草・薬草講座の開催を通して、地域の身近な植物に驚くほどの効能と使い道があることを知り、自然に対する認識と意識に変化がみられたことがうかがえた。野草・薬草講座に参加した人の多くは地域の女性であり、会場は終始和気藹々としており、会話と活気があふれていた。近年のコロナ禍もあり、女性達だけで集まる機会は稀少であることも同時に明らかになった。この地域におけるコミュニケーションの場づくりの観点においても、自然や植物を媒介とした有効な手段になり得ることが示された。

3．参加者の声

本事業に参加した方々の感想の概要は以下のとおりである。寄せられた声には、驚きや発見、

懐かしさや楽しさ、これからの意気込みなどのさまざまな感情があふれていた。参加者は、身近な野草を使った料理体験を通して、自分達の暮らす豊かな自然を再認識し、これまでの暮らしや地域に対する誇りをあらためて実感したようにうかがえた。

・今まで草だとしか思わなかった植物が、こんな美味しい料理に変わるなんて本当に驚きました。
・野草が、野菜にしか見えなくなりました。
・小さい頃、親に自然のものを食べさせてもらっていたのを思い出し、これまで自分が元気に生きてこられた理由を改めて感じました。
・野草がこんなにも食べやすいとは知りませんでした。
・夏の暑さで野菜が育たなくても、野草はしっかり生えているので安心しました。
・野草を油で炒めると苦みがなくなることを学び、今後も色々な活用方法を参考にしたいです。
・セイヨウタンポポやカタバミの利用方法に衝撃を受けました。
・野草のおむすびの香りがとても良かったです。
・以前、セイタカアワダチソウのある場所は文化が遅れていると聞いて、ずっとそう思っていました。しかし、今日の講座でその考えが変わり、自分の住む場所をこれから大事にしていきたいと思いました。
・あの厄介者のスギナに効能があるなんて、いまだに驚きが止まりません。
・自分の住む地域が誇らしく感じました。
・講師の方を知ってはいましたが、こんなにも野草に精通していることを初めて知りました。これからはいろいろと教えていただきたいと思います。

実績報告とりまとめ表

実施時期		9/20	10/22～24	11/19～23	1/15	2/11	5/11～14	6/28	計
事業内容		①のコーディネータ、役場、講師らとオンライン打合せ	②の現地コーディネータ、講師らと打合せ、および調査地下見	②の現地調査・交流会・ワークショップの開催	①において、有用植物の樹液採取仕掛けの現地取材	①において、有用植物の樹液採取回収の現地取材	②の現地調査、およびワークショップの開催	③において、第15回日本森林保健学会学術総会において成果発表	
参加者数	県内	3人	3人	22人	6人	7人	13人	21人	75人
	県外	1人	1人	2人	1人	1人	2人	24人	32人
	計	4人	4人	24人	7人	8人	15人	45人	107人
実施場所		①福井県丹生郡越前町、②福島県南会津郡南会津町、③大分県別府市							

地域材利用拡大に向けた環境指標整備のための調査研究

特定非営利活動法人　木の建築フォラム

1．調査研究の目的

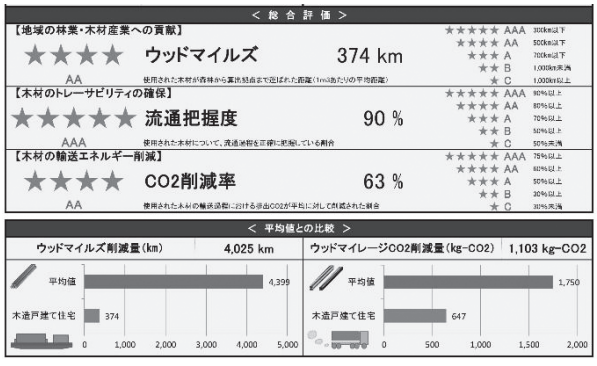
脱炭素経営が求められる現在、木材製品の生産・輸送過程のＧＨＧ排出量の明示や認証取得等の必要性が高まっていることから、地域材利用の環境的優位性を関連事業者や一般消費者へ訴求するため、（一社）ウッドマイルズフォーラムが培ってきた地域材の環境評価指標をベースに、建築物に使用される木材の生産・輸送履歴、及び CO_2 排出量を効率的に明示する仕組みを構築するため、既往の評価手法や関連指標の調査・整理、及び環境指標案の作成、サンプル事例を用いた評価の試行を行い、今後の指標整備に関する課題や方針をまとめる。

2．調査研究実施方法

外部専門家[1]、調査研究実施ワーキング[2]、及び特定非営利活動法人木の建築フォラム会員 27 名により３回の検討会を実施し、並行してウッドマイルズ関連指標の課題整理、既往の評価制度や関連指標の調査分析、地域材利用拡大に向けた環境指標案の作成、サンプル事例の調査分析を行った。

3．1　ウッドマイルズ関連指標の概要と課題

ウッドマイルズ関連指標は 2003 年に発足したウッドマイルズ研究会により提唱された建築物に使用される木材の輸送に関する環境指標で、木材の輸送過程の環境負荷とトレーサビリティーを明示することで、地域材の利用拡大に貢献する取組である。2016 年以降、原単位や評価のための平均値などの改訂が行われていないが、木材製品の流通形態はこの 10 年で大幅に変化していると言われているため、改めて原単位の検証や平均値の改訂等が必要である。また、木材製品の輸送過程だけでなく総合的な視点から木材の環境性能を評価するため、木材産地の持続可能性、木材流通の透明性・信頼性、木材生産の環境負荷削減、木材の基本的な品質、木材の長期利用という５つの物差しによる評価を推進する木材調達チェックブックも作成しているが、各評価項目の精度を高め、実用できる指標にレベルアップさせていくことも課題となっている。



（図１　ウッドマイルズ関連指標の評価結果シート）

（表１　主な木材製品の CO_2 排出原単位とデータベース）

木材製品	CO_2 排出原単位（kg -CO_{2e}/㎥）	算出対象範囲
JAS 構造用製材（人工乾燥材）	80	伐採～製品製造
直交集成材（CLT）	252	伐採～製品製造
単板積層材（LVL）	329	伐採～製品製造
原単位データベース名称	データ数（うち木材関連）	概要
IDEAVer.3.3 産業技術総合研究所	約 4,800（66）	積み上げ法
AIJ-LCA 原単位データベース 日本建築学会	約 400（4）	産業連関法
3EID（2015 年）　国立環境研究所	約 400（7）	産業連関法

3．2　木材の環境性能を評価する動きと関連指標の概要

2024 年３月に林野庁が「建築物への木材利用に係る評価ガイダンス」を公開した[3]。建築物への木材利用に係る評価として、カーボンニュートラルへの貢献、持続可能な資源の利用、快適空間の実現、という３点をあげ、カーボンニュートラルの貢献の評価手法として、建築物のエンボディドカーボンの削減、及び建築物への炭素の貯蔵について、代表的な排出原単位やデータベースと共に紹介されている。

また、持続可能な木材の調達の確認方法として、合法伐採木材等の流通及び利用の促進に関する法律（クリーンウッド法）に基づき合法性が確認でき、かつその木材が産出された森林の伐採後の更新の担保を確認できるものであること、又は認証材（森林認証制度により評価・認証された木材）であることのいずれかであることと紹介されている。

3．3　既往のデータベースにおける排出原単位の調査分析

ISO1402553 に基づく環境製品宣言 EPD プログラムを日本国内で唯一運営管理しているのが一般社団法人サステナブル経営推進機構による SuMPO 環境ラベル（エコリーフ）プログラムである。建築・建築製品分野の木材関連製品の EPD 登録状況はまだ少ない状況である。

IDEA は（株）AIST Solutions が開発・販売している世界最大規模のインベントリデータベースである。IDEA を活用した LCA ソフトウェア（MilCA）も（株）LCA エキスパートセンターより販売されている。データベースやソフトの利用にはそれなりの費用が必要である。

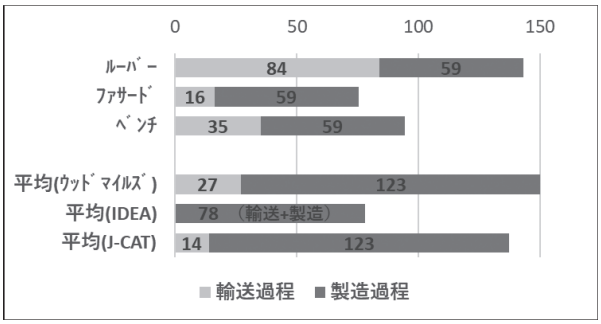
AIJ-LCA は日本建築学会で出版している「建物の LCA 指針（温暖化・資源消費・廃棄物対策のための評価ツール）」であり、1999 年 11 月に初版が発行され、現在は 2024 年 3 月に発行された第 5 版が最新版である。また、AIJ-LCA 原単位データベースを基本として資材数量ベースの算定が可能となるようゼロカーボンビル推進会議にて開発された建築物ホールライフカーボン算定ツール「J-CAT」正式版が、2024 年 10 月に一般財団法人住宅・建築 SDGs 推進センターより無料で公開された。その他、住友林業㈱がサポートしている欧州の One Click LCA や林野庁の発電利用に供する木質バイオマスの証明のためのガイドラインのＧＨＧ排出量の規定値等がある。

3．4　地域材利用拡大に向けた環境指標案の作成

既往のデータベースにおける木材製品の CO_2 排出原単位は表 2 のようにバラつきがあり、各々出典や信頼性も異なるが、現時点で公開され使用可能な原単位として、輸送過程では精緻化したウッドマイルズ関連指標の原単位を、製造過程では J-CAT の原単位を活用して木材製品の環境負荷を総合的に示す環境指標案を作成した。環境指標案では CO_2 排出量だけでなく、木材生産の持続可能性や木材製品の炭素固定量についても可能な限り明示することとした。

（表 2　木材製品・輸送手段のデータベース別 CO_2 排出原単位）

製品名称（算出対象範囲）	CO_2 排出原単位（kg -CO_{2e}/m³）		
	IDEAVer.3.4	J-CATVer.2.1	ウッドマイルズ
丸太（全過程）	20.28		
一般製材（全過程）	90.46		
乾燥桁材（全過程）	77.78		
製材（製造過程）日本		122.70	
製材（製造過程）北米		72.50	
製材（製造過程）欧州		40.10	
製材（製造過程）ロシア		127.00	
製材（製造過程）南洋		137.60	
製材（製造過程）NZ		69.70	
製材（製造過程）チリ		146.80	
製材（輸送過程）日本		13.60	6.0
製材（輸送過程）北米		53.97	69.15
製材（輸送過程）欧州		108.46	170.55
製材（輸送過程）ロシア		303.10	63.42
製材（輸送過程）南洋		47.18	63.59
製材（輸送過程）NZ		137.81	77.29
製材（輸送過程）チリ		158.40	138.35
輸送手段	CO_2 排出原単位（kg -CO_{2e}/t・km）		
	IDEAVer.3.4	J-CATVer.2.1	ウッドマイルズ
自動車輸送　平均	0.4467		0.1730
自動車輸送 20t	0.1223		0.1128
鉄道貨物	0.0289		0.0220
内航船舶	0.0462		0.0390
バルク船（小型）	0.0075		0.0111
バルク船（大型）	0.0043		0.0067
コンテナ船（小型）	0.0272		0.0239
コンテナ船（大型）	0.0101		0.0160



（図 2　八潮駅の木製製品 1m³ あたりの CO_2 排出量 kg -CO_2）

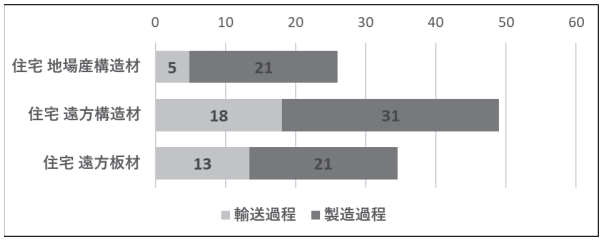
3．5　サンプル事例の調査分析

作成した環境指標案のサンプル事例調査として、ＴＸアベニュー八潮駅に使用された、つくば市産のスギ材用いたルーバー（壁）、ファサード（天井）、ベンチのヒアリング調査及び試算を行った。

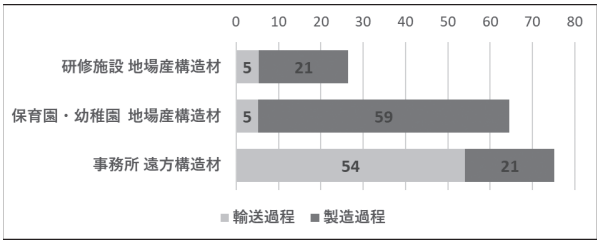
製造過程の条件は全て同じ（木質バイオマス燃料 50%）としているため、輸送距離が長いルーバー材が最も排出量が多く、輸送距離が短いファサード材が最も排出量が少なくなっている。比較のための平均値についても、ウッドマイルズ関連指標、IDEA、J-CAT、各々の原単位で試算した結果、ウッドマイルズ関連指標の平均値が最も大きく、IDEA の平均値が最も小さくなる結果となった。

また、木材生産の持続可能性については、クリーンウッド法における合法性の確認（デュー・デリジェンス）、及び大阪・関西万博の木材調達基準、どちらでも持続可能性が確認できる木材であると評価できた。

さらに同環境指標を用いて、（一社）ウッドマイルズフォーラムがこれまでウッドマイルズ関連指標を算出した代表的な６つの事例についても試算を行った結果、木材製品の輸送手段及び乾燥方法の違いにより、CO_2 排出量が大きく異なる可能性があることが分かった。



（図３　戸建て住宅の構造仕上材 1m^3 あたりの CO_2 排出量 kg -CO_2）



（図４　木造施設の構造材 1m^3 あたりの CO_2 排出量 kg -CO_2）

4．総括

本調査研究により、ウッドマイルズ関連指標、及び木材製品の製造時の CO_2 排出量を評価する既往の関連指標について、精度、運用、費用、信頼性等、現状の課題を整理することができた。今後、具体的な製品について精緻なＬＣＡ分析を行い、既往の関連指標の精度や信頼性を検証し、地域材利用拡大のための有効な環境指標を整備していく必要がある。

[1] 立花敏 / 京都大学大学院農学研究科教授、早船真智 / 森林総合研究所関西支所主任研究員、加用千裕 / 東京農工大学自然環境保全学部門教授、浅野純平 / 株式会社森未来代表取締役

[2] 杉本健一 / 特定非営利活動法人木の建築フォラム代表理事、藤原敬 / 一般財団法人林業経済研究所フェロー研究員、滝口泰弘 / 滝口建築スタジオ一級建築士事務所、増田拓也・井口光・五江渕啓太・冨山脩太郎 / ㈱森未来

[3] 建築物への木材利用に係る評価ガイダンス / 林野庁 令和６年３月
https://www.rinya.maff.go.jp/j/mokusan/esg_architecture.html

ECO-DRR による森林グリーンインフラ整備の推進

公益社団法人森林･自然環境技術教育研究センター
〒102-0074　東京都千代田区九段南 4-8-30

1．活動の概要

気候変動枠組み条約のパリ協定の下で、生態系を活用した災害防止対策（ECO-DRR）が海外において大きな注目を集めている。我が国の治山事業は森林の公益的機能を発揮するために講じられる事業であり、改めて ECO-DRR の観点からそのあり方を見直すとともに、ECO-DRR として推奨される技術実例の集積・分析を行い、その結果を踏まえて、新たな視点に立った治山技術を再構築するとともに、その成果を広く森林技術者へ普及啓発することとする。本調査研究を効率的に実施するため、「ECO-DRR による森林グリーンインフラ整備検証委員会」を設置した。本委員会は、治山技術や農村計画に関する研究者、技術者及び学識経験者を委員として構成されている。

2．活動の成果

ECO-DRR 及びグリーンインフラの概念整理ができるとともに、海外における JICA の ECO-DRR 事業の事例収集もできた。一方で、森林管理局、都道府県及びコンサルタント会社へのアンケート調査を実施した結果、ECO-DRR についての認知度はまだ低く、国内の事例収集はほとんどできなかった。しかし、治山事業が Eco-DRR そのものであるという認識が広がり、行政施策に反映されるようになった。（令和４年度森林・林業白書において、「気候変動に対応した治山対策」が特集され、その中で ECO-DRR やグリーンインフラが紹介されるとともに、令和６年度林野庁予算の治山事業においても ECO-DRR の推進が重点事項に位置づけられた。また、令和５年１２月改定の国有林野の管理経営に関する基本方針においても ECO-DRR とグリーンインフラ整備の推進が明記された。）

実績報告とりまとめ表

実　施　時　期		令和６年９月 17 日	令和７年２月 25 日	令和７年６月 17 日
事業内容	ECO-DRR による森林グリーンインフラ整備検証委員会	①　第１回委員会	②　第２回委員会	③　第３回委員会
参加者数	計	委員６名、オブザーバー（林野庁１名）	委員６名、オブザーバー（林野庁１名）	委員５名、オブザーバー（林野庁２名）
実　施　場　所		国土防災技術株式会社　神谷町本社会議室		

「自然保育者の養成カリキュラムと社会化に関する研究」

代表者：鶴見大学短期大学部 増田直広

1．研究概要

1-1. 研究目的

自然保育に関連する人材養成の実際を調査し、「自然保育者」（仮称）を養成するためのカリキュラムおよび社会化に向けた検討を行う。

1-2. 期待される成果

(1) 自然保育者の養成カリキュラムが整理される
(2) 保育者養成校や自然保育実践園、団体等での自然保育者養成が行われる
(3) 自然保育に関心を持つ森林 NPO 等が増える

1-3. 研究体制

増田直広（代表／鶴見大学短期大学部）、柴田卓（郡山女子大学短期大学部）、
田中住幸（札幌大谷大学短期大学部）、室井修一（国立青少年教育振興機構）、
木俣知大（東京学芸大 Explayground 推進機構）

1-4. 調査方法・調査内容

(1) 文献研究（2024 年 7 月～ 2025 年 6 月）
(2) 自然保育者の養成カリキュラムの実態調査（2024 年 7 月～ 2025 年 6 月）
①保育者養成校
②自然保育実践園
③自治体
④その他（森林・自然系団体等）
(3) 自然保育者の養成カリキュラムの検討（2024 年 11 月～ 2025 年 6 月）
①保育者養成校
②自然保育実践園
③自治体
④その他（森林・自然系団体等）
(4) 自然保育者養成の社会化の検討（2024 年 11 月～ 2025 年 6 月）
①各主体の取組み
②主体間の協働
③参考となる指導者養成事業
(5) 成果報告会・意見交換会（2025 年 6 月）
(6) 関連学会・フォーラム参加（2024 年 7 月・8 月・11 月）

2．自然保育者の養成カリキュラムの検討

(1) 保育者養成校

保育者養成校の授業は、必修授業（幼稚園教諭免許取得必修・保育士資格取得必修・卒業必修）と選択授業とに大別できる。必修授業の場合は、保育者養成におけるコアカリキュラムとの関連で押さえるべき要点があり、制約がある中で自然保育の要素を導入することになるが、多くの学生が自然保育を学ぶことができるというメリットがある。選択授業の場合は、ある程度自由度がある中で自然保育を取り入れることができるメリットがあるが、受講者が少なくなることもあるというデメリットもある。保育者養成校において自然保育者養成を行う場合、上記を踏まえて必修授業および選択授業の両方で自然保育を学べることが望ましい。

⑵ 自然保育実践園

「外部研修」「研究保育および事例発表」「内部研修」を通して、自然保育者の養成および研修を進めることで自園の自然保育実践の向上ができると考える。

⑶ 自治体

自治体による自然保育者養成や研修は、自然保育実践園の支援の意味合いが大きい。そのため、4-2 で挙げた「外部研修」「研究保育および事例発表」「内部研修」と連動させて検討したい。

⑷ その他（森林・自然系団体等）

自然保育に関するネットワーク団体や自然体験活動関連団体が自然保育者養成に関して果たす役割の１つとして、自治体の補完的機能を挙げることができる。また、上記団体には専門性の高い研修の開催も求められていると言える。特に長野県における自然保育特化型認定園のように自然保育を柱とする園は、保育理念や注力したい要素を学べる研修への参加が多い傾向にある。

3．自然保育者養成の社会化の検討

⑴ 各主体の取組み

①保育者養成校

まず、自然保育や環境教育に関連するコースを持つ保育者養成校では、その特色あるコースでの学びや学生の反応、成果などを発信し、自然保育者養成の必要性を周知することが可能である。さらに、保育者養成校や教員は、自然保育を研究テーマとして取り上げることによって、その意義や自然保育者養成の必要性を発信することができる。自校の紀要を通した発信に加え、日本自然保育学会をはじめ、保育や環境教育に関連する学会を通して研究成果を発信することは、広く社会に自然保育や自然保育者養成の意義を伝えることになる。その意味では、上記学会での研究や実践報告が活発になることは自然保育や自然保育者養成の社会化につながるだろう。

②自然保育実践園

自然保育実践園は、その取組みによって自然保育の意義を伝えることができる立場にある。保護者や地域への発信をはじめ、自治体が開催する研修などで自然保育の取組みや意義、成果などを紹介することを通して、自然保育のプレゼンスを向上させることが期待される。また、自然保育実践園は自園の自然保育向上や自然保育者養成のためにどんな研修が必要か、自治体へ伝える役割を持っていると言える。ニーズを伝えることが自然保育者養成の社会化につながることになり、研修が実現することで自園の向上や保育者の成長につながるであろう。

③自治体

自治体は、自然保育実践園のニーズに応えて自然保育に関する研修を設定することで自然保育者養成の社会化を促進することができる。特に自治体内の自然保育実践園の見学・視察を通した研修を設けることは、参加園にとっても受入れ園にとってもメリットが大きく、自然保育や自然保育者養成の意義を発信する機会につながる。

④その他（森林・自然系団体等）

自然保育に関するネットワーク団体や自然体験活動関連団体も、自治体同様に自然保育実践園のニーズに応えて自然保育に関する研修や交流の機会を作ることができる。団体として自然保育や自然体験活動、環境教育などの専門性を持つことから、専門性の高い研修を開催できることも強みである。

⑵ 主体間の協働

各主体単体での取組みでも自然保育や自然保育者養成の意義を発信することができるが、主体間で協働することで発信力が大きくなり、社会化の動きを促進することができると言える。

4．まとめ

今年度の研究では、自然保育に関連する人材養成の実際を調査し、自然保育者を養成するためのカリキュラムおよび社会化に向けた検討を行った。各調査や研究会を通して、自然保育者養成

の実際や課題を知ることができ、養成カリキュラムの要点を検討することができた。

本研究の成果の一部は日本自然保育学会第9回大会実行委員会企画ラウンドテーブル「自然保育×養成・研修を考える」において報告することができたが、日本自然保育学会第10回大会においても研究全体の報告する予定である。

今後は本研究に基づいて自然保育者養成のカリキュラムを作成することを検討したい。カリキュラムが作成できれば、それに基づいて保育者養成校の授業や自然保育実践園、自治体、自然体験活動関連団体による研修を実施することができ、結果として自然保育者養成の社会化につながるものと考える。

今後も上記を課題として研究および教育を続けていきたい。

手つかずの河辺林を市民の森にするための基礎調査

特定非営利活動法人コミュニティねっとわーく高島
〒520-1622　滋賀県高島市今津町中沼 1-4-1

安曇川の河辺林基礎調査　報告要約

調査目的

綾羽工業株式会社敷地の河辺林における市民参加型の森づくり計画に先立ち、環境を知る基礎資料となる調査を実施しました。

植物調査：森 小夜子氏（滋賀県生物環境アドバイザー）
昆虫調査：青柳 正人氏（エコシステムリサーチ）
脊椎動物調査：千々岩 哲氏（滋賀自然環境研究会　理事）

＜植物調査＞

１．調査目的

出現したシダ植物および種子植物（木本・草本）の中から「滋賀県で大切にすべき野生生物・2020 年版」（以下滋 R）記載種と「当地における保全すべき環境と植物」を抽出して、森づくりの指針となることを目的としました。

調査日　夏季：2024 年 8 月 22 日　秋季：2024 年 10 月 21 日　春季：2025 年 5 月 15 日
その他：2024 年 10 月 31 日　京都府立植物園様、ユキミバナ調査来県に同行
11 月 20 日　滋賀県生きもの総合調査委員大谷氏を案内
2025 年　4 月　4 日　観察会下見 4 月 12 日調査体験会本番

２．調査方法

林内は倒木や枯れ竹に覆われていることに加え、湿地や水辺環境となっていることから危険回避のために林内低湿地調査は控えて林縁部の調査に留めました。

特に高木種はカワウによる損傷が甚大で同定不可能な樹木が多数あったことから、森づくりの活動とともに調査の継続を予定しています。調査結果は別紙、資料１・資料２に記しました。

３．まとめ

滋 R 記載種（８種）が確認された意義は大きく、保護に努める必要があります。

特にユキミバナは 1993 年に新種記載された植物で、福井県・京都府・滋賀県（高島市）のみに分布していますが、県内ではシカの食害も報告されていることから、種の保護とともにやや湿り気の多い生育環境の保全に務めることも大切です。

マダケの再生を図るとともに、ケヤキ、ナラガシワ、アラカシ、タブノキなど高木層の構成種はカワウの被害が甚大なことから、次世代の幼木を育てる必要があります。

コブシ、ハンノキ、アケボノシュスラン、コバノカモメヅル、サワオグルマなど低湿地を好む植物が多数確認できたことから、森づくりには湿地や水辺環境の維持に務めることも大切です。

＜昆虫調査＞

１．調査結果

昆虫類は 10 目 61 科 141 種を確認しました。調査月ごとの昆虫類の種数は 8 月が 51 種、10 月が 61 種、4 月が 21 種、5 月が 51 種でした。

２．重要種

確認のうち重要種に該当するのは、ナツアカネ（滋賀県 RDB その他重要種）、コオイムシ（環境省 RL 準絶滅危惧種）、オオトックリゴミムシ（環境省）、コミズスマシ（環境省 RL 絶滅危惧 IB 類；滋賀県 RDB 希少種）、コガムシ（環境省 RL 情報不足）、ガムシ（環境省 RL 準絶滅危惧種；滋賀県 RDB 希少種）、ヤマトアシナガバチ（環境省 RL 情報不足）の 7 種でした。

確認された重要種 7 種のうち、ヤマトアシナガバチを除く 6 種は水辺を生息場所とする昆虫類

です。綾羽の森の水辺環境は昆虫類の生息環境として重要な役割を担っていることがうかがえます。

３．昆虫の生息環境から見た安曇川の河辺林

2024 年 8 月、10 月、2025 年 4 月、5 月の 4 回の調査から、当河辺林では樹林内において木本植物を吸汁するセミ類、動物の死体を食べるシデムシ類、菌食性のゴミムシダマシ類、樹林の林縁や周囲の草地環境においてトンボ類、バッタ類、チョウ類などを多く確認することができました。また樹林内外にある湿地環境からオオトックリゴミムシやガムシ類、ゲンゴロウ類など、また構内の水路からゲンジボタルやナベブタムシ、コミズスマシなど水辺に生息する昆虫類を確認しました。

林床に生息するコウチュウ類ではシデムシ類が多いことが特徴と言えます。シデムシ類は動物の死体を食べる自然界の掃除屋で、生態系では重要な役割を担っているコウチュウ類です。当河辺林で林床にシデムシ類が多いのはカワウやサギ類のコロニーになっていることと強く関係していると考えています。これは雛の死体や餌の魚の残りなどの供給が、一般的な樹林よりも多い可能性があるためです。

また木本植物の葉を食べるコガネムシ科やハムシ科のコウチュウ類の確認が少なかったことも特徴的です。これらのコウチュウ類が多く見られる 6 月から 7 月に調査を実施していないこともありますが、竹林の広がりによる木本植物の多様性の低さ、カワウの糞により摂食に適さない状態になっていること、などが影響している可能性があります。

林縁の草地環境ではクビキリギス、ショウリョウバッタ、コバネイナゴ、ツチイナゴ等のバッタ類、キマダラセセリ、ツバメシジミ、ツマグロヒョウモン、キタキチョウなどチョウ類を多く確認することができました。樹林内では昆虫類を目撃することが少ないのとは対照的に周辺の草地では目撃する昆虫類が多く、林内の昆虫相の貧弱さが際立つこととなりました。

このほか林縁の草地環境ではキムネクマバチやタイワンタケクマバチなどが花に集まっていました。キムネクマバチは在来種ですが、タイワンタケクマバチは中国からの外来種で、おもに枯れたタケに穴を開けて、その内部に巣を作ります。綾羽の森はタケが多く、タイワンタケクマバチが開けたと思われる穴のある枯れたタケをいくつも確認しています。当河辺林が外来種のタイワンタケクマバチの繁殖環境となっており、外来種の供給源となることを避けるため枯れたタケを除去することも検討すべき課題です。

＜陸上脊椎動物＞

１．調査概要

調査期間：2024 年 10 月～ 2025 年 6 月

調査方法：任意踏査（任意観察）

調査時期：秋（10 月）、冬（12 月）、春（4 月）、初夏（6 月）

確認種　鳥類：9 目 25 科 34 種、両生類：1 目 3 科 4 種、爬虫類：1 目 2 科 3 種

　　哺乳類：2 目 5 科 5 種

2．鳥類の重要種（7／12）種

種名	確認場所	環境省レッドリスト 2020	滋賀県レッドデータ 2020	滋賀県条例指定希少種	滋賀県指定外来種
ケリ	外	DD			
イカルチドリ	外		●	●	
ミサゴ	上空	NT	●	●	
カワセミ	内		●	●	
サンショウクイ	外	VU	●	●	
センダイムシクイ	内（渡り中）		●	●	
オオヨシキリ	外		●	●	
ミソサザイ	内		●	●	
キビタキ	内（渡り中）		●	●	
ルリビタキ	内		●	●	
クロジ	内		●	●	
コジュケイ	内				●

3．両生類・爬虫類・哺乳類

目名	科名	和名
両生類：無尾目	アマガエル科	ニホンアマガエル
	アカガエル科	**トノサマガエル（*環 NT）**
	アオガエル科	シュレーゲルアオガエル
		モリアオガエル
爬虫類：有鱗目	カナヘビ科	ニホンカナヘビ
	ナミヘビ科	シマヘビ
		アオダイショウ
哺乳類：ネコ目（食肉目）	イヌ科	タヌキ
	ジャコウネコ科	ハクビシン
	ネコ科	ノネコ
哺乳類：ウシ目（偶蹄目）	イノシシ科	イノシシ
	シカ科	ニホンジカ
4 目	10 科	12 種

＊環 NT：環境省レッドリスト 2020 年版　準絶滅危惧種

4．調査結果まとめ

・カワウやサギ類の繁殖コロニーが多くの生き物を暮らしにくくしている。
・鳥類の中には暗い森を好む種類が生息
・生息する両生類と哺乳類は乏しい
・爬虫類は日当たりの良い場所を選好
・暗い森は多くの生き物の生息を困難に。（光が生き物の多様性を生みだす）
・明るい森との配分が大事

以上

里山未利用資源用途開拓事業
「地域里山優勢樹種・ソヨゴの染色研究」

ファーストステップ
〒729-6701　広島県三次市三和町上壱 949

1. 研究目的

広島県北東部に位置する丘陵地帯・三和町の里山に多く自生する常緑小高木ソヨゴの染材料としての可能性を探る。信州松本地方で伝承されていた染料であり、近年庭木として植栽されることも多く、自生地ではない場所でも染材料として使用されている。しかし、伝統染料では無い為堅牢度は中程度である。特に植物繊維（綿）に対して染まり具合が弱いが、綿は身近な素材でもあるので、堅牢度を上げる方法を探る。

動物性繊維は含有しているタンパク質の働きにより染料との結びつきが強くなり、よく染まる。そのことを応用し、植物繊維（綿）に染まり具合の低い染料の場合、タンパク質の下地を施すことは伝統的に行われている。今回の研究では、伝統的に行われている①呉汁（生大豆をすり潰し、水で溶いたもの）②市販の豆乳、③化学的に濃染加工された布、④タンニン下地（主にインドで行われているミロバラン染料下地）の布を使い下地染めをしていないものとの比較をしてみたい。

また、通常は 10 月～ 4 月の緑葉での染色方法をとるが、染材料を保存・流通させることができるかを検討する為､1 ヶ月乾燥させた枝でも試染を行う。①綿に対する染色堅牢度を上げる為の「下地染め」の検討と比較②染材料としての保存性を高める為の「枝染め」

2. 研究方法

①－１「緑葉による伝承染色」ソヨゴの色（下地染めなし）サンプル作成
①－２「下地染め（タンニン、呉汁、豆乳、KLCI 濃染)」後の染色サンプル作成
①－３日光堅牢度試験（室内日向に２ヶ月間置いておく）
①－４洗濯堅牢度試験（アルカリ洗濯洗剤による通常の洗濯）3 回
①－５乾燥枝試染

２－１　染色方法

① 被染物と同量の染料（ソヨゴ）を被染物の 50 倍量の水に入れて加熱し、沸騰後 30 分加熱し、染液を取り出す。2 日間日光に当てておく。赤みが増す（伝承によるソヨゴの染液作り）
② 20℃の染液に被染物を入れ、80℃になったら 15 分間加熱、その後放冷。
③ 被染物の 10% の媒染剤を被染物の 50 倍量のぬるま湯で溶解し、10 分間媒染する。その後水洗いし、乾燥させる。

２－２　判定

a. 耐光
① 1 週間に 1 回の写真撮影による記録
② 日光を遮断した試験布と最終試験布の比較

b. 洗濯
① 洗濯後の写真撮影による記録
② 洗濯前の試験布と最終試験布の比較いずれも目視による判断

3. 研究結果

A　耐光

下地染めをしたものは、していないものに比べ、日光による槌色が明らかに低かった。下地染め無しのものは殆ど白に近く槌色してしまったので、下地染めをすることの必要性は有意に認められる。

B　洗濯

１回目の洗濯で色落ちを明らかに感じたが２回目、３回目は変わらないように思われた。よく比較してみると、全体的に紫味が強く出てきており、媒染剤による色の違いがわからなくなってきていた。今回使用した洗剤は通常家庭で使われるアルカリ性の粉洗剤であり、アルカリによる媒染が働いたのではないかと推測する。

C　乾燥

枝試染まず下地染を施さなかった綿布はほぼ染まっていなかった。下地染をしたものについては発色が見られた。絹やウールの染まり具合をみると、枝染めの色味は薄黄色と推測される。下地染めをしないと綿には染まらないという結果をみると、やはりソヨゴは生の緑葉による染めが適当であると思われる。

4．今後の課題

下地染めの優位性は認められたが、下地の色の影響が多く出る場合もあり、ソヨゴ本来の色味を尊重する為にも下地無しでの重ね染めの必要性も感じる。また媒染剤・洗剤についても中性にすることが槌色防止になる可能性を感じた。枝染に関しては、動物繊維では柔らかないい色が出ていたので、ウールなどで染めることを検討したい。また、日光の槌色は極めて強いので、陰干しを薦めたい。

五木村における小さな林業の実現に向けた可能性調査

五木村山村活性化協議会

1．事業の概要

【事業の目的】

熊本県五木村では、小規模かつ分散的な森林所有形態が多く、大規模な集約型林業では対応が困難な状況にあります。また、林業者の高齢化や所有者の林業への意欲低下により、森林資源の保全・継承が危ぶまれています。本事業は、森林所有者が適切な森林管理から収入を得られる新たな仕組みとして、工務店等へ立木を直接販売する「小さな林業」モデルを構築することを目的とします。その実現可能性を検証するため、間伐から製材までの一連の作業におけるコストや生産性（歩掛）、木材の歩留まり等の基礎データを収集・分析しました。

2．事業の実施内容と結果

1）調査・施業の実施

- 実証区域：1.25ha の区域を選定し毎木調査を実施。
- 毎木調査（令和 6 年 9 月実施）：間伐対象木として 299 本（合計材積：129.608m^3）を選木しました。
  内訳：直材 219 本（98.152㎥）、曲がり材 62 本（23.411㎥）、又・傷あり 18 本（8.045㎥）
- 試験施業（令和 6 年 12 月実施）：選木した立木に対し、除伐、間伐（伐倒）、玉切り、搬出、集積作業を実施しました。
- 試験製材（令和 7 年 5 月実施）：集積した原木を製材所へ運搬し、主に柱や梁などの構造材へ製材しました。

2）主要な調査結果

① 各工程におけるコスト構造 一連の作業にかかった総費用は 1,958,564 円となりました。
最終的な粗挽き製材後の製品（44.02㎥）あたりの総合単価は 44,493 円 /㎥

工　　程	総費用	単位あたりコスト	備考
除伐作業	96, 805 円	77, 444 円 /ha	
間伐作業	104, 795 円	83, 836 円 /ha	
玉切り・搬出・集積	843, 820 円	10, 478 円 /	㎥（原木材積あたり）
運搬（集積場→製材所）	204, 480 円	2, 539 円 /	㎥（原木材積あたり）
製材（粗挽き）	708, 664 円	8, 800 円 /	㎥（原木材積あたり）

② AB 材（良質な木材）の歩留まり立木の状態から最終製品に至るまでの材積の遷移を調査し各工程での歩留まりは以下の通りです。

工　　程	状　　態	材積	対立木（直材）比
① 立木調査段階	直材（立木）	98.15㎥	100%
② 玉切り・集積段階	原木（検収値）	80.53㎥	82.0%
③ 粗挽き製材後	製品（構造材等）	44.02㎥	44.9%
④ 最終製品（想定値）	最終製品（80% で試算）	35.21㎥	35.9%

3．考察「新たな流通モデルの可能性」

1）川上から川下までの収支試算 本調査で得られたデータに基づき、森林所有者から実需者（工務店等）までの収支を試算しました。

- 森林所有者（山元）の収入
  従来のように市場価格に左右されることなく、立木を直接販売することで、施業コストを下流側が負担する形となり、売上がそのまま収入につながる可能性があります。今回のケース

では、1ha あたり約 98.6 万円の収入が見込める計算となりました。

- 実需者（工務店等）の収支
- 粗挽き製材後の木材を単価 120,000 円 /㎥で販売すると仮定した場合、プレカット等の追加加工を行っても１０数％の粗利益が確保できる可能性が示されました。これにより、製品に付加価値をつけることで、森林所有者への経済的還元を促進できる可能性が高まります。

2）林業再興における課題と今後の方策

- 主な課題
  - 森林所有者の経済的自立：原木価格の不安定さや境界未確定等の課題により、多くの所有者が「伐っても赤字、植えても負担」と感じ、放置林の増加を招いています。
  - 小規模・分散的な所有構造：日本の森林の構造的な問題として、小規模な森林が点在しているため、大型機械による効率的な集約施業が困難です。
  - サプライチェーンの課題：施業コストの増加、担い手不足、安価な輸入材との競合など、川中・川下の事業者も多くの課題を抱えています。
  - 需給バランスの調整：建築に必要な部材と、実際に伐採・製材して得られる製品のバランスを取ることが難しく、余剰や不足を調整する仕組みが必要です。
- 今後の方策
  1. 山主の経済性確保：今回のような立木直接販売モデルを確立・普及させ、原木価格の安定化と収益モデルの明確化を図ります。
  2. 多様な林業形態の推進：大規模な集約型林業に加え、小規模な森林に対応できる「自伐型林業」のような小回りの利く多様な林業経営を推進します。
  3. 川上～川下の連携強化：森林所有者、施業者、製材業者、工務店等が長期契約や相対取引を進めることで、安定供給と計画生産を実現し、中間コストを削減します。
  4. 地域還元型林業の実現：伐採した木材を地元で加工・利用する「地産地消」の仕組みを構築し、地域内で経済が循環する体制を目指します。

4．結論

本調査により、工務店等の実需者へ立木を直接販売する新たな流通モデルは、森林所有者の収入向上と経済的自立を促す上で、大きな可能性を秘めていることが確認できました。今後は、需給バランスの調整機能や関係者間の連携体制の構築といった課題を解決し、このモデルを地域に定着させていくことが、持続可能な林業の実現につながると考えられます。

木育推進の条件整備に関する調査研究（要旨）

鹿児島大学　農学部

研究目的

本研究では、木育の担い手と木育イベントに焦点を当て、木育活動の広がりについて実施状況を把握し、それを実施する上での課題点を明らかにする。また、先進事例の調査結果も踏まえ、今後の木育活動の拡大に向けた方策を考察する。

研究方法

本研究は、木育推進の条件整備という観点から、木育の担い手育成とイベント開催の実態を明らかにすることを目的とし、以下の4点について調査を実施した。

【1】木育担い手養成講座の実施状況

各都道府県の木育担い手養成講座の実施状況について、電話調査と文献調査により明らかにした。また、既に終了している県については、その理由も調査した。鹿児島県における木育インストラクター養成講習会では､受講者（24名）と修了者（74名）を対象にアンケート調査を実施した。

【2】社会教育における木育の実施状況

全国の木育キャラバン実施団体について、2021年から2024年の開催状況を整理した。また、同期間に木育キャラバンを開催した主催者（38団体）を対象としたアンケート調査も実施した。鹿児島県における木育キャラバンの運営に関して、学生ボランティア（17名)、一般（社会人）ボランティア（33名)、かごしま木育キャラバン実行委員会（10名）を対象としたアンケート調査も実施した。

【3】学校林における木育の実施状況

鹿児島県南九州市立霜出小学校における学校林を活用した木育について、活動の企画・運営に参画する参与型観察および担当教員への調査を実施した。学校林を活用する際の課題､木育の利点､必要な支援方策を明らかにした。

【4】先進事例の調査：北海道における取り組み

北海道水産林務部森林海洋環境課において、北海道における木育のこれまでの経緯、実施状況、支援方策、今後の課題などについて聞き取り調査を実施した。木育活動の実施拠点である西興部町「木夢」を訪問し、活用状況や課題について聞き取り調査を行った。また、北海道立総合研究機構林産試験場におけるカードゲーム教材の開発についても聞き取り調査を実施した。

調査結果

都道府県による木育担い手養成講座は、北海道をはじめとする18道県で実施されており、過去には青森県や埼玉県など5県でも実施されていた。終了した地域からは、養成講座を通じて木育活動を推進する者同士の連携が強化されたとの意見が寄せられ、この講座が木育活動に関与する人々の交流の貴重な機会であることが示唆された。鹿児島県における木育担い手養成講座では、2025年度受講者の多数が保育士や子育て関連職であった。これまで養成された木育インストラクターは木材関連職が多く、講座内容は木の玩具体験や木工体験が中心で、対象年齢層の拡大が課題として挙げられた。

社会教育の事例として対象とした木育キャラバンは、2021年から2024年にかけて38団体（海外実施1団体を除く）によって主催され、累計80回実施されていた。新型コロナウイルスの影響で2021年は開催回数が少なかったが、2022年2月以降は回数が増加し、一部ではリモート開催も行われていた。かごしま木育キャラバンのボランティア参加者では、学生が教育的側面に、一般参加者が地域資源活用に重きを置くなど、異なる価値観が見られた。また、同キャラバン実行委員会の運営についての課題として、業務の偏りが指摘され、役割分担の見直しが求められていた。今後の展開として、例えばボランティアの木育活動への思いや経験をSNSやチラシで共有するこ

とで、木育活動の拡大に貢献することが示唆された。

小学校の学校林を活用した木育活動後の感想から、子どもたちが森林の役割や重要性について認識を深めたことが示され、木育活動は森林環境教育において重要な役割を果たすものと考えられる。木育活動を企画した教員へのアンケート結果によると、木育活動は木玩具や木工体験、森林散策、地域材体験など多様な内容を包含し、環境意識の向上、地域資源の活用、地域社会との結びつき強化、健康促進などの効果が評価された。木育活動を通じて、持続可能な資源活用や社会への理解、地域とのつながり、感謝の気持ちを育むことが重要な目的として挙げられた。

先進事例地である北海道では、充実したカリキュラムで木育マイスター育成研修を実施しており、全道各地で活動の担い手として活躍していた。しかし、その活動には地域的な偏在があり、マイスター間の横連携の構築が課題となった。これらの課題解決のため、フォローアップ研修も継続して実施されており、体系的なマイスター育成制度は他地域の参考となるものであった。

結論

木育担い手、木育キャラバン、学校での木育活動のいずれにおいても、活動資金の確保が重要課題であることが明らかとなった。加えて、木育活動の継続的な発展が困難であり、木育の重要性が社会全体に十分に浸透していないとの認識が多く見られた。これらの改善には、木育の価値や意義を広く社会に普及すること、身近に感じられる環境整備が不可欠である。

社会教育における木育の事例から、運営者は様々な主体であり、運営スタッフも目的が多様であることが明らかとなり、木育に関するイベントは木材や森林に関心を持つ多様な人々を結びつける場となりうる。学校における木育活動の発展には、学校教員と木育担い手との連携強化が不可欠であり、双方の木育の概念や目的、内容への理解促進が重要である。また、活動においては、木の玩具づくりに関わった人々や、木材加工、林業に関わる専門家といった様々な関係者を紹介する場を設けることが有効である。木育が単なる「木に触れる」活動にとどまらず、木材産業や森林管理といった広範なテーマと結びつくことを示すことで、参加者の理解と関心を深め、活動の輪を広げる必要がある。

活動基盤整備

修学旅行生対象の民泊事業における林業六次化体験の提供

沼田どってこどってこ
〒078-2201　北海道雨竜郡沼田町旭町 3-1-38

1．活動の概要

修学旅行生を対象にした農家民泊事業において、林業や木材加工および簡易建築の体験プログラムをつくり、森づくりから製品までの流れを身近に感じられる機会を提供することを目的とした。具体的には森林散策、キノコ採り、伐倒の見学、木材搬出、薪割り、薪棚づくり、薪積み、薪配達、白樺の樹皮はぎなどの体験を提供した。

2．活動の成果

都市の中高生に林業の現場や森林に触れる機会を提供し、林業および木材加工の現場を見学したり簡単な作業を手伝ってもらったりすることで、森林や林業およびその六次化への関心を高めることができた。ただし、森林環境について理解を深め、林業と環境保全の関係などについて知るためには、現在の体験内容では十分ではなく、今後は森林での宝探しやクイズ、簡単な調査を体験に加えることで森林や環境保全について理解を深めてもらいたいと考える。

3．参加者の声

・森林にいろんな木やキノコがあって見ていて楽しかった。
・林業は力仕事のイメージが強かったが、たくさんの知識がつまっていることを知った。
・私たちが普段から使っている木はたくさんの方の努力の末に成り立っているものだということを忘れずに生活していきたい。

実績報告とりまとめ表

実　施　時　期		R6　夏季	R6　秋冬季	R7　夏季	計
事業量 又は 事業内容	修学旅行生の民泊事業における林業六次化体験の提供	7 月 7 日～ 9 日 8 月 21 日	9 月 19 日・20 日 10 月 1 日・2 日 10 月 7 日・8 日 12 月 9 日～ 11 日	5 月 20 日・21 日	全 7 組、15 日
参加者数	県　外	8 人	15 人	0 人	23 人
	海　外	人	0 人	4 人	4 人
	計	8 人	15 人	4 人	27 人
実　施　場　所		北海道雨竜郡沼田町			

緑の少年団支援事業

階上売り込み隊
〒039-1201　青森県階上町道仏字天当平1-87

1．活動の概要

町内小学校緑の少年団を対象とし、階上売り込み隊がガイドとなり巨木めぐりを行った。ガイドは、巨木がどのように地域の歴史や文化に影響を与えてきたか、また地域における木々の重要性を説明した。

「緑の少年団巨木めぐり」は、自然や環境に関心を持ち、自然保護や森林の重要性を理解することを目的とした事業である。具体的な目的は以下のとおりである。

自　然　教　育：地元の巨木や森林に関する知識を深め、自然環境の保護や持続可能な利用について学ぶ。

環境意識の向上：環境に対する関心を高め、将来的な環境保護活動を担う人材を育成する。

地域コミュニティの活性化：巨木などの地域の自然資源を見直し、地域住民や参加者が協力して自然を守る活動を推進する。

2．活動の成果

自然の大切さを学び、地域の巨木や森林に触れながら、環境意識を高めるとともに、地域社会との連携を深め、持続可能な社会づくりに貢献する活動となった。

3．参加者の声

・こんなに長く生きていられるのが不思議。
・階上町に巨木・古木があることを知らなかった。
・巨木を大切にしていきたい。

実績報告とりまとめ表

実施時期		10月7日	10月11日	10月29日	計
事業量又は事業内容	緑の少年団巨木めぐり	赤保内小学校	石鉢小学校	道仏小学校	
参加者数	県内	34人	33人	20人	87人
	計	34人	33人	20人	87人
実施場所		青森県　階上町			

森でコミュニケーションしよう「里山再生プロジェクト」

学校法人尚絅学院
〒981-1295　宮城県名取市ゆりが丘4丁目10番1号

1．活動の概要

学校法人尚絅学院はキャンパス周囲の山林を地域社会全員の公共財とし、約20万㎡の森を5区画（A～Eゾーン）に分け、5年周期で恒常的に整備し、「尚絅の森」として再生させるプロジェクトを2016年4月に立ち上げました。里山化し、地域社会の人々が日常的にそこに立ち入ることによって、自然を身体と心で体験しながら「自然との共生」の素晴らしさを感じ、地域社会が豊かなものになることを目的としています。

現在、「森でコミュニケーションしよう」のコンセプトをもとに、NPOや市民ボランティア、地域住民、学生・生徒や教職員など、参加者のみなさまと活動しています。参加者でアイデアや意見を話し合い、森づくりを通した交流・コミュニケーションを大事にしながら、毎月第2土曜日の定例活動としてA～Eゾーンの森林整備、広場づくりのほか、多世代が楽しみながら学べるイベントや勉強会等をおこなっています。

2．活動の成果

昨年度に引き続き、助成金では主に安全な整備活動の実施に向けたアドバイザー費用および保険費用、講演会の開催などで活用させていただきました。森林整備事業では、年間計11回の活動を計画しましたが、周囲の森林に設置している定点観察カメラへのクマの写りこみが増加し、参加者への安全配慮の観点と、経過を観察する目的により、屋外での活動回数を減らす対応をとりました。大学生対象とはなりましたが、連続講演を実施し、SDG's への取組みについて学ぶ機会を増やし、参加学生からは学びにつながったとの感想を得ることができました。調査研究事業では、D～Eゾーンに設置している、炭素固定量を計測するための測定機器によるデータの収集・分析を継続しており、里山整備が動植物に与える影響や、森林微気象への影響を学術的な視点からの調査研究を継しています。

＜これからの取り組み＞

これまでの成果と課題を整理しつつ、参加者からの意見などを参考に、これからの「尚絅の森」の将来像と目的とを整理し、新たな計画を策定したい。また、ステークホルダーとともに尚絅里山MAP等の作成を検討し、新たな5年につなげていきたい。引き続き、地域の方々をより多く巻き込む形での事業展開を計画し、市民の皆さんに大いに力を発揮していただきながら、特に次世代の育成についての取り組みには継続して注力し、「多様な主体が参画する森づくり」を実践していきます。また、これからの「尚絅の森」の将来像をステークホルダーとともに考え、持続可能な活動を目指します。

3．参加者の声

・定例活動に参加することで、経験したことのないことが経験できる（薪割り、チェーンソー）
・大学内で自然活動ができ、都心部のキャンパスにない強みと感じる
・山の活動について見識が豊富な方と交流でき、これまでなかった知識を得られた
・いろいろな方と話しながら活動ができる
・散策をすると楽しい
・尚絅の森に生息する昆虫、動物、花などの紹介、説明図を作成したい
・保護すべき動植物のリストアップをしたい

実績報告とりまとめ表

実　施　時　期		7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	合計
事業内容	整備活動①	—	—	—	11	—	17	—	—	11	19	16	15	89人
	整備活動②	8	—	5	8	2	—	—	—	—	9	6	7	45人
	イベント	—	4	—	197	—	—	—	—	—	40	—	5	246人
	講座	—	—	—	14	7	2	6	—	—	—	—	—	29人
合計														409人
実　施　場　所		宮城県名取市ゆりが丘4丁目10番1号												

八丁目城跡の森林整備と伐採樹木の活用事業

八丁目城跡周辺整備協議会
〒960-1241　福島市松川町字埋崎 66-3

1．活動の概要

①手入れされずに荒れている戦国時代の貴重な山城跡の杉林等を計画的に整備（伐採等）すると共に、散策路（遊歩道）の草刈りや通路の補強並びに法面への植栽等の改良整備を行なった。

②手作りイスや木製プランターなどの親子ウッドクラフト事業を実施した。また、伐採した樹木を活用した堆肥チップ作りの体験会を併せて実施した。

③八丁目城跡のフィールドワークを開催し、山城への理解を深めていただくと共に、八丁目城跡にちなんだ俳句、短歌の体験会を実施し、広く自然環境への理解を深めた。

2．活動の成果

伐採や通路整備を実施したことにより頂上（本丸跡）からの眺望が開けると共に、町場から本丸への階段や頂上部が見えるようになった。事業の実施状況が目に見えるようになり、特に頂上付近の土地所有者が、自費で伐採していただくなど、地元の理解が一層深まった。

ウッドクラフト会や、チップ堆肥作りなど新しい取り組みに関心を持って頂き、フィールドワークや俳句・短歌の体験会等のソフト事業によっても八丁目城跡への注目を集めることが出来た。

当協議会への期待が一層高まり、協賛金等への理解も深まっている。次年度以降も諸活動を継続発展させていく。また、周辺との連携を図り回遊性のある地域の観光拠点としていきたい。

3．参加者の声

・親子ウッドクラフトに遠くから（隣県）来たけど子供が喜んでいた。参加して良かった。
・フィールドワークと短歌会などを結びつけるイベントでてビックリしたが楽しかった。
・頂上からの眺めがあるのは良いね。今度は南の方が見えるようにして！
・野鳥の観察会や八丁目城跡（里山）整備などの企画へ参加したい。

実績報告とりまとめ表

実　施　時　期		12 月 1 日	12 月・3 月	4 月 12 日	4 月 28 日	7 月～6 月
事業量 事業内容		親子でつくろうウッドクラフト及び堆肥チップ体験	支障樹木の伐採整備等	八丁目城跡のフィールドワークと俳句短歌の体験会	八丁目城本丸の通路の裏面整備：竜のヒゲ植栽	散策路等草刈り整備冬期間を除き毎月実施
参加者数	県　内 県　外 計	43 人 8 人 51 人	延 20 人 0 人 延 20 人	19 人 0 人 19 人	32 人 0 人 32 人	延 168 人 0 人 延 168 人
実　施　場　所		福島県　福島市松川町　八丁目城跡地内・旧まつかわ西幼稚園				

里山キャンパス益子家「大平の森」協働プロジェクト

宇都宮大学農学部西山研究室
〒321-8505　栃木県宇都宮市峰町 350

1．活動の概要

森林が身近な存在でない人々（都市住民・消費者など）に里山作業に関わってもらう機会を作ることで、森林がもたらす共益性を理解し、森林からの恩恵が日常的に必要だと理解して行動する人々（本事業ではこうした人々をフォレストシチズンと名付けた）を増やす目的に事業を計画した。目的に沿って、2024 年 10 月から 2025 年 6 月の間に全 11 回の活動等を実施した。活動内容は、イベントの企画、実施のための講習会、森の知識を学ぶ研修会など多岐にわたった。企画や研修会、講習会、イベントを一通り終了し、作業もこなせるようになった後、日常の森林整備作業に従事する回を設けて、森林整備作業を進めた。参加者は、全 11 回でのべ 131 人、栃木県外からは少なかったものの、ほとんどが栃木県内の都市在住者であり、20-30 代の若い世代の参加も目立った。

2．活動の成果

事業の前半は、刈り払い機や森林整備の研修・講習会と、イベント企画のための講習会で構成した。宇都宮大学農学部の西山研究室の学生を中心に、イベントを企画し、都市住民を中心とした森林を身近に感じていない人たちへのアプローチの方法を学んだ。さらに、安全に森林整備を行うための、講習会では実践方法を学んだ。事業の中盤に、ボランティアを募る形で、そのボランティアと一緒に森林整備を行うイベントを企画し、研究室の学生がファシリテーターとなってイベントを実施した。事業の後半は、身につけた技術や知識を、森林整備に活かしていくべく、森林整備作業の回を 4 回も受けて、日常の作業の進捗を図った。

全 11 回を通じて、森林整備のためのリーダーの育成、ボランティアを中心とした関係人口の創出、森林作業の担い手が育成できたと考えている。

3．参加者の声

2 回のイベントの参加者へのアンケートの結果から、いくつか抜粋する。

「一人で参加したので、一緒に作業することに緊張もありましたが、自然の中で自然と人のつながりができていることを実感しました。」

「自然のありがたみを知りました。大学生と子供達が遊べて、最高でした！」

「子どもたちに自然体験をさせられてよかった。子供達もよろこび、また来たいと言っている。」

「普段白米を食べない子供がおかわりをした！」

「人が継続的に自然に手を入れていくことの、重要さと難しさを学んだ。」

「ただ整備するだけでなく、作業や食事を通して、参加者同士で話をしてコミュニケーションが取れてよかった。」

「最後にみんなで最高のいっぱいを囲むことで、1 日の振り返りや自分の感じたことをみんなで共有できて、充実した 1 日になった。」

実績報告とりまとめ表

実　施　時　期		10 月 4 日	10 月 8 日	10 月 22 日	12 月 10 日
事業内容		刈り払い機講習会	イベント企画のための研修会	イベント企画のための研修会	森林整備安全講習会
参加者数	県　内	14 人	8 人	8 人	9 人
	県　外	0 人	0 人	0 人	0 人
	計	14 人	8 人	8 人	9 人

実　施　時　期		12月22日	1月12日	2月9日	3月23日
事業内容		里山で最高の一杯のための里山づくりの会　1	里山で最高の一杯のための里山づくりの会　2	森を知るワークショップ	森林整備作業
参加者数	県　内 県　外 計	19人 1人 20人	19人 1人 20人	14人 0人 14人	10人 6人 16人

実　施　時　期		4月19日	5月17日	6月21日	計
事業内容		森林整備作業	森林整備作業	森林整備作業	11回
参加者数	県　内 県　外 計	6人 0人 6人	12人 0人 12人	4人 0人 4人	123人 8人 131人
実　施　場　所		栃木県県　宇都宮市と益子町（10月8日と22日のみ宇都宮市）			

子ども樹木博士認定活動支援のための
ネットワーク活動の展開による森林 ESD の推進

子ども樹木博士認定活動推進協議会
〒112-0004　東京都文京区後楽 1-7-12　林友ビル
（一社）全国森林レクリエーション協会内

1．活動の概要

子ども樹木博士認定活動を通じて森林ESDを推進するため、本活動の実施状況や実施団体のデータの取りまとめ、活動の進め等の資料の提供、機関誌の発行・配布、ホームページの更新等を行うとともに、リーダーの養成及び子ども樹木博士の普及を図るためリーダー交流会を開催するとともに、子どもたちに樹木等への関心を持ってもらうため、子ども霞が関見学デーに参加した。

2．活動の成果

⑴ 子ども樹木博士認定活動の実施状況

実施団体からの報告から、延べの実施回数・参加者数は 14 回・約 3.2 百人、地域ごとでは 9 都道府県、11 団体による実施となっている。

⑵ 子ども樹木博士認定活動の実施団体

平成 12 年度以降に実施報告のあった団体等は、累計で 45 都道府県・345 団体となっている。

⑶ 認定証等の配布・子ども樹木博士認定活動の開催案内等

認定証や樹木ガイド、その他の参考資料を配付するとともに、子ども樹木博士認定活動の開催の問い合わせに対しイベントの紹介等を行った。（認定証の配布：478 枚、樹木ガイドの配布：5 冊）

⑷ 機関誌の発行・配布、ホームページの充実等

機関誌「子ども樹木博士ニュース」を年４回（9/1・12/1・3/1・6/1）発行（１回当たり約 850 ～ 900 部）し、会員や実施団体、都道府県、森林管理局･署、関係団体等に配布するとともに、ホームページの更新等を行った。

⑸ 新たな実施団体の掘り起こし

ホームページや情報誌「子ども樹木博士ニュース」などを通じて照会のあった団体や資料請求のあった団体等に対して、冊子「認定活動の進め方」、パンフレット「子ども樹木博士のすすめ」などを配布し、実施団体の拡大に努めた。

⑹ イベントへの参加とリーダーの研修

リーダーの研修と子ども樹木博士認定活動の普及を図るため、令和７年６月７日（土）に都立林試の森公園及び小山台会館において「子ども樹木博士認定活動交流会」を開催した。

また、令和６年８月７日、８日の両日に農林水産省において開催された「子ども霞が関見学デー」に参加した。ワークシートを使用した簡易版の認定活動及びアオダモの樹液の観察のワークショップを実施した。両日で 300 名を超える参加者あり、好評を得た。

安全で楽しい里山保全活動を指導できるリーダー養成講座

モリダス
〒194-0211　東京都町田市相原町 930-2

1．活動の概要

安全で楽しい里山保全活動を推進するためには現場リーダーの養成が必要と考え、今年度の事業では、手道具の基本的な扱い方を習得する講座、生物多様性を高める（ネイチャーポジティブ）ための実践的な講座、安全で楽しい活動の場をつくる安全管理とコミュニケーションを学ぶ講座を実施した。このうち、ネイチャーポジティブをテーマにした講座では、雑木林の再生とビオトープづくり、地域性苗木づくりと近自然が他工法による道づくりをテーマにしたが、特に後者は近年注目されている方法であるためか、定員いっぱいの参加者を集めることができ、先進事例を学ぶよい機会となった。

また、森づくり・里山保全の安全管理に関しては、優れた既存のテキストがあったので、それらの内容を項目ごとにまとめ、その整理されたテキスト情報を、チャットボットの機能を用いてQ&A 形式の教材を制作し、試験的に公開した。さらに、多摩丘陵の里山保全に関わる活動団体のネットワークを強化するために、キーパーソン５人がネット上に集い、本音で語り合う「多摩丘陵の里山フォーラム夜会」を開催し、50 名近くの参加者を集めることができた。

2．活動の成果

手道具の扱い方を学べる講座は、各地の経験者が多く参加されたので、リーダー養成として効果的であった。ネイチャーポジティブをテーマにした２つの講座はともに好評だったので、これからも生物多様性を高める手法を広める取り組みを続けていきたい。森づくり・里山保全のテキストをもとに安全管理に関するチャットボット教材を制作・公開することができたので、今後はこれをもとに内容の改善を進めていきたい。さらに、多摩丘陵の里山保全リーダーによるフォーラムも、この地域のネットワーク強化に繋げることができたので、これからも定期的に実施したい。

3．参加者の声

・講演にとどまらず、参加者の皆さんの関心事もお聞きすることができて、ためになりました。
・いろんな団体の取り組み内容や成果を共有し合う場があると、さらにネイチャーポジティブが進むのではないかと思います。
・地に足のついた、リアルな現場の状況が聞ける機会は貴重なので、ありがたかったです。

実績報告とりまとめ表

実　施　時　期	事業内容	参加者数	実施場所
2/23-2/24	道具（鋸・鉈・鎌・剪定鋏）の扱い方	(7/3)　10	八王子市
3/20	ネイチャーポジティブ実践講座―雑木林の再生とビオトープづくり	(6/7)　13	八王子市
6/22	ネイチャーポジティブ特別講座―地域性苗木づくりと近自然型工法	(10/8) 18	八王子市
6/7-8	コミュニケーションでつくる安全で楽しい野外活動	(1/5)　6	横浜市
6/27	多摩丘陵の里山フォーラム夜会	(4/1)　52	オンライン
計	（都内 28/ 都外 24/ 不明 47）99		

能登における縄文的災害復興

NOTO にじのひかり
〒927-1462　珠洲市三崎町小泊 34 部 53 番地

1．活動の概要

令和 6 年能登半島地震後、復興に向けての事業として活動。当初は講演会やワークショップなどを多数予定していたが、9 月には奥能登豪雨による二重災害もあり、まずは被災からの復旧を最優先として活動した。今回の災害により、土砂崩れなども多く起こっており、今後の復興や防災の観点からも森林保全・環境改善が重要だと感じ、特に力を入れて活動を行った。主に活動を行った場所は石川県珠洲市の須須神社奥宮とさだまるの森の 2 ヶ所。環境改善の専門家を招き、災害による被害の環境改善を行った他、被災地における地域拠点やこどもの居場所の必要性があり、林業の専門家や大工さんを交えて山林を活用した拠点づくりを開始。長年放置されていた荒地・藪をボランティアにより開拓し、少しずつ活用の目処が見えてきた。秋には校庭や公園などが仮設住宅になり、遊び場がなくなった被災地のこどもたちに遊んでもらえるようになった。現地活動の他、子供の居場所・地域拠点としての山林活用やボランティア呼びかけのため、パンフレットを作成･全国への広報を行った。尚､印刷分（4,500 部）はほとんどこの 1 年で配布完了しており、団体での能登支援ボランティア受入総数は延 1,000 人以上。次年度以降につながる復興に向けた活動となった。

2．活動の成果

・坂田昌子さん環境改善（R6 年 8 月・11 月・R7 年 3 月・5 月 全 4 回）
生物多様性のスペシャリストで、自然物で環境改善や施工を行う講師をお招きし、須須神社奥宮の石垣が崩れたところをしがら工法で修繕・水の流れを緩やかにする施工・崩れた斜面の保全・埋もれてしまった登山道の整備・倒れてしまった木の樹勢回復・水が溜まってしまったところの水はけ改善など多岐に渡って環境改善を行った。
→ 今後引き続き取り組み、環境改善や施工が必要な箇所を改善していく。

・森の地域拠点・こどもの居場所づくりとしての森林活用
長年放置され藪になっていた場所を笹刈り・伐採・開拓を行った。
踏み入れられなかった森に人が入れるようになり、震災で外で遊べなくなった地域のこどもに遊んでもらうことができた。
→ 今後引き続き取り組み、地域やこどもたちに開かれた森として整備していく。

・森の地域拠点・こどもの居場所づくりの一環としてツリーハウスなどを計画している。
それに伴い、大工兼建築士さんと安全面や計画の確認を行い、土地の整備を行った。
→ 今後引き続き取り組み、来年度にはみんなで制作予定。

3．参加者の声

・能登の震災後何か力になれないかと思っていたが、今後につながる活動ができてよかった。
・災害を経て、改めて自然との関わりを考える機会となった。
・長期的な復興を見据えて、自然と共に能登と共に活動を継続したい。
・元に戻すことが復興ではなく、自然との関わりが大事だと思った。

実績報告とりまとめ表

実　施　時　期		8月12日・13日	11月27日	11月28日	3月20日・21日
事業内容	坂田昌子さん環境改善WS	須須神社奥宮環境整備（石段整備・斜面の環境改善）	須須神社奥宮環境整備（参道整備）	地域拠点の環境整備（地震による倒木及び豪雨による水はけ改善）	地域拠点の環境整備（斜面の環境改善水はけ改善）
参加者数	県　内 県　外 計	15人 15人 30人	6人 2人 8人	5人 2人 7人	20人 10人 30人

実　施　時　期		3月22日・23日	5月30日・6月1日	5月29日・31日
事業内容	坂田昌子さん環境改善WS	須須神社奥宮環境整備（参道整備）	須須神社奥宮環境整備（参道整備）	地域拠点の環境整備（地震による倒木の樹勢回復）
参加者数	県　内 県　外 計	21人 8人 29人	11人 3人 14人	9人 3人 12人

実　施　時　期		10月11日・12日	11月17日	3月15日・16日	5月11日
事業内容	飯島さおりさん森の整備	さだまるの森の地域拠点・こどもの居場所の整備	さだまるの森の地域拠点・こどもの居場所の整備	さだまるの森の地域拠点・こどもの居場所の整備	さだまるの森の地域拠点・こどもの居場所の整備
参加者数	県　内 県　外 計	12人 10人 22人	15人 1人 16人	8人 10人 18人	5人 人 5人

実　施　時　期		4月26日・27日	計
事業内容	有山純平さん 森の整備・拠点準備	さだまるの森の地域拠点・こどもの居場所の整備・準備	
参加者数	県　内 県　外 計	10人 4人 14人	91人 39人 130人
実　施　場　所		石川県珠洲市	

いじら・さとやま遊歩道プロジェクト

伊自良の里・食と農推進協議会
〒910-2461　福井県福井市南野津又町 19-46

1．活動の概要

目的；福井市美山地区上味見地域の里山地域に、さとやま遊歩道を地域住民と地域外住民とが協力して整備し、里山を身近に感じると共に心身共にリフレッシュできる場づくりを行うこと。

内容；地域住民と地域外の子ども、若者等が協力をして、地域に合った樹木 20 本を植樹し、木製の手作りベンチの作製・設置を行うことで、遊歩道の整備を行った。また、植樹やベンチづくりだけでなく、周りの自然を生かした自然体験活動も行った。

2．活動の成果

休耕田にアジサイの植樹をし、ベンチなどを設置できたことで、自然の中でゆっくりと過ごせる場所を作ることができ、自然と親しめる機会の創出を図ることができた。また、地域住民と地域外の子ども・若者との協働で作業を行うことでできたことで、都市と農村の交流を図ることができた。

3．参加者の声

・植樹は初めての体験だったが、みんなで力を合わせてアジサイを受けることができた。花が咲く時期に観に来たいと思う。

・みんなでベンチを作り、さとやま遊歩道に設置することで、みんながくつろげる場所を作ることができた。また、周りの自然を感じる自然体験活動も楽しかった。

実績報告とりまとめ表

実　施　時　期		11 月 4 日	6 月 8 日	6 月 24 日	計
事業量 又は 事業内容		アジサイ等の植樹 自然体験活動	ベンチづくり 自然体験活動	里山遊歩道整備 ベンチ等の設置	
参加者数	県　内 県　外 計	25 人 人 25 人	36 人 人 36 人	10 人 人 10 人	71 人 人 71 人
実　施　場　所		福井県福井市美山地区上味見地域、伊自良の郷			

ぎふ木育研修会

ぎふ森　遊びと育ちネットワーク
〒501-0512　岐阜県揖斐郡大野町上秋 946-10

1．活動の概要

森のようちえんやプレーパークなど森林環境教育の実践者がそれぞれの強みを活かして学び合う機会を提供するとともに、新たに活動を始めた方やこれから活動を始めたい方々への支援を実施しました。これにより、岐阜県が推進する「ぎふ木育」の活動のさらなる充実と、次世代の担い手の育成を図りました。

2．活動の成果

研修会を複数回開催し、講師からの話題提供に加え、参加者間の活発な相互交流により学習を深めました。これにより、実施団体各々の教育内容や運営体制の向上に寄与しました。また、県内の活動団体を紹介する「マップ＆ガイド」を作成し配布することで、森林環境教育に関心を持つ人々が活動に参加しやすくなりました。今後も引き続き、これらの活動団体への継続的なサポートを行っていきます。

3．参加者の声

参加者同士の語り合いを通じて、大人も子どもも情報共有を大切にし、質の高い「つながり」を築くことが、安心・安全な環境を作り、リスクを低減する効果があることを再認識しました。日頃からの観察の重要性を改めて感じました。これまで「木育」は子どもに特化したものと考えていましたが、その多様な広がりを知り、新たな発見がありました。子どもたちと共に、自分自身も「木育」を通して成長していきたい。等の感想をいただきました。

実績報告とりまとめ表

実　施　時　期		10 月 31 日	12 月 1 日	12 月 5 日	3 月 16 日	4 月 12 日
事業内容		リスクマネジメント研修	木読講座	木育プログラム	プレーパーク研修会①	プレーパーク研修会②
参加者数	県　内	54 人	28 人	18 人	14 人	11 人
実　施　時　期		4 月 29 日	5 月 4 日	6 月 1 日	6 月 8 日	合計
事業内容		プレーパーク研修会③	プレーパーク研修会④	木育勉強会	生き物講座	
参加者数	県　内	9 人	8 人	31 人	20 人	193 人
実　施　場　所		岐阜県　岐阜市・美濃市・美濃加茂市・大垣市・海津市・笠松町・古川町				

人と自然が共生する里山づくり事業

特定非営利活動法人森を再生する会
〒444-1154　愛知県刈谷市一里山町家下120番地

1．活動の概要

2004年の会発足以来、20年間取り組んできた植樹の活動地の成長状況を専門家とともに調査し、報告書として整理した。会で取り組んできた植樹の活動は大きく「水源林再生」、「防災環境林創出」、そして「里山の再生」である。それぞれの植樹活動地において、樹木の計測作業や生育している植物を量的に把握することでより深く森づくり活動の意義について理解を深めることができた。また、調査成果を共有することで、森づくりの意義を市民に伝える。

2．活動の成果

水源林再生（2004年・2006年植栽）植栽地ではクリ、ミズナラ、ミズキなどの落葉広葉樹が良好に生育し、最大樹高が10～17m、最大胸高直径は16～18cmを超えて成長していることが分かった。防災環境保全林創出（2007年植栽）ではスダジイ、アラカシ、クスノキといった落葉広葉樹が良好に生育し、最大樹高が9～11m、最大胸高直径は14～28cmとなっていた。里山再生地（2013年植栽）は鹿の食害により衰退し、アカシデ数個体が残存していた。最大樹高は1.4mであった。樹木サイズを計測することにより単位面積あたりの二酸化炭素固定量も推定した。水源林再生では12.6～23.3kg/㎡、防災環境保全林創出では15.4～62.3kg/㎡と推定された。森の中の明るさを計測したところ、水源林再生の林内では1,000ルクス程度、防災環境保全林では300～4,800ルクス程度、里山再生地では5,000ルクス程度となり、里山再生地は比較的明るい林床が確保できていることが分かった。鳥類調査は水源林再生地で実施し、カラ類、キツツキ類など20種以上の鳥類が記録された。

3．参加者の声

・調査作業者が「納庫」の山で突然「この木は私が20年前に植樹した木です」高さ20ｍの木を指し喜んだ。
・調査場所によって、植樹方法が違い理解出来て、意義ある違いが出来た気がする。
・植樹した人が植樹した木に日付・名前・記念言葉の名札を取付けし、記念樹になった。
・人工林（檜・杉）だけの森は生き物に取って利用度がないので、広葉樹にする必要が理解した。

実績報告とりまとめ表

実　施　時　期		R6.　11月1日～5月18日	R7.　4月27日	R7.　6月8日	計
事業内容		調査活動・作業活動	里山づくり講演	里山づくり調査報告会	
参加者数	県　内	37人	57人	15人	109人
	県　外	人	人	人	
	計	37人	57人	15人	109人
実　施　場　所		愛知県豊田市、安城市、新城市、刈谷市			

ピカソのもり～命を育む森林でのフィールドワーク活動

一般社団法人ピカソプロジェクト
〒550-0005　大阪府大阪市西区西本町1-13-38
西本町新興産ビル103号

1．活動の概要

過疎地域の森林荒廃を解消し、未来につながる森再生への意識改革にむけ、都心部に住む幼児から小学生を対象に、自然とのふれあいを楽しみながら森林を保全する活動を行う。

2．活動の成果

今回の活動は、子どもたちに里山保全活動を通して自然を体験してもらうという趣旨で実施しました。団体としても初の試みでありましたが、自治会の方にも気持ちよく迎えていただき、スムーズに活動を始めることができました。

成果としておおきく３つ挙げることができます。

①環境改善のプロフェッショナルたちの手ほどきによる改善作業を経て、スタッフの意識および技術の向上が見られました。

②少しずつ近隣住民や近郊学校の先生らのボランティア協力者が増え、準備段階では地域のお年寄りらによる物資支援などの応援もありました。

③参加者の中には、自分自身が田舎をもっていないため、はじめて里山に入るという親子らが多く、電線が一本もはしっていない山に感動をされていました。不登校などの問題を抱えている家族も中にはおり、居場所の一つとしての提案ができました。

今後は、この活動を経て得られた人的財産やつながりを活用し、広げていきながら、この場所を中心に里山の保全活動を広げていきます。

保全活動に子どもが参加することはとても珍しい、というコメントも講師らからいただきました。遊びと活動が一体となっていることで、子どもたちの夢中になる姿を引き出すことができたことから、今後も、活動を中心に子どもたちの体験を届けていきます。

3．参加者の声

・ガチガチに組まれたスケジュールではなく、気持ちのままにという空気感もとてもいいと感じた。
・落ち葉が良い土を作る、鳥の役割や、無闇に雑草を刈ってはならない、孫がそれを心に留して聞いていた感はないですが、私たち大人が自然の摂理を解って、そこここで伝えて行って地球を守っていく必要があると感じた。
・マイペースな子供たちにも寄り添ってもらえて嬉しかった。
・森の中でも臆することなく遊ぶ子供をみて驚きました。大人の親も知らなかった体験ができ、良かった。
・小川に橋を架けたり、木登りしたり、普段の公園ではできないことをたくさん経験させられた。
・自然を感じて多少失敗しながらのびのび遊ばせてもらいました。しめ縄をつくる経験もあまりできないので、自分たちで作ったしめ縄を喜んで飾っていました！
・秘密基地感覚で川に橋を架けたり木登りしたり全てを楽しんでいました。
・落ち葉のプールづくり何かを作り上げていく事が楽しかった。
・子どもの参加人数にもよるが、スタッフの方がかなり手厚く面倒をみてくれる。
・今回寒かったので、持ち物にカイロなどを書いてもらえると良かったか。また雨もあったので一応雨具も書いてもらえると助かります。
・今回のイベントに参加してよかった！今後の活動にはぜひまた行きたいです！

実績報告とりまとめ表

実　施　時　期		10月13日	10月19日	10月20日	11月10日
事業内容		生きている山をつくるために①落ち葉のプールを造ろう	はじめてのブッシュクラフト①～どんな環境でも生き残るために	はじめてのブッシュクラフト②～自分の手と頭でやってみよう！	生きている山をつくるために②～水の通り道をつくろう
参加者数	県　内 県　外 計	2人 4人 6人	0人 3人 3人	12人 9人 21人	3人 7人 10人
実　施　時　期		11月23日	11月24日	12月8日	12月28日
事業内容		里山環境保全ワークショップ①	里山環境保全ワークショップ②	しめなわをつくろう	生きている山をつくるために③～かぜの通り道をつくろう
参加者数	県　内 県　外 計	1人 4人 5人	2人 0人 2人	4人 7人 11人	0人 0人 0人
実　施　時　期		12月29日	1月5日	計	
事業内容		生きている山をつくるために④～しがらの道をつくろう	みんなで森の神様をつくろう！奉ろう！		
参加者数	県　内 県　外 計	5人 3人 8人	0人 10人 10人	29人 47人 76人	
実　施　場　所		兵庫県　川辺郡猪名川町			

陀羅尼助（だらにすけ）の郷で森林づくり in 天川村洞川 part 5

奈良県森林ボランティア連絡協議会
〒634-0033　橿原市城殿町459番地
公益財団法人　奈良県緑化推進協会内

1．活動の概要

県内各地等で活動する森林ボランティア団体のリーダー養成・ネットワーク構築や、森林づくり活動を通した農山村と都市住民との交流のために、奈良県天川村洞川温泉周辺にて、下記事業を実施する。

・人工林伐採地の地拵えを行い、山桜とキハダを植樹。
・令和３年３月及び１１月に植樹したキハダの生育状況を観察した。
・新洞川温泉センターの薪ボイラーを含む給湯システムを視察
・天川村林政アドバイザー５年間の活動報告と地域おこし協力隊として移住し、クラフトコーラ製造所起業までの軌跡について講演を行う。
・天川村が進めている針葉樹ではなく広葉樹による森づくりを企業支援で行っている事業視察。

2．活動の成果

・天川村洞川地域で進められている針葉樹だけではなく広葉樹を中心とし、尚且つ地元産業を活性化させ、人を呼び込むことも考えた森づくりを体験通じて、学ぶことが出来た。
・林政アドバイザーや地域づくり協力隊を活用した村づくりを学べた。
・専門家（フォレスター他）の指導で実際の山での植樹を体験できた。
・天川村バイオマス利用促進事業について学んだ。

3．参加者の声

・ハードな作業だったが、植樹した山桜、キハダの成長した姿を見るのが楽しみだ。
・実際の現場での作業は初めてだったので、貴重な体験ができた。
・森づくりとして、植樹する貴重な体験できた。今度は観光で訪れたい。
・地元の方と交流を図れたことは良かった。しかし、人口が毎年50人減には危機感を感じる。

実績報告とりまとめ表

実　施　時　期		令和6年11月30日	令和6年12月1日	合計
事業量 又は 事業内容		・人工林伐採跡の地拵え ・山桜　　15本植樹 ・キハダ　30本植樹 ・2～3年前に植樹したキハダ生育状況観察 ・薪ボイラーの視察	・講演2題 1.天川村リンエイアドバイザー5年間の報告 2.地域おこし協力隊からコーラ製造所起業 ・洞川スキー場隣接地のキハダ植樹地視察	・人工林伐採跡の地拵え ・山桜　　15本植樹 ・キハダ　30本植樹 ・講演会2題 ・新しい森づくり地の視察 ・薪バイラ―視察
参加者数	県　内 県　外 計	14人 2人 16人	15人 2人 17人	29人 4人 33人
実　施　場　所		奈良県吉野郡天川村洞川		

里山保全ボランティア養成講座の開催

NPO 法人山野草の里づくりの会
〒633-0102　奈良県桜井市大字三谷 528 番地

1．活動の概要

里山保全活動に継続的に取組み里山を未来に残したい、そのためにはボランティア活動参加者を増やす必要があります。先ずは里山で活動するきっかけとなるような学校のようなことをできないかと考えて、奈良森林インストラクター会にお願いし、森林インストラクターの皆さんに講師になっていただくことができ、奈良県の後援名義をいただき２０１７年に第１回の里山保全ボランティア養成講座を開講しました。コロナ禍で２０２０年は中止しましたが、２０２４年は第７回目になります。１～７回目まで延べ１０８人が受講されました。

講座内容ですが、５月から約半年間、月１回、全６回の講座です。. 毎回、座学と実習又は観察を組み合わせ、里山や自然についての知識を学び、重要里地里山に選定された「山野草の里」のなかで作業を体験していただきます。里山での活動･作業に不可欠な技能となる“刈払い機”を使った草刈り、“チェーンソー”にも慣れていただけるよう工夫しています。また、竹林間伐は竹林で竹を伐採、運び出し、稲架を立てる作業など実際の作業をスタッフと一緒に体験してもらっています。

里山に関心のある人を集めて活動に参加するボランティアを増やしていきたいと考えています。

2．活動の成果

里山に来て自然に触れて実際の作業を体験することが何より大切です。書物や情報では知識を伝えることができても、人を動かす力にはなりません。講座の参加者は、自然のなかで一緒に作業することで大いに楽しんでいただき、自然の大切さを感じとって頂いたようです。

奈良県内各地からまた現役世代も沢山参加されています。修了生野中には、転職され県職員となってフォレストアカデミーで林業を学ぶ人、自然農に進まれた方、実家の裏山の整備等々おられます。本講座を通じて本会に入会された方、活動に参加される方が増えてきました。

本会の主要なスタッフは高齢のベテランですが、その中に講座の修了生が加わるようになってきました。若いスタッフのレベルアップが必要になってきました。また、高齢者が仕事を持ち働くようになってきたので、高齢者中心では活動を維持できなくなることが予想されます。現役世代がボランティア活動に参加するためにはどうすればよいか？　活動スタッフを増やすとともに、スキルアップの取り組みに力をいれたいと考えています。

3．参加者の声

この講座で色んな体験ができすごく楽しかった。里山の仕事の多さを実感し保全活動の大切さが理解できた。沢山の方が協力しあう活動のやりがい、楽しさを体験でき、里山の活動に参加したい。里山の自然に触れ、環境を良くすることを少しでもやっていきたい。

実績報告とりまとめ表

実施時期	5/11	6/8	7/13	9/14	10/12	11/9	計	5/10	6/14	備考
事業量 又は 事業内容	里山林について講義＆観察	刈払機の安全講習＆実習	応急手当＆ 里山の生き物観察	里山林の作業＆竹林整備実習	チェーンソー活用	保全活動実習	2024年度 集計	山林について講義＆観察	刈払機の安全講習＆実習	
参加者数 全員県内	16	17	16	15	12	11	87	16 大阪１人含む	16 大阪１人含む	
実施場所	桜井市大字三谷「山野草の里」および周辺地域 なお、上記以外に 2024/9/7 & 9/28 吉野郡の林業機械化センターでチェーンソー個婦週を別置実施 6 名参加。2025/8/30 & 9/6 は 12 人参加予定									

都市と山村みどりの少年団交流集会

和歌山県みどりの少年団連盟
〒640-8585　和歌山市小松原通一丁目１番地

１．活動の概要

県内各地のみどりの少年団員が集まり、森林体験学習を行うことで森林や林業の大切さを学ぶとともに、各少年団同士の交流を深め、今後のみどりの少年団活動を一層推進するため、県内のみどりの少年団が一同に会し、交流集会を実施した。

みどりの少年団員４１名を対象に、活動発表会、里山観察会、林業体験を実施した。

２．活動の成果

県内各地のみどりの少年団員が集まり、活動発表会を行うことで、情報交換や知見を深める機会を提供することができた。

また、里山観察会、林業体験による森林体験活動を行うことで、森林ＥＳＤの推進、次代を担う世代への重点的啓発活動を展開することができ、着実な意識の高揚が期待できる。

２日間の体験により、団員や団指導者に森林や林業の大切さを伝え、各少年団同士の交流を深め、今後のみどりの少年団活動の一層の推進が図れた。

３．参加者の声

・今回のイベントは大変楽しかったです。自然を好きになることができました。（団員）
・名刺交換でいろんな人と仲よくなってうれしかった。（団員）
・普段できない貴重な体験をさせていただきありがとうございました。里山観察会、林業体験でのお話も大変興味深かったです。（団指導者）

実績報告とりまとめ表

実　施　時　期		令和６年８月６～７日	計
事業量 又は 事業内容		都市と山村みどりの少年団交流集会	
参加者数	県　内 県　外 計	68 人 人 68 人	68 人 人 68 人
実　施　場　所		和歌山県伊都郡かつらぎ町、和歌山県岩出市	

次世代を育むひろしま自然保育勉強会

ひろしま自然保育推進協議会
〒739-0041　広島県東広島市西条町寺家 261

1．活動の概要

広島では、ひろしま自然保育認証制度などの取り組みもあり、身近な自然を幼児が育つ場所として活かしていこうという想いはあるものの、その活動の意義や効果、ネットワークづくりや連携といった面では、これまで個々の努力によるところが多く、全体としての盛り上がりや普及啓発に繋がっていない。また、保育者自身が自然や自然環境整備への知識・理解を深める機会も少ない。

そこで、広島の自然保育を醸成し、全体の質向上、繋がりを作っていくことを目的として、講演会や交流会などを実施した。3 回イベントを実施し、自然保育の意義について考える嘉成頼子さんを招いた講演会、相談が多い自然保育ができる園庭環境づくりについて、オンラインで出原大さんによる講演会を行った。また、合宿形式で行ったひろしま自然保育ミーティングでは、増本達彦さんによるワークショップ、松本信吾さんによる対話形式の講演会のほか、参加者自身が講師になって自然体験を実施しあったり、写真を持ち寄った対話交流会などを行った。

2．活動の成果

今回の活動を通して、自然保育の礎となる理念の確認や、実践についての知識を一緒に学ぶことができたとともに、互いに学び合い、情報交換できる LINE チャットグループも作ったことで、繋がれるネットワークを形成できた。今回、成果をリーフレットなどにしてまとめるところまで実施できなかったため、今後はそのような教材的なものの制作や、イベント後に実施したアンケートで出てきていた参加者からの要望を受けた学びの会や交流会を実施していきたい。

3．参加者の声

嘉成頼子さんの講演会では公立園から森のようちえん開園への実践への想いの元を聞けてよかったという声や子どもが自然の中で育つことの意味を改めて考えたなどの声が聞かれた。

出原大さんの講演会では、むぎの穂保育園での実際の園庭づくりについて様々な木や植物について知り、自園の園庭の参考にしたいという声や、出原さんの愛ある保育に感動したという声も多く聞かれた。

自然保育ミーティングでは、専門分野の知見をもつ人や保育に携わる人など、多様な切り口から自然や人間、保育について語りあえたことが良かった、楽しく学べたという声が多く聞かれた。

実績報告とりまとめ表

実　施　時　期		9 月 28 日	2 月 1 日	5 月 16 ～ 17 日	計
事業量 又は 事業内容		嘉成頼子さん講演会	出原大さん講演会	ひろしま自然保育ミーティング@似島	3 回
参加者数	県　内 県　外 計	106 人 4 人 110 人	75 人 7 人 82 人	31 人 5 人 36 人	212 人 16 人 228 人
実　施　場　所		広島市東区	オンライン	広島市南区	

自然保育者養成＆足元から始める自然理解＆整備～流域地図～

森林ボランティア団体もりゆう
〒739-0144　広島県東広島市八本松南 3-8-9

1．活動の概要

・幼児期から自然と出会う体験を作ったり遊び方を伝承する大人も減少しているため、自然保育研修を実施することにより人材育成する。
・環境問題はまず足元の自然を知り、そこへの働きかけをして自分たちで健やかな環境づくりをしていくことが大事だと考え、流域地図の考え方も伝えながら、源流域にあたる山村の沢を大地の改善視点で整備したり、流域の生き物調査を実施した。

2．活動の成果

源流の山村の沢の大地の改善視点での整備、その流域での水質・生き物調査、また源流域での産業廃棄物処理場が問題となっている賀茂川の上流部と河口部に広がる豊かな干潟の生き物観察会を実施した。
※自然保育研修は主催者の体調不良により実施できなかった。

3．参加者の声

流域を、実際に生き物を観察しながら辿ることにより、川の繋がり、流域全体で考えることの重要性を参加者は実感できたようで、身近な川を大切にしたいという声や自分の生活の見直しを親子でしてみようと思うという声が聞かれた。また、大地の再生整備の回数を重ねることで植生も変わってきて、手を動かしながら環境を整備することが楽しいとか水の流れる音が変わ理、風が吹き抜けるようになり、自分も呼吸しやすい気がするという声も聞かれた。

実績報告とりまとめ表

実　施　時　期		8/17	8/13, 10/20, 4/27, 28, 6/21, 22	4/29	計
事業量又は事業内容		太田川流域（半川～三篠川）水質・生き物調査	むささびの森・沢の大地の再生	賀茂川上流～ハチの干潟生き物観察会	6 回
参加者数	県　内	2 人	のべ 22 人	のべ 34 人	のべ 58 人
	県　外	0 人	のべ 0 人	のべ 0 人	のべ 0 人
	計	2 人	のべ 22 人	のべ 34 人	のべ 58 人
実　施　場　所		広島県東広島市志和町、安芸高田市、広島市、竹原市			

「やまの家」先人の知恵を未来につなぐ体験事業

山内自治振興区
〒729-6131　広島県庄原市山内町 813-4

1．活動の概要

森林資源の様々な活用方法を地域の方々から学び、季節季節の暮らしごとの先人から受け継がれた知恵や営みを伝えていくことができた。また築１５０年の古民家を発信基地として、地域内外の人々との交流を図ることができた。

石窯づくり、シイタケの植菌、巣箱づくり、竹の遊具づくり、道具作りなど。

2．活動の成果

森林資源を燃料する料理ができる石窯づくりに奔走した。石窯を作る工程で、昔ながらの計測方法、石組みの技術、材料の加工方法など様々なことを学ぶことができた。

地域の人々が得意な分野の作業に従事下さり、生きがい対策や異年齢の交流に大いに役立つ作業であった。

今後、森林資源を使った様々な料理作りに活用でき、地域や他地域の関係人口との交流の貴重な発信基地へと発展する明るい展望が開けた。

3．参加者の声

・森林資源の燃料を活用することで環境を考える一助となった。
（カーボンニュートラルへの意識が高まった。）
・地域には様々な知恵を持っておられる高齢の方々がおられ、どんどん進んで聞いておかないともったいないと感じた。
・若い世代から頼られて、とてもうれしかった。
・身近な山々にこんなに食材になるものがあることに驚いた。
・子どもたちが生き生き試して失敗して力を合わせて活動できる教室とはまた別の居場所は大変重要だと、子どもたちの姿から感じた。

実績報告とりまとめ表

実　施　時　期		7 月 20 日	9 月 28 日	10 月 27 日	11 月 30 日
業務内容		・石窯づくり ・紙薪づくり	・川の生き物探し（西城川）	・椎茸原木の伐採、搬入作業 ・石窯に火入れ作業台づくり	・石窯でパン・ピザづくり
参加者数	県　内 県　外 計	19 人 人 19 人	23 人 人 23 人	26 人 人 26 人	44 人 人 44 人
実　施　場　所		広島県　庄原市平和町			

実　施　時　期		12月15日	1月25日	2月23日	3月23日
業務内容		・マコモでのしめ縄づくり	・餅ばなづくり ・石窯でピザづくり ・福豆づくり	・竹馬づくり ・竹等での遊具づくり	・椎茸菌の植付け
参加者数	県　内 県　外 計	23人 人 32人	28人 人 28人	20人 人 20人	17人 人 17人
実　施　場　所		広島県　庄原市平和町			

実　施　時　期		4月26日	5月31日	6月15日	計
業務内容		・野山の山菜を捜して料理づくり	・鳥の巣箱づくり ・スズメハチトラップづくり ・山菜チジミ	・柏もちづくり ・梅もぎ ・梅シュウースづくり ・野草茶づくり	
参加者数	県　内 県　外 計	26人 人 26人	22人 人 22人	23人 人 23人	274人 人 274人
実　施　場　所		広島県　庄原市平和町			

水源地周辺の里山の整備

やしろの杜を楽しむ会
〒745-0801　山口県周南市大字八代 2383-7

1．活動の概要

当会の中心メンバーは女性であるが、会員それぞれに、自然環境や子どもに良い環境をつなぐことの大切さを感じ、農業や子育て、地域活動に積極的に携わっており、以前から里山再生にも関心があった。取り入れている「大地の再生」の手法は、一部の会員が以前から学んでおり、自然そのものの力を活かす手法であること、基本的に鋸鎌やスコップなど簡易な道具また手でもできる作業があるため、女性や子どもでも無理なく作業ができるといった特徴があり、継続的に活動を続けるために適した手段と考えている。普段は月２回程度の定期活動や、無理のない範囲での自主活動をし、外部講師を招聘した講座を２回開催した。講師より、目的を設定することで活動の継続性が高まると助言を頂き、水源の涵養を主な目的にすることとした。当地域は稲作が盛んで、会員の何人かは米農家で、また今後稲作をしたいと考える会員もおり、活動することで、地域全体に貢献したいと考えている。また「特別天然記念物八代のツルおよびその渡来地」と指定されている地域でもあり、他にも絶滅危惧種等が生息する、自然豊かな土地柄である。近年は猪や熊の存在を身近に感じるため、人と野生動物が棲み分けられる環境を取り戻すことで、安心して住み続けられるようにもしたい。

2．活動の成果

一年程、会員だけで作業する中でも変化を感じていたが、講座を開催することで、作業効率が格段に上がった。講座には多数の参加者があり、一気に広範囲を手入れすることができた。また、活動場所周辺の広範囲を観察する機会となり、自然林や植林した杉檜林の違い等、土地の観察ポイントを具体的に学ぶことできた。活動中は猪との接触が２回あり、里山に人が入り続けることの重要性を実感した。

目的とした水源の涵養については、講師が現場を確認したところ“現時点ではどれ程成果につながるか、何とも言えない”とのことだったが、活動開始以降、水路の水が絶えなくなっているのは確かであり、様子観察しながら設定し直したい。

地域住民も藪が拓ける様子を楽しみにする等、交流につながっている。また、ここの希少な植物を増やしたいという住民の入会を得ることができた。

講座参加者は、以前から「大地の再生」に興味があるか、すでに取り入れている人が中心であった。半数以上が１・２回目の連続参加、R7 年 10 月に行う３回目も、参加者が決まりつつある。特に近隣在住者同士でつながることができたのは、互いの意欲が高まり有意義であった。講師や補助員からも助言を受けられるようになり、助かっている。

来年度も、定期活動と年３回の講座開催を継続しつつ、機会があれば活動の幅を広げたい。

3．参加者の声

月２回でも継続的に手入れすることで、一年前に比べ草や藪の茂り方が穏やかになって来たのがわかり、やりがいがある。以前から興味のあった「大地の再生」の手法を学ぶことができて良かった。自分のフィールドでも生かせる内容なので、早速取り組みたい。具体的なやり方や優先順位がわかって、作業のペースが格段に上がった。自分たちの住む土地のポテンシャルが高いと知って嬉しい。草や竹は敵と思っていたので、程良く付き合う方法があると知って驚いた。水源のことなど考えたこともなかったので、その大切さを知り、自然を見る目が変わった。希少な動植物が存在する場所なので、増やせるものは増やしたい。学校の勉強よりだんぜん面白い。子どもを連れて来たい。また参加したいの声多数。

実績報告とりまとめ表

実　施　時　期		7～6月	4月12日	6月13日	計
事業量 又は 事業内容		定期活動22回 自主活動4回	講座	講座	定期・自主活動26回 講座2回
参加者数	県　内 県　外 計	9人 0人 9人	15人 5人 20人	15人 3人 18人	39人 8人 47人
実　施　場　所		山口県周南市大字八代上魚切地区			

緑の少年団活動発表大会開催事業

緑の少年団愛媛県連盟
〒790-8570　愛媛県松山市一番町４丁目4-2

１．活動の概要

県下の緑の少年団が、互いに交流し相互の理解と連携を深めることにより、緑の少年団活動の強化を図るため、本県では「愛媛県緑の少年団活動発表大会」を各年開催している。

緑の少年団は、県内各地で特色ある活動を実施しており、そのような先行事例を「愛媛県緑の少年団活動発表大会」において発表・情報共有することで、森林ESDの普及につなげるとともに、少年団活動の幅を広げる機会とする。

さらに、発表概要は少年団だより等にまとめて配布することで、発表大会に参加できなかった少年団、結成を検討している学校に対しても広く取組みを周知し、さらなる少年団活動の発展を図る。

２．活動の成果

今年度の「愛媛県緑の少年団活動発表大会」は、少年団３団（30名）が日頃の成果を発表した。

台風の影響により対面開催が中止となったが、録画形式で審査等を行うとともに、緑の少年団だよりとあわせてDVDを作成した。それらを広く配布したことで、学校・林業関係者内外に対して、活動内容を周知することにつながった。

最優秀賞を受賞した朝倉緑の少年団は、平成20年８月の笠松山森林火災後、「朝倉のシンボル、笠松山の緑を増やしていこう」を合言葉に植樹活動に取組み、現在も木々の生育状況調査や、学校内外の樹木調べを行っているなど、ふるさとの緑を守り育てる活動を長年実施していることを報告した。

また、花や野菜の栽培、観察活動、米づくり体験、地域の清掃活動、清流「頓田川」の生き物観察等にも取り組むなど、地域の方々と自然に触れ合う活動を展開しており、こうした活動が地域の魅力を再認識するための貴重な機会となっているだけでなく、地域活性化にも大きく貢献していることが評価された。

そのほか大会では、他地域には見られない特色ある活動を展開している少年団の先進事例が報告され、知見を深めるだけでなく、森林ESDの普及にもつながり、少年団活動の幅を広げる機会となった。

３．参加者の声

○ビデオカメラの前で発表するのは緊張したけど、練習の成果を出せてよかった。（団員より）
○これからも、地域の緑を大切にして、未来へと繋げていきたい。（団員より）
○緑の少年団活動発表大会に参加する機会を得て、貴重な体験となった。今後も少年団活動を通して、地域の環境を守り育てていく活動に主体的に取り組む児童を育てたい。（教員より）

実績報告とりまとめ表

実　施　時　期		7～3月	12～3月	計
事業量 又は 事業内容		愛媛県緑の少年団活動発表大会に係る業務	緑の少年団だよりに係る業務	
参加者数	県　内 県　外 計	約40人 0人 約40人	約120人 0人 約120人	約160人 0人 約160人
実　施　場　所		活動発表大会：録画形式で開催 （台風の影響により、対面開催から変更となった。）		

令和６年度　森林ボランティアリーダー養成講座

情報交流館ネットワーク
〒782-0078　高知県香美市土佐山田町大平 80 番地

1．活動の概要

森林環境学習や自然体験活動の指導者の養成及び、森林ボランティアとして森林整備の第一線で活躍するリーダーを養成するとともに、木育や木使いなど木材利用を通して、森に親しみを持ち、森林環境の重要性を普及啓発することの出来る人材を育成する。そして、この事業で生まれた森林ボランティアリーダーのネットワークを活かし、国民参加の森林づくり運動を推進する。

2．活動の成果

参加者の中から新たにボランティアリーダーとして登録される方、参加した講座を主催するボランティア団体に興味を持ち､団体に加入する方が多くみられました。又､同じ講座に参加した方々で、新たな同好会を発足させて活動を継続する動きも見られました。

ボランティアリーダーのスキルアップや団体活動のサポートを継続して行い、国民参加の森林づくり運動の推進により貢献出来る様にしていきます。

3．参加者の声

■素材として竹の可能性を感じました。
■木を削る楽しさを知ることができました。
■今まで自己流でしていたことが正しく理解でき、大変良かったです。
■山仕事は頭を使うと知りました。
■チェーンソーの便利さや難しさがたくさん見つけることができました。
■初めて薪割る体験しましたが、コツをつかむと楽しかったです。
■自然の中で、炭としいたけの勉強をさせていただいたことがとても良かったです。

実績報告とりまとめ表

実　施　時　期		令和６年９月２日から令和７年３月 17 日まで								
事　業　内　容	回数	７月	８月	９月	10月	12月	１月	２月	３月	合計
竹細工１日講座	２回	８人	８人							16 人
竹細工講座	１回			８人						８人
グリーンウッドワーク講座	２回			８人					５人	13 人
刈り払い機初心者講座	１回			４人						４人
竹のブランコづくり講座	１回				５人					５人
里山整備体験講座	２回				５人				７人	12 人
スウェーデントーチづくり講座	２回					６人		９人		15 人
薪作りと焚火講座	１回						９人			９人
里山暮らし体験講座	２回						８人			８人
参加者数　　計	15 回	８人	８人	20 人	10 人	６人	17 人	９人	12 人	90 人
実　施　場　所		高知県立森林研修センター情報交流館及び協定林								

宮崎県みどりの少年団総合研修大会

宮崎県みどりの少年団連盟
〒880-0804　宮崎市宮田町10番28号

1．活動の概要

みどりの少年団活動発表会や野外での行事を通して相互交流を図ることにより、緑や森林の重要性について理解を深め、自然を敬愛する情操豊かな青少年を育成するため、県内のみどりの少年団と育成会が一堂に会し、総合研修大会を実施した。

2．活動の成果

総合研修大会での活動発表会においては、各少年団の特色ある活動についての情報交換の場になると共に、キャンプファイヤーやグリーンアドベンチャーを通じて、各団との交流が図られた。

3．参加者の声

活動発表会では、他の団体の活動内容を知ることができ参考になった。また、活動発表者の話し方、発表態度、質問の受け答えがとても参考となった。

キャンプファイヤーでは、演じ物の発表などを通して、少年団や育成会の方々相互の交流を深めることができ楽しかった。

実績報告とりまとめ表

実　施　時　期		7月20日（土）～7月21日（日）	計
事業量 又は 事業内容		宮崎県みどりの少年団総合研修大会 参加少年団数　2団 活動発表会　　2団 屋外では、キャンプファイヤー及びグリーンアドベンチャーを実施	
参加者数		宮崎県みどりの少年団総合研修大会 少年団員32名、育成会等44名、 スタッフ24名　合計100名	100人
実　施　場　所		小林市ひなもり台県民ふれあいの森	

産学協同で取り組む「こどものけんちくがっこう」

NPO 法人 こどものけんちくがっこう
〒 890-0065　鹿児島市郡元 1-21-40

1．活動の概要

令和 6 年度は、小学 3 年生から中学生までを対象に、森林から木材、木造建築に関する座学と実習を織り交ぜた定期授業、夏休みに 2 日間で実際の建物を建設する夏期課外授業、遠隔でものづくりを行うオンライン授業を通年で実施した。定期授業は、SNS 等で公募を行い 50 名の生徒が通年で参加した。夏期課外授業は、SNS 等で公募を行い 21 名の生徒が参加した。オンライン授業は、岐阜市の学童クラス（20 名）を対象に行った。定期授業では、木材を用いた家具の製作など、ものづくりを中心とした授業と、森での森林環境教育や建設現場の見学を通した木材の利用方法についての授業を行なった。夏期課外授業は、阿蘇の茅葺き職人と共同で実施し、大小の茅葺きフォリーと茅の看板を制作した。オンライン授業では、近代建築を代表する住宅に関する座学と、その理念を用いた建築のデザインを行った。昨年度同様、授業に用いる模型キット等を事前に郵送し、授業当日は ZOOM で教室と学童をつなぎ、座学と工作を組み合わせた授業を行った。

2．活動の成果

様々な内容の授業を通年で実施することで、森林・木材・木造建築に関する子どもたちの理解を深めることができた。特に、工作と森や建設現場などでの実習を横断的に行うことで、手と頭で環境や資源、材料について主体的・体験的に学ぶ場を提供できたと感じている。また、木育イベントや地域の街おこしイベントへの出展などを通して、活動を広く発信することができた。今後も引き続き、授業内容の充実を図りながら継続的に活動を行っていきたい。

3．参加者の声

多様な授業内容について大きな反響を得た。特に、ものづくりによる学びの達成感について、充実の声が多く聞かれた。夏期課外授業で行った茅葺きでは、初めて触れる伝統的な建築技術に感動する生徒が多く、来年も実施してほしいと好評を得た。オンライン授業においても、建築に関する子ども向けの授業は例が少なく、良い機会になったと感想を得た。また、イベント出展によるワークショップ型の授業では、会場を訪れた子供たちが積極的に参加し、前向きな感想を得た。

実績報告とりまとめ表

実　施　時　期		月　日	計	備考
事業量 又は 事業内容	1）定期授業	1）7/6, 7/20, 10/5, 12/7, 12/21, 1/18, 4/19, 4/26, 5/17, 5/31, 6/21	1）11 日	
	2）夏期課外授業	2）7/27-28	2）2 日	
	3）オンライン定期授業	3）8/9	3）1 日	
参加者数	県　内 県　外 計	71 人 20 人 91 人	71 人 20 人 91 人	イベント参加者は約 200 名
実　施　場　所		県　　市・町		

国　際　交　流

国際林業研究機関連合第７部会　合同会議
森林における食葉性昆虫、侵入性害虫、
昆虫・病原菌の生物学的防除に取り組むための理論と実践　概要

国際林業研究機関連合（IUFRO）第７部会

本会議は国際林業研究機関連合（IUFRO）の森林の健康を扱う第７部会から、7.03.06 – 森林食葉性昆虫の総合防除、7.03.12 – 外来種と国際貿易、7.03.13 – 森林病虫害の生物防除の各専門委員会が合同で主催し、森林総合研究所が共催機関となって計画、実施した。我が国においては立て続けに木を枯らす外来カミキリムシが侵入し、その対応を苦慮している中で、世界の第一線の研究者が日本に集い、最先端の知見を共有することは、学問の発展および社会的に深い意義を持つとホスト国として開催することを決定した。現地参加者54名、オンライン参加者のべ9名で行われた。18か国からの参加があり、地理的な広がりを持つ会合となった。

8月21日午前中に受付を会議室前で行い、同日正午より役員によるビジネスミーティングを実施し、会議運営の座長の割り振りや今後のIUFRO内での委員交代を議論した。同日午後は森林総研の理事長とIUFROの外来種のグループの代表の挨拶の後、基調講演2件、口頭発表10件が行われた。基調講演はマニュエラ　ブランコ博士による欧州の落葉性昆虫に関するものと、シロマサツァパラ博士による地域および全球での外来種管理に関するもので、どちらの講演についても会場で多くの質疑により理解を深めた。口頭発表は欧州、北米、南米、アフリカ、アジアの各地域からの発表があり、バラエティ豊かな内容が、聞く人を引き付けた。

22日は浅草からバスで足利市に向かい、市内のクビアカツヤカミキリ・ナラ枯れ・松枯れ被害木を視察した後、足利学校に立ち寄った。里山にある織姫公園にある樹木被害を参加者は熱心に観察し、時間が不足したため、牛久でのツヤハダゴマダラカミキリの被害木視察はバスの中からとして、森林総合研究所に向かった。森林総研では、ディレクターによる研究所紹介と上地奈美博士による日本の外来カミキリムシ被害に関する基調講演を行った後、構内を2グループに分かれて視察した。視察は森の展示ルームや昆虫標本庫で、最後に樹木園を散策した。浅草に戻り、公式ディナーで親睦を深め、その後浅草の浅草寺付近を散歩しながら会場に戻った。

23日は1件の基調講演、11件の口頭発表、16件のポスター発表があった。基調講演はホアン　コーリー博士による侵略的外来種の被害をもたらすものと生物防除に関する講演で、モデル研究からの考察と共に、研究社会全体で取り組むべき課題を議論した。ポスター発表はコーヒーブレイク時と昼食時に説明と質疑が盛んに参加者間で行われた。この日も広く地域をまたがる参加者による口頭発表が行われ、著名な侵略的外来種のノクチリオキバチの近縁種の報告など、最新の知見が紹介された。IUFROの落葉性昆虫と生物防除の代表から終会の挨拶があり、申請者およびスポンサーへの謝意が述べられた。

参加者からの評判はとてもよく、多くのIUFRO関係会議に出席してきた参加者から、過去で最高の会議だったとの感想を得たときは、多くの支援者の結実を感じた。

アジア諸国での森づくり実践報告会

公益財団法人　オイスカ
〒168-0063　東京都杉並区和泉 2-17-5

1．活動の概要

「ネイチャーポジティブ」が、サステナビリティ関連テーマとして企業の関心を集める中、自然資本を保護するための国際的な枠組みの今日までの流れについての講演を、専門家を招いて実施するとともに、当法人が海外の各地で実施してきた植林事業について、現地での活動を支える企業団体の取り組みを、トークイベント形式で紹介する。

これにより、活動の意義や成果を参加者、視聴者に伝え、協働の輪を広げる。

2．活動の成果

日本の森林の歴史や森の機能、生物多様性への影響等について参加者の方に知ってもらうことで、森づくりや保全活動の意義について理解を促進することができた。また、協働企業の事例紹介を通じ、企業の社会貢献担当者として、森の恩恵を受けて生きている当事者として、一人ひとりに何が出来るかについて考えていただく機会とすることができた。

3．参加者の声

●地球温暖化防止や生物多様性保全の重要性、必要性を改めて考える機会になった
●他企業の取り組みを知る事ができ参考になった
●社会貢献などはアイデアも必要だと思うので、さまざまな情報をヒントに、柔軟な姿勢で考えていきたい
●日本の森林の状態の今昔や森林の多面的機能について参考になった

実績報告とりまとめ表

実　施　時　期		11 月 26 日	計
事業内容		講演会「『輪と和』が創るサステナブルな世界～日本企業が求められるネイチャーポジティブへの取り組み～」	
参加者数	県　内 県　外 計	76 人 74 人 150 人	76 人 74 人 150 人
実　施　場　所		東京都　中央区	

令和６年度「緑と水の森林ファンド」公募事業

普及啓発事業　76 件

番号	申 請 者	事業名	都道府県	採択額（千円）	実行額（千円）	備考
A1	くしろ木づなフェスティバル実行委員会	釧路森林資源活用円卓会議 15 周年 くしろ木づなフェスティバル２０２４	北海道	1,000	1,000	
A2	NPO 法人いきものいんく	未就学児が水環境と森林のはたらきについて学ぶ「どんぐり塾」の開講	北海道	212	212	
A3	青森県緑の少幼年団連盟	青少年への緑を通じた環境教育推進事業	青森	800	800	
A4	沖館地域緑の募金推進協力会	眺望山自然休養林を活用した健康増進活動	青森	175	175	
A5	一般社団法人ガールスカウト青森県連盟	2024_ 山へでかけよう！　in 津軽	青森	265	165	減額
A6	日本自然保育学会 第９回大会実行委員会	「自然保育と森林 ESD ～農林漁業とその恵みを活かす～」シンポジウム 及び関連事業	青森	700	695	減額
A7	岩手県立大野高等学校	里山整備に若いカを～きのこプロジェクト～	岩手	300	230	減額
A8	特定非営利活動法人 遠野エコネット	森フェス 2024 in 遠野	岩手	700	700	
A9	あきたグッド・トイ委員会	「木のおもちゃとあそび」木育推進プロジェクトⅡ	秋田	875	875	
A10	特定非営利活動法人 SCR	自然にふれよう　山のがっこう	宮城	434	406	
A11	置賜「地材地住」ネットワーク	地域材の利用拡大と木育の推進事業	山形	700	700	
A12	ガールスカウト 山形県連盟	フォレストサポート・2024	山形	300	300	
A13	公益社団法人 福島県森林・林業・緑化協会	第５０回福島県緑の少年団大会	福島	1,000	0	事業期間延長
A14	なか自然の会	手入れが必要なヒノキ林（那珂市有林）の保全整備と周辺の谷津田及び里山の環境保全事業	茨城	545	545	
A15	特定非営利活動法人 やみぞの森	地域材による木工技術の普及と木材利用の普及促進事業	茨城	800	800	
A16	くまの木里山応援団	高原山麓における森林の保全・再生活動と木材の利用に関する普及啓発	栃木	650	650	
A17	ぐんま森林インストラクター会	森はともだち 楽しくまなぼう 森友 学校	群馬	300	154	減額
A18	NPO 法人思いをつなぐ会	植物観察と水生生物観察を通した環境教育事業	群馬	480	480	
A19	ＮＰＯ法人木育・木づかいネット	学校における『木と森の SDGs』を推進する支援ツールの制作	埼玉	800	800	
A20	「森林・林業・山村問題を考える」シンポジウム実行委員会	シンポジゥム「広葉樹新時代！一変動する世界市場と国産材利用への道一」	東京	900	900	
A21	「森づくり政策」市民研究会	持続可能な社会の実現のために、森林と人・生き物との関わり方のこれからを考える連続講座・意見交換会	東京	850	850	
A22	特定非営利活動法人自然文化誌研究会	森林資源の活用と伝承を活かした森林環境教育	東京	390	390	
A23	一般社団法人 産業環境管理協会	森林・水の活用と保全の推進等に関するシンポジウム	東京	500	500	
A24	特定非営利活動法人 Peace Field Japan	大学生を対象とした森林環境教育プログラム	東京	368	368	
A25	一般社団法人 木のいえ一番協会	設計者等に対する木材・木質建材等の体験型セミナーの開催	東京	500	500	
A26	上智大学大学院 地球環境研究科	ソフィアの森の整備	東京	650	174	減額
A27	Tokyo ひとふで	Tokyo ひとふで	東京	800	750	減額
A28	特定非営利活動法人 子どもの森づくり推進ネットワーク	「こどもの森づくり in SAITAMA」レガシィづくりプロジェクト	東京	700	434	減額
A29	公益財団法人 Save Earth Foundation	「森から学ぶ」～森林生態系サービスについて学ぶ～	東京	900	900	
A30	International society of Nature and Forest Medcine（INFOM）	「医師と歩く森林セラピーロード」	東京	700	700	
A31	一般社団法人　TOBUSA	「つくって、つながる」木の魅力発見プログラム 2024	東京	300	0	事業期間延長

A32	NPO 法人くにたち農園の会	身近な森林で自然遊びを体験し、森への関心を深めよう	東京	800	800	
A33	ヨーデル北川桜とエーデルワイスムジカンテン	100 年先もずっと・・「緑と森と森林コンサート vol2」森と人・心と暮らしを通わせる一日	東京	560	470	減額
A34	秩父 FOREST	開発跡地を拠点に、都市と秩父の次世代の交流促進活動～旧野外センター跡地を活用した森づくり活動２～	東京	905	450	事業期間延長
A35	特定非営利活動法人森づくりフォーラム	森づくり体験による森林・林業に関する普及啓発と、森づくり団体の活動支援事業	東京	900	900	
A36	認定 NPO 法人 FoE Japan	森林減少ゼロに資するフェアウッド利用検討会	東京	900	811	減額
A37	玉川大学教育学部仁藤研究室	2024 森のがっこう～視たり・聴いたり・触ったり、五感を感じる自然体験プロジェクト～	東京	800	800	
A38	一般社団法人　全国森の循環推進協議会	「水が繋ぐ地域と世代」促進事業　森と水のまつり・影祭り	神奈川	700	150	減額
A39	第４０回全国削ろう会秦野大会招致・実行委員会	第４０回全国削ろう会秦野大会	神奈川	700	0	事業期間延長
A40	ＮＰＯ法人バンブーセーブジアース	地域の竹林保全啓蒙活動：とやまの竹の祭典	富山	600	600	
A41	さとやま子育てコミュニティいけだのそら	地域の自然を未来につなげていく体験活動	福井	270	270	
A42	のいちご会	木のおもちゃひろばであそぼう 森の力を学ぼう	長野	550	550	
A43	全国木のまちサミット 2024 in ひがししらかわ実行委員会	第８回全国木のまちサミット 2024in ひがししらかわ	岐阜	700	700	
A44	（一社）いび森のようちえんこだぬき	森の輪ひろば	岐阜	300	300	
A45	一般社団法人 こどもの庭	里山の生き物講座～ぼくらがいきものを探す理由～	岐阜	300	0	事業辞退
A46	伊深まちづくり協議会	地域材活用のための体験講座	岐阜	490	490	
A47	MORI・IKU	第８回森まる（もりまる）～森をまるっと楽しもう！～	静岡	781	781	
A48	公益社団法人静岡県林業会議所	子供たちによる子供たちのための里山整備	静岡	800	630	減額
A49	特定非営利活動法人 水とみどりを愛する会	小学校授業での森林体験学習	愛知	601	520	減額
A50	「三重の木の椅子展」実行委員会	「三重の木の椅子展 4」開催事業	三重	655	655	
A51	特定非営利活動法人赤目の里山を育てる会	住民自治組織と里山保全の先達との協働による「第二次里山保全運動」のキックオフ事業	三重	600	446	減額
A52	特定非営利活動法人 京都森林・木材塾	地域産木材利用促進啓発事業	京都	250	250	
A53	一般社団法人 森のようちえんどろんこ園	地域子育て支援フォレストコミュニティ	京都	400	400	
A54	特定非営利活動法人自然と緑	特定非営利活動法人自然と緑「自然大学」	大阪	520	488	減額
A55	NPO 法人 サウンドウッズ	森とまちをっなぐ木材コーディネーターによる「木つかい社会」定着のための普及啓発活動	兵庫	1,000	1,000	
A56	特定非営利活動法人棚田 LOVERS	昨年リーダーとなった子どもとともに薪割り、自然観察、料理、森林づくり等を通じた森林空間利用の促進を図るための普及啓発活動	兵庫	700	350	事業期間延長
A57	奈良教育大学附属中学校裏山クラブ	森林生態系から身近な自然を学ぶ ESD ワークショップ～奈良県の森林 ESD の推進に向けた次世代インタープリターの養成～	奈良	700	700	
A58	奈良こども自然フェスタ実行委員会	奈良こども自然フェスタ（仮）	奈良	654	414	減額
A59	うみの森こどもひろば	うみの森おやこひろば	奈良	300	299	減額
A60	公益社団法人 島根県緑化推進委員会	保育園・幼稚園等における森林環境教育の推進（継続）	島根	700	700	
A61	特定非営利活動法人 隠岐しぜんむら	森林を活用した自然体験活動	島根	300	300	
A62	桜本美林を守る会	里山再生ワークショップ	島根	500	500	
A63	NPO 法人倭文の郷	里山保全の普及啓発	岡山	218	218	
A64	特定非営利活動法人ひろしま自然学校	デジ・ファブ（デジタル・ファブリケーション）を活用した里山保全活動と森林環境教育の推進	広島	630	630	
A65	NPO 法人ひろしま人と樹の会	林間学校プロジェクト事業	広島	800	800	
A66	とくしま木づかい県民会議	「とくしま木づかいフェア 2024」の開催	徳島	800	800	
A67	特定非営利活動法人 徳島県森の案内人ネットワーク	少年少女里山マイスター養成講座	徳島	500	500	

A68	ひょうたん島まちなか再生機構	まちの縁が輪での住育プロジェクト（継続）	徳島	450	450	
A69	八西林業研究グループ	森林体験教室	愛媛	615	0	事業期間延長
A70	特定非営利活動法人山村塾	いろいろな生き物と共存する森づくり	福岡	589	176	減額
A71	特定非営利活動法人森林をつくろう	森林のソムリエ育成プロジェクト	佐賀	487	0	事業辞退
A72	天草ヒノキプロジェクト	温泉施設と連携して行う地域材の普及啓発事業「お風呂で天草森林浴フェア」	熊本	800	800	
A73	片野里山保存会	片野集落周辺の荒廃里山の整備、保存	大分	500	240	減額
A74	NPO 法人 九州森林ネットワーク	第 29 回九州森林フォーラム in 福岡 ～森林環境税を見える化する～	宮崎	900	900	
A75	特定非営利活動法人 もりびと	健全な森のサイクルに貢献する「木づかい」事業	鹿児島	846	846	
A76	鹿児島県森林ボランティア連絡会	日本三大砂丘「吹上浜」の白砂青松再生事業～「森林ボランティアの日」森林づくり活動～	鹿児島	1,000	1,000	

調査研究事業　18 件

番号	申 請 者	事業名	都道府県	採択額（千円）	実行額（千円）	備考
B1	札幌大谷大学短期大学部	森のようちえんの安全管理に関する実態調査	北海道	600	523	減額
B2	個人		北海道	450	311	減額
B3	個人	沼田産イタヤカエデ樹液の商品化を通した観光振興に関する研究開発	北海道	450	450	
B4	名寄市立大学（個人）	自然保育における森林・自然等の活用の理論・方法論に関する調査研究	北海道	600	410	計画変更
B5	早稲田大学人間科学部	能登半島地震により崩壊した社会インフラストラクチャーの代替としての森林生態系サービスの評価―能登半島の中山間地域を対象として―	埼玉	400	362	
B6	一般社団法人　全国森林レクリエーション協会	学校教育における森林空間を活用した教育プログラムの実施のためのアクティビティ集の作成	東京	700	700	
B7	上智大学地球環境学研究科（個人）	マングローブ植物の特性に関する調査	東京	350	326	減額
B8	東京大学大学院農学生命科学研究科	森林サービス産業が地域社会に及ぼす経済・社会的影響の把握と発展可能性に関する調査研究	東京	370	340	減額
B9	一般財団法人 林業経済研究所	森林系「自然共生サイト」の類型化とサイトにおける人工林管理の実態把握	東京	800	800	
B10	特定非営利活動法人日本森林保健学会	高齢化の進む山村地域の有用植物に関する新たな活用・普及方法及び森林空間利用の調査研究	東京	800	782	
B11	特定非営利活動法人木の建築フォラム	地域材利用拡大に向けた環境指標整備のための調査研究	東京	550	550	減額
B12	公益社団法人森林・自然環境技術教育研究センター	ECO-DRR による森林グリーンインフラ整備の推進	東京	700	700	
B13	鶴見大学短期大学部	自然保育者の養成カリキュラムと社会化に関する研究	神奈川	700	643	減額
B14	特定非営利活動法人コミュニティねっとわーく高島	手つかずの河辺林を市民の森にするための基礎調査	滋賀	475	367	減額
B15	ファーストステップ	里山未利用資源用途開拓事業	広島	700	700	
B16	五木村山村活性化協議会	五木村における小さな林業の実現に向けた可能性調査	熊本	700	700	
B17	一般社団法人　NATURE&HUMANS JAPAN	森林資源である薬草活用の可能性調査と試験的栽培	熊本	650	0	事業期間延長
B18	鹿児島大学農学部	木育推進の条件整備に関する調査研究：学校林の活用及び社会教育に着目して	鹿児島	800	800	

基盤整備事業　27 件

番号	申 請 者	事業名	都道府県	採択額（千円）	実行額（千円）	備考
C1	沼田どってこどってこ	修学旅行生対象の民泊事業における林業六次化体験の提供	北海道	308	308	
C2	階上売り込み隊	緑の少年団支援事業	青森	121	121	
C3	学校法人 尚絅学院	森でコミュニケーションしよう「里山再生プロジェクト」	宮城	450	450	

C4	東北農林専門職大学森林業経営学科	「東北農林専門職大学（TPUAF）の森（最上・甑山番楽の森、肘折・地蔵倉の森、西蔵王・竜山の森：いずれも仮称）」の整備	山形	650	0	事業辞退
C5	八丁目城跡周辺整備協議会	八丁目城跡の森林整備と伐採樹木の活用事業	福島	350	350	
C6	宇都宮大学　農学部　西山研究室	里山キャンパス益子家「大平の森」協働プロジェクト	栃木	480	395	減額
C7	子ども樹木博士認定活動推進協議会	子ども樹木博士認定活動支援のためのネットワーク活動の展開による森林 ESD の推進	東京	800	800	
C8	モリダス	安全で楽しい里山保全活動を指導できるリーダー養成事業	東京	660	660	
C9	特定非営利活動法人山の自然学クラブ	気仙沼市沿岸部の在来植物を活用した屋敷林と海岸植生再生活動	東京	750	200	事業期間延長
C10	NOTO にじのひかり	能登における縄文的災害復興	石川	700	699	
C11	伊自良の里・食と農推進協議会	いじら・さとやま遊歩道プロジェクト	福井	690	690	
C12	ぎふ森 遊びと育ちネットワーク	ぎふ木育研修会	岐阜	509	509	
C13	NPO 法人森を再生する会	人と自然が共生する里山づくり事業	愛知	619	619	
C14	一般社団法人ピカソプロジェクト	ピカソのもり～命を育む森林でのフィールドワーク活動	大阪	700	700	
C15	奈良県森林ボランティア連絡協議会	陀羅尼助（だらにすけ）の郷で森林づくり in 天川村洞川 Part 5	奈良	520	362	減額
C16	NPO 法人山野草の里づくりの会	『里山保全ボランティア養成講座 in 山野草の里』の開催	奈良	500	500	
C17	和歌山県みどりの少年団連盟	都市と山村みどりの少年団交流集会	和歌山	1,000	1,000	
C18	ひろしま自然保育推進協議会	次世代を育むひろしま自然保育勉強会	広島	675	317	減額
C19	森林ボランティア団体 もりゆう	自然保育者養成＆足元から始める自然理解＆整備～流域地図～	広島	665	285	減額
C20	山内自治振興区	『やまの家』先人の知恵を未来につなぐ体験事業	広島	700	489	減額
C21	やしろの杜を楽しむ会	水源地周辺の里山の整備	山口	294	252	減額
C22	緑の少年団愛媛県連盟	緑の少年団活動発表大会開催事業	愛媛	700	700	
C23	情報交流館ネットワーク	令和 6 年度森林ボランティアリーダー養成講座	高知	600	480	減額
C24	妙音山を守る会	妙音山森林自然公園を含む周辺荒廃里山の自然回帰整備作業	大分	500	240	減額
C25	宮崎県みどりの少年団連盟	宮崎県みどりの少年団総合研修大会	宮崎	700	700	
C26	NPO 法人 こどものけんちくがっこう	産学協同で取り組む「こどものけんちくがっこう」	鹿児島	1,000	1,000	
C27	「屋久島の森と生きる」協議会	屋久島森林・林業を体験する交流活動	鹿児島	515	0	事業辞退

国際交流事業　２件

番号	申 請 者	事業名	都道府県	採択額（千円）	実行額（千円）	備考
D1	IUFRO 第 7 部会	国際林業研究機関連合 IUFRO 第 7 部会合同会議 「森林における食葉性昆虫、侵入性害虫、昆虫・病原菌の生物学的防除に取り組むための理論と実践」	茨城	1,000	1,000	
D2	公益財団法人　オイスカ	アジア諸国での森づくり実践報告会	東京	1,000	1,000	

令　和　６　年　度

「緑と水の森林ファンド」

公募事業募集要領

公益社団法人　国土緑化推進機構

〒102-0093 東京都千代田区平河町 2-7-4 砂防会館別館（B 棟 5F）

TEL 03-3262-8457　FAX 03-3264-3974

令和６年度「緑と水の森林ファンド」公募事業募集要領

はじめに

社会環境の変化に伴い、国民の森林・みどりに対する関心はますます高まっており、具体的な「国民参加の森林づくり運動」を一層推進することが課題となっています。

また、持続可能な開発目標（SDGs）の達成や人生 100 年時代におけるライフステージに応じた健康・教育・観光等への森林空間利用の促進を念頭に、森林の重要性に対する理解の推進を図るとともに、森のようちえんなど新たな森林の利用や森林環境教育の推進を具体的に図っていくことが重要となっています。さらに、東日本大震災では海岸林が多大な被害を受け森林復興への支援が引き続き求められています。

このような中、公益社団法人国土緑化推進機構では、「緑と水の森林ファンド」の基本課題である森林資源の整備及びこれらを通じた水資源のかん養や森林の利用等に関する総合的な調査研究、普及啓発、基盤整備等の推進を図るため、幅広い民間団体の参加による国民運動として展開することを目的に、「緑と水の森林ファンド」公募事業を実施します。

以下に定める事項に基づき申請して下さい。

「緑と水の森林ファンド」公募事業による助成は、以下の重点項目に沿った４分野（普及啓発、調査研究、活動基盤の整備、国際交流）の事業に対し、重点的に助成を行うこととします。

≪重点項目≫

1　人生 100 年時代におけるライフステージに応じた森林空間利用の促進

2　「緑や水」「森林と木材の利用」「震災復興支援」など森林に関する総合的・効果的な普及啓発

3　地域材の利用推進等山村資源の有効活用等による山村地域の活性化

4　リーダーの養成、森づくり活動における安全確保、ネットワーク形成支援等による森林ボランティア活動支援

5　学校林活動など森林 ESD（森林環境教育）の促進や緑の少年団活動支援、中高等教育との連携等による次世代の育成

6　森林の公益的機能、持続的な森林づくり等に関する研究

［１］助成対象者

(1)民間の非営利団体（次の①又は②のいずれかに該当する団体や地域の自主的な活動組織）

①「特定非営利活動促進法」（平成１０年法律第７号）に基づく特定非営利活動法人

②以下のすべての要件を満たす団体等

ア　規約等により適正な運営が行われることが確実であると認められること。規約等には、名称、事務所、会員、役員の構成、事業運営、会計年度等について規定されていること。

イ　営利を目的としないこと。

(2)非営利の法人

(3)個人（調査研究に限る。）

［２］助成対象事業

１　普及啓発

(1) 人生 100 年時代におけるライフステージに応じた森林空間利用の促進を図るための普及啓発活動

(2) 「緑や水」「森林と木材の利用」「震災復興支援」など森林の総合的利用の促進

(3) 青少年を対象とする森林 ESD の推進（森のようちえんを含む）など森林環境教育の促進

(4) 地域材の利用促進・木材需要の拡大等の山村地域の活性化・地域づくり運動の推進

２　調査研究

(1) 森林の保全・公益的機能の増進等に関する調査研究

(2) 青少年を対象とする森林 ESD の推進（森のようちえんを含む）など森林環境教育に関する調査研究

(3) 学校林や学校周辺森林の教育的活用のための調査研究

(4) 山村資源の有効活用・地場産業の振興等山村地域活性化に関する調査研究

３　活動基盤の整備

(1) 森林 ESD の推進（森のようちえんを含む）や緑の少年団活動など森林ボランティアリーダーの養成・ネットワーク形成等の活動支援

(2) 森林づくり活動を通じた農山村と都市住民等との交流促進・山村地域活動支援

(3) 青少年の教育、中高等教育との連携の場としての森林の活用促進

(4) 地域のシンボル的森林の利用促進

４　国際交流

(1) 国内で開催される森林に関する国際会議への支援

(2) 森林・林業に関する海外との情報交換

ただし、次の各号の１つに該当する場合は、助成の対象となりません。

①　専ら特定の事業者の利益のために行われるもの

②　他の団体等への資金の助成等を内容とするもの

③　事業が申請者の負担において行うべきものと認められるもの

④　事業内容が一般に広く波及効果があると認められないもの

⑤　事業が自主的・組織的な活動と認められず、適切に完遂できると認められないもの

［３］事業期間

令和６年７月１日から令和７年６月３０日まで

［４］助成対象経費

（１）助成の対象となる経費は、次のとおりです。

項　　目	区　　分	摘　　要
講師・指導者・学識経験者への謝金等	謝　金　等	外部からの招請者に限る。 （旅費：実費、宿泊費：ビジネスホテル程度。）
調　査　研　究　費	労　賃　等	外部の技術者等（旅費実費・宿泊費ビジネス）
会　　場　　費	借　上　料	設営費を含む。

事　務　費	用　品　費	
	印　刷　費	報告書・パンフ・チラシの作成
	通　信　費	
	そ　の　他	
資　材　費	器具・用具代	購入（事業実施に必要な簡易なもの）、借上げ
森林づくり活動等のボランティア活動	受入れ施設費	公共施設等を宿舎として一括借上げる場合の宿泊費
	交　通　費	事業場所最寄り(公共交通の最終地点)の集合・解散場所から事業場所までの交通実費(チャーター料等)
	保　険　料	ボランティア等傷害保険料

（２）助成の対象とならないもの

①食糧等飲食費。

②汎用性があり資産の形成につながる資材の購入。

③森林ボランティア活動の　ア　労賃

イ　ホテル、旅館、厚生施設等の宿泊費

ウ　居住地から事業場所最寄り（公共交通の最終地点）の集合・解散場所までの交通費

［５］助成金の限度

団体１００万円、個人７０万円

［６］応募方法（助成申請書の提出）

申請者は、［様式１］「緑と水の森林ファンド」公募事業助成申請書を（公社）国土緑化推進機構へ**メール**または**郵送**して下さい(印略等の表記があれば印なしでも可)。

［送付先］（郵送）公益社団法人　国土緑化推進機構　基金業務部あて

〒102-0093 東京都千代田区平河町 2-7-4 砂防会館別館（Ｂ棟５Ｆ）

TEL 03-3262-8457　FAX 03-3264-3974

（メール）forest@green.or.jp

（メールの件名は、「【公募申請】団体名」としてください。）

（HP）https://www.green.or.jp

［７］募集期間

令和６年２月１日から令和６年３月１５日まで（郵送の場合は同日消印有効）とします。

［８］助成申請書に対する採択・不採択の決定及び通知

助成申請書に対する採択・不採択については、森林ファンド業務検討会及び森林ファンド運営審議会の審議並びに当機構の理事会を経て決定します。

また、助成金額は、その適正な交付を行うため、当機構理事長が当該助成申請書を審査して決定し、７月上旬申請者に［様式２］により通知します。

［９］実績報告書等の提出

事業採択を受けた申請者は、事業の開始前に「別紙１」のスケジュール表を提出して下さい。

また、事業完了後２ヶ月以内に［様式３］の「緑と水の森林ファンド」公募事業実績報告書と「別紙２」の報告要旨を当機構に提出して下さい。

なお、［別紙２］の報告要旨は、報告集として取りまとめ公表しますので、電子データでの提出もお願いします。

［１０］領収書の添付

実績報告書の提出に当たっては、同報告書の２決算報告(2)の支出欄の森林ファンド助成金支出内訳の決算額に対する領収書（明細書を含む。）を添付して下さい。

［１１］助成金の交付

(1) 助成金の交付は、事業実績報告書を助成申請書の事業計画等に即して審査を行い、適当と認めた経費を確定し、その旨を通知した後、指定の口座に送金します。

(2) 事業着手後に助成金の一部が必要な場合は、助成交付決定額の１／２以内の額を［様式４］により、概算請求をすることができます。

［１２］問い合わせ

公益社団法人　国土緑化推進機構　基金業務部

〒102-0093 東京都千代田区平河町 2-7-4 砂防会館別館（Ｂ棟５Ｆ）

TEL 03-3262-8457　FAX 03-3264-3974

Mail　forest@green.or.jp

（メールの件名は、「【公募問い合わせ】団体名」としてください。）

「緑と水の森林ファンド」公募事業　報告集　Vol.16

令和 8 年 3月発行

発行　公益社団法人　国土緑化推進機構

〒102-0093　東京都千代田区平河町2-7-4 砂防会館別館
TEL.03-6362-8457　FAX.03-3264-3974
電子メールアドレス：info@green.or.jp
URL：https://www.green.or.jp

緑と水の森林ファンド

公益社団法人静岡県林業会議所
子供たちによる子供たちのための里山整備（静岡県）

公益社団法人　国土緑化推進機構

VEGETABLE OIL INK

古紙パルプ配合率70％再生紙を使用